

授業科目名： 幼児と健康 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 矢野 潔子、入谷 仁士、 末永 祐介／山津 幸司
			担当形態： クラス分け・オムニバス／単 独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・ 健康		
授業の到達目標及びテーマ			
1. 領域「健康」のねらい、内容、全体構造を理解する。			
2. 領域「健康」の指導上の留意点を理解し、適切な指導能力を習得する。			
3. 領域「健康」の指導について、小学校教育とのつながりを理解する。			
4. 領域「健康」の指導と幼児期運動指針の関連性を理解する。			
授業の概要			
講義形式で行う。発育、遊び、生活習慣、体力づくり、スポーツ、安全能力の指導（防災を含む）など、乳幼児の健康に関するテーマ・知見について、受講者の調査・発表、および全体討論を中心に進めていく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、領域「健康」のねらいと内容（矢野 潔子、入谷 仁士、末永 祐介／山津 幸司）			
第2回：乳幼児期の健康課題と健康の発達の意味の理解（矢野 潔子、入谷 仁士、末永 祐介／山津 幸司）			
第3回：乳幼児期の心身と運動の発達（末永 祐介／山津 幸司）			
第4回：子供が進んで動こうとするための保育者のかかわり（末永 祐介／山津 幸司）			
第5回：乳幼児期の健康で基本的な生活習慣の理解（矢野 潔子、入谷 仁士／山津 幸司）			
第6回：乳幼児の安全能力と怪我や病気の予防の特徴の理解（矢野 潔子、入谷 仁士／山津 幸司）			
第7回：指導における環境づくりの重要性（矢野 潔子、入谷 仁士、末永 祐介／山津 幸司）			
第8回：まとめ、領域「健康」の指導と小学校教育への接続（矢野 潔子、入谷 仁士、末永 祐介／山津 幸司）			
定期試験なし			
テキスト			
文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018）			

文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月」フレーベル館 (2018)

参考書・参考資料等

幼児期運動指針 (文部科学省 平成 24 年 3 月)

https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319771.htm

学生に対する評価

レポート (50%) と複数回の小テスト (50%) で、本授業における習熟度を評価する。

授業科目名： 幼児と人間関係 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 藤田 豊／名倉 一美
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・ 人間関係		
授業の到達目標及びテーマ 幼児の人間関係の発達や学びの過程を理解する			
授業の概要 ・ 幼児期の社会性の発達特性について、0 歳から 6 歳にかけての変化過程を理解する。 ・ 幼児の人との関わりの特徴や、個々の多様な実態について、多面的に理解する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 保育内容「人間関係」領域の位置づけ 第2回：幼児期の社会性の発達：共同注意、アタッチメント形成 第3回：幼児期の社会性の発達：自我の芽生え 第4回：幼児期の社会性の発達：自己理解と他者理解 葛藤体験 第5回：幼児期の遊びの発達 第6回：人間関係の発達に困難を抱える幼児 第7回：幼児の多様な他者とのかかわり（家族、地域の人、外国にルーツをもつ幼児） 第8回：まとめ 定期試験なし			
テキスト 適宜プリントを配布する。			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
学生に対する評価 毎時行う各講義内課題（ワーク及びミニレポート）にて評価する(100%)			

授業科目名： 幼児と環境 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤田 豊、吉村 昇／岡島 俊哉
			担当形態： クラス分け・複数（藤田、吉 村）／単独（岡島）
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・環境		
授業のテーマ及び到達目標			
①「環境」という文字が意味することを探求する。 （例）身近な「環境」に親しむ。自然と触れ合う、発見を楽しむ。事象に興味・関心を持つ。 自分から「環境」と関わりをつくる。生活に取り入れる。物の性質や数量、文字などに関する 感覚を豊かにする。			
②「環境」という視点を基盤に、「子ども」と「大人」の違い、関わりを探求する。			
③子どもの周辺の「（自然や、（心）、社会あるいは物などの）環境要素」の存在と有様が子 どもの成長や発達にどのように関わってくるか、自分の見方や考え方を形成する。			
④子どもが様々な「環境」に接する（接した）とき、どのように認識が起こり、思考が始まり 、そして展開されるか、について自分の見方や考え方を形成する。			
授業の概要			
特に幼少期から年長期にかけての子どもの学びに関する「環境」の視点について講義を行い、 「環境」という要素を中心に据えて、他要素（健康、言葉、人間関係、表現）との関わ合いも 意識しながら、子どもを観る視点の枠組みを創る。			
授業計画			
毎回の内容に関して、基礎知識とアンダーラインで示す語句を身につけるための技能を学ぶ。			
第1回：自然に <u>触れて生活する</u> 。自然の <u>大きさ、美しさ、不思議さに気付く</u> （1） ～地球領域～			
第2回：自然に <u>触れて生活する</u> 。自然の <u>大きさ、美しさ、不思議さに気付く</u> （2） ～生命領域～			
第3回：様々な物に触れる、その性質やしぐみに <u>興味・関心を持つ</u> 。			
第4回：自然や人間の生活の変化の <u>季節感に気付く</u> 。			
第5回：身近な事象に <u>関心を持つ</u> 。 <u>遊びに取り入れる</u> 。			
第6回：動植物に <u>親しみを感ずる</u> 、 <u>接する</u> 。			
第7回：生命の <u>尊さに気付く</u> 。対象を <u>労わる</u> 。 <u>大切に</u> にする。			
第8回：身近な <u>物を大切に</u> にする。 <u>扱う</u> （1） ～“大切に”という感情の生まれ～			
第9回：身近な <u>物を大切に</u> にする。 <u>扱う</u> （2） ～“扱う”しぐさ～			
第10回： <u>物や道具に興味を持つ</u> 。 <u>関わる</u> 。 <u>試す</u> 。 <u>考える</u> 。 <u>工夫する</u> 。 <u>遊びに取り入れる</u> 。			

第11回：数量、図形に関心を持つ。

第12回：絵、図、標識、文字などに関心を持つ。

第13回：生活に関する情報に興味・関心を持つ。

第14回：施設などに関心を持つ。 施設などで関心を持つ。

第15回：旗や国旗に親しむ（行事との関わりにおいて）

定期試験

テキスト

文部科学省「幼稚園教育要領（平成29年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」フレーベル館（2018）

幼稚園教育要領の改定についてより抜粋（文部科学省 平成29年7月）

（<http://seiganomori.hoikuen.to/wp/wp-content/uploads/2019/10/8.pdf>）

参考書・参考資料等

適宜、資料配布あるいは資料閲覧指示を行う。

学生に対する評価

毎回の課題（感想文を含む）で評価する。記憶しておくべき語句とその定義については小テストする。

課題（感想文を含む）の内容について、学生が、自身の思考の基準を主体的に・自律的に向上させているか、という点（特に、“自己生成”および“感情化”という観点）を重視する。

授業科目名： 幼児と言葉 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 1 単位		担当教員名： 藤田 豊／竜田 徹	
						担当形態： クラス分け・単独	
科 目		領域及び保育内容の指導法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		領域に関する専門的事項 ・ 言葉					
授業のテーマ及び到達目標 保育内容における「言葉」の役割を理解する。							
授業の概要 受講者全員で幼稚園教育要領とテキストを読み進めながら保育内容における「言葉」の役割を考察する。							
授業計画 第1回：保育における言葉の役割を理解する 第2回：0歳～3歳児未満の言葉とその発達を理解する 第3回：3歳～5歳児未満の言葉とその発達を理解する 第4回：5歳児～1年生の言葉とその発達を理解する 第5回：幼児期の言葉の発達に向けた保育者の役割を理解する 第6回：言葉を育てる児童文化財の種類や役割を理解する 第7回：絵本を対象とした教材研究に取り組む 第8回：教材研究の成果を発表する 定期試験なし							
テキスト ・ 文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018） ・ 文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月」フレーベル館（2018） ・ 『令和 5 年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』チャイルド本社、2024 年』チャイルド本社、2017年 ・ 近藤幹生・寶川雅子・源証香・小谷宣路・瀧口優『改訂2版 実践につなぐことばと保育』ひとなる書房、2019年 ・ 岡本夏木『幼児期』岩波書店、2005年							
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する							
学生に対する評価 授業への参加（討論・発表）とレポートによる							

授業科目名： 幼児と表現Ⅰ 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山崎 浩隆／荒巻 治美 担当形態： クラス分け・単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・表現		
授業のテーマ及び到達目標 幼児の生活環境における音や音楽的な事象や事柄に気付かせ、それに対する感性と、 幼児の表現に関する知識を身に付け、自ら気づけるようになることを目的とする。実際の幼児の活動実践の分析や基本的な音楽的な活動を通して、幼児と音楽表現の関連を理解する。			
授業の概要 幼児の表現における音楽の位置や意味を理解したり、そのために必要な表現媒体などを追及したりする。「表現とは何か」という問いのもとに、学生にアクティブなグループディスカッションや探究的な活動を通して幼児期における表現体験とその本質について考察する。			
授業計画 第1回：幼児の音楽的活動 第2回：音楽的活動と他領域との関係 第3回：表現活動の展開－聞くこと－ 第4回：表現活動の展開－身体の動き－ 第5回：表現活動の展開－歌うこと－ 第6回：表現活動の展開－楽器を弾くこと－ 第7回：表現活動の展開－即興表現－ 第8回：幼児の音楽表現指導の在り方 定期試験なし			
テキスト 文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月」フレーベル館（2018） 保育所保育指針（厚生労働省 平成 2 9 年告示）			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領解説（文部科学省 平成 3 0 年 2 月） 保育所保育指針解説（厚生労働省 平成 3 0 年 2 月）			
学生に対する評価 レポートと講義への取り組み状況、複数回の小テストで習熟度を判断する。			

授業科目名：幼児と表現Ⅱ 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 喜久山 悟／栗山 裕至 担当形態： クラス分け・単独
科 目	領域および保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・ 表現		
授業のテーマ及び到達目標 領域「表現」における造形的内容について、そのねらいと内容を理解する。また、初等教育とのつながりについて理解する。			
授業の概要 講義形式で行う。幼児の発達に伴う造形的な遊びや表現の変化、表現のための適切な環境構成や支援のあり方について、適宜ビデオ視聴を行いながら進めていく。			
授業計画 第1回：初回ガイダンス（本科目のねらいと内容） 第2回：表現と感性をめぐって 第3回：創造性と身体感覚、造形の発達 第4回：幼児の心身の発達と描画の特徴 第5回：幼児の心身の発達と立体表現の特徴 第6回：表現を育てる環境 第7回：教育課程における表現の位置づけ 第8回：まとめ、領域「表現」の指導・支援と初等教育への接続 定期試験なし			
テキスト 文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月」フレーベル館（2018）			
参考書・参考資料等 適宜資料配布を行う			
学生に対する評価 複数回の小レポートで評価を行う。			

授業科目名： 保育内容（健康） 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 末永 祐介／松山 郁夫 担当形態： クラス分け・単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
授業のテーマ：乳幼児の保育内容（健康）の全般について学び、その理解を深めること。 到達目標：乳幼児を取り巻く環境に関心を持ちながら、乳幼児における健康、心身・運動・生活習慣の発達、遊びの意義を捉え、指導のあり方を学習し、これらについて説明できるようになること。			
授業の概要			
現代の乳幼児が置かれている社会状況を捉えながら、生涯に亘る健康の基礎となる乳幼児期の心身の成長や発達に関する理解を深める。主に講義形式で行うが、乳幼児期の健康に対する支援のあり方については教材研究、指導案作成、模擬保育等を通して検討する。			
授業計画			
第1回：乳幼児の健康の意義 第2回：乳幼児の基本的生活習慣とその獲得 第3回：乳幼児の身体と生理的機能の成長と発達 第4回：乳幼児の知的機能・運動機能とその発達 第5回：乳幼児の情緒・パーソナリティとその発達 第6回：乳幼児における遊びの意義・遊びと健康に関する教材研究 タブレット等の情報機器を使って、絵を描いたり花の名前を調べたりして、幼児の学びの広げ方について学ぶ。 第7回：乳幼児における健康の内容・指導案の作成と指導：保育の計画・評価 第8回：乳幼児における健康の内容・指導案の作成と指導：模擬保育			
定期試験			
テキスト			
文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月」フレーベル館（2018） 毎回の授業において講義の関連資料を配布します。			
参考書・参考資料等			
保育内容（健康）：無藤 隆（監修），松寄 洋子（著，編集）北大路書房（2025） 障害のある子どもの保育・教育（小竹利夫・芳野正昭等編著）建帛社（2020）			

幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成29年内閣府・文部科学省・厚生労働省告示)

学生に対する評価

定期試験で到達目標に関する習熟度で評価します(100%)。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：
保育内容（環境）	必修科目	1 単位	田口 浩継／余公 敏子
【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】			担当形態： クラス分け・単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1 幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を説明できる。 (1) 幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を説明できる。 (2) 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を説明できる。 (3) 幼児教育における評価の考え方を説明することができる。 (4) 領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科・領域とのつながりを説明することができる。 2 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を説明することができる。 (1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を説明することができる。 (2) 領域「環境」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育環境に活用することができる。 (3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 (4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を説明することができる。 (5) 領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことの重要性が説明できる。			
授業の概要			
1 現代の幼児を取り巻く環境や幼児と環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容の理解を深める。 2 幼児の発達に即して、深い学びが実現する過程を踏まえて領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。			

授業計画

第1回：幼児教育の基本と保育内容「環境」

- ・保育内容の基本的な構造と領域「環境」のねらい、内容について

第2回：子どもの発達と領域「環境」

- ・幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際について

第3回：領域「環境」のねらい、内容の展開の実際（園内活動）

- ・園内で行われる幼児の遊びや活動の事例から（視聴覚教材活用）

第4回：領域「環境」のねらい、内容の展開の実際（園外活動）

- ・園外で行われる身近な施設や情報に関わる活動の事例から（視聴覚教材活用）

第5回：標識、文字等に関わる保育の実際と小学校以降のかかわり

- ・園生活や遊びの中で標識、文字、情報等に触れる活動について

数量・図形に関わる保育の実際と小学校以降のかかわり

- ・園生活や遊びの中で数量・図形等への関心・感覚を豊かにする活動について

生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際と小学校以降のかかわり

- ・園生活や遊びの中で身近な情報、日本文化や異文化に触れる活動について

第6回：身近な素材や自然物を用いた保育の実際（指導案作成）

第7回：身近な素材や自然物を用いた保育の実際（模擬保育と振り返り）

第8回：環境に関わる現代的課題

- ・SDGs、ESD、ユニバーサルデザイン、インクルーシブ保育 他

定期試験 筆記試験

テキスト

文部科学省「幼稚園教育要領（平成29年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」フレーベル館（2018）

参考書・参考資料等

厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018年。

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018年。

学生に対する評価

各授業の課題（20％）、指導案作成・模擬保育の実際（40％）、筆記試験（40％）

授業科目名： 保育内容（人間関係） 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 藤田 豊／名倉 一美
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
保育内容「人間関係」のねらい・内容を理解し、具体的に保育を構想する力を身に付ける			
授業の概要			
保育内容「人間関係」のねらいや内容を、具体的な実践と結び付けながら理解する。その上で、幼児の人間関係を育むための保育実践について、自ら創造する力を身につける。			
授業計画			
第1回：領域「人間関係」のねらい：人とのかかわる力			
第2回：領域「人間関係」のねらい：自立心			
第3回：領域「人間関係」の内容：遊びを通した保育者や友達との関わり			
第4回：領域「人間関係」の内容：協同的な学びにつながる遊びと小学校との接続			
第5回：領域「人間関係」の内容：規範意識の芽生え、道徳性の芽生え			
第6回：実践事例分析：集団での遊び場面にみる幼児の育ちと保育者の役割（情報機器の活用・指導案作成）			
第7回：幼児をとりまく環境を踏まえた人間関係の指導方法（模擬保育）			
第8回：まとめ			
定期試験なし			
テキスト			
文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018）			
文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月」フレーベル館（2018）			
適宜プリントを配布する。			
参考書・参考資料等			
保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
学生に対する評価			
毎時行う各講義内課題（ワーク及びミニレポート）にて評価する（100％）			

授業科目名： 保育内容（言葉） 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 藤田 豊／竜田 徹 担当形態： クラス分け・単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 保育内容における「言葉」の具体的な指導の方法を身につける。			
授業の概要 受講者全員で幼稚園教育要領とテキストを読み進めながら、保育内容における「言葉」の役割を基盤とした教材研究、保育計画（指導案）作成、模擬保育を行い、具体的な指導の方法を検討する。			
授業計画 第1回：幼稚園教育要領における領域「言葉」の位置づけを理解する 第2回：領域「言葉」に関する保育と教材研究の方法を理解する 第3回：0～2歳児の保育計画を領域「言葉」の視点から検討する 第4回：3～5歳児の保育計画（月案）を領域「言葉」の視点から検討する 第5回：3～5歳児の保育計画（日案）を領域「言葉」の視点から検討する 第6回：「わたしの絵本ノート」発表会で教材研究力と情報機器の活用力を伸ばす 第7回：領域「言葉」の視点に基づき保育計画（指導案）を作成し模擬保育を実践する 第8回：領域「言葉」の視点に基づき保育計画（指導案）のピア評価に取り組む 定期試験なし			
テキスト ・文部科学省「幼稚園教育要領（平成29年告示）」東山書房（2018） ・文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」フレーベル館（2018） ・『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』チャイルド本社、2024年 ・近藤幹生・寶川雅子・源証香・小谷宣路・瀧口優『改訂2版 実践につなぐことばと保育』ひとなる書房、2019年 ・岡本夏木『幼児期』岩波書店、2005年			
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する。			
学生に対する評価 授業への参加（討論・発表）とレポートによる。			

授業科目名： 保育内容（表現Ⅰ） 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山崎 浩隆／荒巻 治美 担当形態： クラス分け・単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1，音楽学習領域における実践的な指導力を習得すること 2，幼稚園教育要領の「表現」に示された内容に基づいて、子どもにとっての音楽の意味を理解するとともに、子どもの豊かな感性や創造性を育むための基本的知識と援助・指導方法について学習する。			
授業の概要 1，子どもの身体的特性についての理解を深め、音楽における身体表現の意味を探る。 2，保育者に必要な音楽知識や技術を習得するとともに、保育における音楽活動のあり方について考察する。			
授業計画 第1回 保育内容（表現）のねらいと内容 第2回 音楽における身体表現の意味 第3回 音楽における身体表現の実習 第4回 歌唱表現の研究―歌詞を中心に― 第5回 歌唱表現の研究―旋律を中心に― 第6回 表現指導の準備（指導案の作成と情報機器の活用を含む） 第7回 模擬保育（音楽表現指導） 第8回 幼児期における音楽学習の意義及びレポート作成 定期試験なし			
テキスト 文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月」フレーベル館（2018） 適宜資料を配付します			
参考書・参考資料等 必要に応じ適宜紹介する。			
学生に対する評価 講義中の課題への取り組みと発表内容 50％ レポート 50％			

授業科目名： 保育内容（表現Ⅱ） 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 喜久山 悟／栗山 裕至 担当形態： クラス分け・単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教材研究、保育案の作成、保育模擬実践を通して、幼児教育実践の基礎的知識と能力を身につける。			
授業の概要 教材研究、保育案の作成、保育実践の観点から、幼児教育実践の基礎的能力を養うよう設定している。具体的には、表現素材の知識、保育案の形式・内容・評価法に関する理解を進める。保育実践の適切な環境設定について理解を進める。指導計画の作成と模擬実践に取り組むとともに、相互批評を通して指導法の獲得へつなげる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション(幼稚園教育要領の内容、発達と表現、幼小連携) 第2回：表現素材の特徴の把握、園児への関わり方、表現方法について 第3回：自然素材の教材研究と講義（見立てからの発想と指導・支援について） 第4回：描画材の効果の教材研究と講義（諸種の描画活動の指導・支援と映像の活用について） 第5回：立体の表現の教材研究と講義（生活材の教材化と指導・支援、映像記録手法について） 第6回：保育指導案の作成（形式と具体的内容、環境設定について） 第7回：模擬保育の実践と相互検討 第8回：まとめとレポート提出 定期試験は実施しない			
テキスト 文部科学省「幼稚園教育要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」フレーベル館（2018）			
参考書・参考資料等 佐賀大学教育学部附属幼稚園『研究紀要』第15集（2023年2月発行）			
学生に対する評価 保育案および小レポートで評価			

授業科目名： 保育表現演習Ⅰ（言語表現） 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 竜田 徹 担当形態： 単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ ・ 知的活動、コミュニケーション、感性・情緒の基盤となる言葉の意義と役割について理解する。 ・ 多様な言語文化財の特徴と保育活動に果たす役割について理解する。			
授業の概要 受講者全員で幼稚園教育要領と資料を読み進めながら、幼児の発達における言葉の意義と役割を考える。また、絵本・紙芝居等の言語文化財の特徴を理解し、工夫して活用することができるようにする。これらの演習や受講者同士のコミュニケーションに積極的に取り組むことで、保育者として幼児にかかわる姿勢を形成する。			
授業計画 第1回：言語と人間一言語の意義と機能、話し言葉と書き言葉 第2回：乳幼児期の言葉とその発達——言葉の機能への気付き 第3回：ことばの獲得——言葉に対する感覚の形成とその具体例 第4回：幼児の言葉の発達を支える大人のことばかけとことば遊び 第5回：言葉の感覚を豊かにする実践——幼児の発達と関わらせて 第6回：幼児の発達段階と絵本・紙芝居選び 第7回：絵本・紙芝居の分析とその読み聞かせ 第8回：言葉を豊かに育てる児童文化財			
テキスト ・ 文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018） ・ 文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月」フレーベル館（2018） ・ 『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』チャイルド本社、2024年 ・ 岡本夏木『子どもと言葉』岩波書店、1982年			
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する			
学生に対する評価 ・ 幼児の発達における言葉の意義と役割の理解：レポート30％			

- ・絵本・紙芝居等の言語文化財の特徴の理解と活用：レポート30%、実演10%
- ・受講者同士のコミュニケーション、保育者として幼児にかかわる姿勢。：振り返り30%

授業科目名： 保育表現演習Ⅱ（運動表現） 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 堤 公一 担当形態： 単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本授業のテーマは、幼稚園教員として幼児期の運動遊びを支援するために必要な幼児期の運動発達の特徴と意義を理解するとともに、いろいろな運動遊びについてその考え方や進め方を理解することができる。 到達目標は、以下の通りである。 1. 実践演習を通して、運動遊びの実践内容を体感することができる。 2. 指導実践演習を通して、運動遊びの計画・実践・振り返りについて、指導法を理解することができる。			
授業の概要 本授業は、幼稚園教育要領の心身の健康に関する領域「健康」のねらいや内容などの基本的な考え方を理解するとともに、幼稚園における運動遊びの基本的な考え方や具体的な実践内容、指導法を理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業の目標と概要、成績評価について） 第2回：幼児期における健康と発達の特性（幼稚園教育要領領域「健康」の理解） 第3回：幼児期における生活習慣と運動発達の特徴 （幼稚園教育要領領域「健康」の理解と運動遊びの意義） 第4回：幼児期における安全教育と運動遊びの指導 （動きの多様化・洗練化を引きだす環境構成の工夫とその支援） 第5回：実践演習②運動遊び（表現リズム遊び） 第6回：実践演習⑤運動遊び（ジャンケン遊び） 第7回：指導実践演習②運動遊び（表現リズム遊び） 第8回：総括リフレクション（リフレクションレポートの作成について） 定期試験は実施しない			
テキスト ・文部科学省（2018）「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房 ・文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月」フレーベル館			
参考書・参考資料等			

- ・ 幼児期運動指針（平成24年 3 月・文部科学省）
- ・ 高内正子（2021）『子どものこころとからだを育てる保育内容「健康」』教育情報出版

学生に対する評価

リフレクションレポート30%、授業リフレクション60%、意欲（授業への取組）10%

授業科目名： 保育表現演習Ⅲ（造形表現） 【独自科目（佐大）】		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 栗山 裕至 担当形態： 単独
科 目		領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 保育実践における造形的な活動・行為の意義や可能性について理解する。				
授業の概要 造形的な活動を中心に演習を行いながら、保育実践における造形活動の内容と実践上の重要点について学修を進める。				
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：自然素材を使った造形活動 第3回：身に着けて遊ぶ道具作りの造形活動 第4回：絵の具を使った描画活動①バチック、スタンプング 第5回：絵の具を使った描画活動②ローラーによる活動 第6回：カラーポリ袋を使った立体表現 第7回：粘土を使った立体表現 第8回：幼児の造形活動に関わるビデオ視聴、まとめ 定期試験は行わない				
テキスト 文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月」フレーベル館（2018）				
参考書・参考資料等 実施内容に合わせて、適宜資料配布を行う。				
学生に対する評価 活動内容をまとめたレポートにより評価				

授業科目名： 保育表現演習Ⅳ （リズム表現）【独自 科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 今井 治人、荒巻 治美 担当形態： 複数
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 リズム表現は身体の動きを伴う活動を通じた音楽表現の重要な要素である。さらに他者との交流によって行う活動は、コミュニケーション能力を高め社会性を育んでいくことにつながっている。これらに事を踏まえた幼児教育に活用する方法の研究が、当科目の開講意図である。演習を通じて得た知識と技能を活かし、独自のアイデアを含む教材を作ることができることを到達目標とする。			
授業の概要 保育表現の中のリズム表現について、基礎知識を獲得し応用する力を身につけるための演習を行う。ボディパーカッションの教材例を自ら体験する中から、独自のアイデアを活用した教材を作成する方法を研究する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：リズム表現の導入（リズムの基本原理の確認） 第3回：簡単なリズム表現への展開 第4回：リズム模倣 第5回：ボディパーカッションの要素を加えたリズム模倣 第6回：応答形式によるリズム表現 第7回：歌に合わせたリズム表現 第8回：アンサンブル形式のボディパーカッション課題 定期試験			
テキスト 文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月」フレーベル館（2018） 適宜配布			
参考書・参考資料等 適宜配布			
学生に対する評価 授業中のグループ活動への参加態度（40%）、基礎的事項の理解度（30%）、定期試験（30%）などを総合的に判断して評価する。			

授業科目名： 初等国語 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中尾 健一郎、跡上 史郎、 山下 真里／中里 理子、奥 野 新太郎
			担当形態： クラス分け・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1. 小学校国語科における専門的な内容について理解することができる。 2. 小学国語の専門的な内容について具体的な教材を通して検討することができる。 3. 小学国語の専門的な内容について言語生活と重ねて思考することができる。			
授業の概要 本授業では、小学校国語科の専門的な内容（言葉の知識、文学的文章、言語文化）を扱う。各分野において、国語科の内容についての課題の検討及び発展的内容の理解を図る。			
授業計画 第1回 ガイダンス、日本語の特徴 (山下 真里／中里 理子) 第2回 言葉の知識1（文字・表記など） (山下 真里／中里 理子) 第3回 言葉の知識2（敬語・文法など） (山下 真里／中里 理子) 第4回 文学的文章（日本の作品） (跡上 史郎／中里 理子) 第5回 文学的文章（外国の作品） (跡上 史郎／奥野 新太郎) 第6回 言語文化・韻文 (中尾 健一郎／奥野 新太郎) 第7回 言語文化・散文 (中尾 健一郎／奥野 新太郎) 第8回 言語文化・故事成語 (中尾 健一郎／奥野 新太郎) 定期試験は実施しない			
テキスト 適宜プリント配布等を行う			
参考書・参考資料等 授業時間中に紹介する			
学生に対する評価 課題による評価を行う。課題は担当各教員の指示により教員ごとに提出。授業の時間数により教員の評価を比率配分した上で合算する。（山下37.5%、跡上25%、中尾37.5%）（中里50%、奥野50%）			

授業科目名： 初等書写 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 林田 恵美／藤木 香江 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1. 小学校国語科における専門的な内容について理解することができる。 2. 小学国語の専門的な内容について具体的な教材を通して検討することができる。 3. 小学国語の専門的な内容について言語生活と重ねて思考することができる。			
授業の概要 本授業では、小学校国語科の専門的な内容（書写）を扱う。各分野において、国語科の内容についての課題の検討及び発展的内容の理解を図る。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、国語科書写の学習内容、姿勢・執筆（硬筆） 第2回：硬筆 平仮名・片仮名、漢字の点画の種類・外形・中心 第3回：硬筆 漢字の点画や部分の組み立て方、漢字の筆順と字形 第4回：硬筆 文字の大きさと配列、はがきの書き方① 第5回：硬筆 はがきの書き方② 第6回：硬筆 掲示物の作成 第7回：毛筆 平仮名・片仮名 第8回：毛筆 漢字 定期試験は実施しない			
テキスト 特定の教科書は用いず、適宜プリントを配布する。			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領解説国語科編・中学校学習指導要領解説国語科編、国語科書写の理論と実践！			
学生に対する評価 レポート（16％） 硬筆課題作品（60％） 毛筆課題作品（24％）			

授業科目名： 初等社会 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 黨 武彦、山本耕三、春田直紀、大野 正久／後藤 正英、黒田 圭介、岡本 託、吉岡 剛彦 担当形態： クラス分け・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 社会		
授業のテーマ及び到達目標 小学校社会科の意義と目標を踏まえたうえで、教育内容について検討するとともに、教材研究の進め方についての方法論の基礎を習得する。			
授業の概要 学習指導要領をもとに小学校社会科の特質と役割、目標と内容構成について説明する。そして、小学校社会科で扱ういくつかのトピックを地理・歴史・公民の3分野に分けて取り上げ、その内容に関する教材研究の進め方についても講義する。			
授業計画 第1回：小学校社会科の特質と役割（黨 武彦／後藤 正英） 第2回：小学校社会科の目標と内容（黨 武彦／後藤 正英） 第3回：小学校社会科地理分野の教育内容（山本耕三／黒田 圭介） 第4回：小学校社会科地理分野の教材研究（山本耕三／黒田 圭介） 第5回：小学校社会科歴史分野の教育内容（春田 直紀／岡本 託） 第6回：小学校社会科歴史分野の教材研究（春田 直紀／岡本 託） 第7回：小学校社会科公民分野の教育内容（大野 正久／吉岡 剛彦） 第8回：小学校社会科公民分野の教材研究（大野 正久／吉岡 剛彦）			
テキスト 『小学校学習指導要領解説 社会編』文部科学省			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 上記到達目標について担当者ごとに評価を行い、合算によって本授業科目の評点を算出する。			

授業科目名： 初等算数 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中川 泰宏、靱原 幸二、吉村 昇、吉井 貴寿／橋永 貴弘 担当形態： クラス分け・オムニバス／単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・算数		
授業のテーマ及び到達目標 論理・集合，代数，幾何，解析，応用数学等の中から，いくつかの話題を取り上げ，学ぶことを通して，算数を教えるために必要とされる数学的知識を獲得する。			
授業の概要 論理・集合，代数，幾何，解析，応用数学等の中から，いくつかの話題を取り上げて紹介する。また，それらの内容と小学校算数の繋がりを考えたり，それらの内容を発展的に考察しさらに理解を深めたりする活動を行い，算数の指導力向上に繋げる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション，幾何1（幾何学とその応用）（吉村 昇／橋永 貴弘） 第2回：幾何2（平面幾何と空間幾何）（吉村 昇／橋永 貴弘） 第3回：代数1（数とその性質）（吉井 貴寿／橋永 貴弘） 第4回：代数2（数の性質の応用）（吉井 貴寿／橋永 貴弘） 第5回：論理・集合（数学と人間の活動）（靱原 幸二／橋永 貴弘） 第6回：応用数学（数学と社会生活）（靱原 幸二／橋永 貴弘） 第7回：解析（数学的な表現の工夫）（中川 泰宏／橋永 貴弘） 第8回：全体の振り返り（試験）（中川 泰宏／橋永 貴弘）			
テキスト 必要に応じてプリントを配布する。			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業中に紹介する。			
学生に対する評価 試験(60%)・レポート(40%)の結果6割以上の成績を修めたものを合格とする。			

授業科目名： 初等理科 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 田邊 力、岸木 敬太、村田 貴広、島田 秀昭／嬉 正勝 、角縁 進、岡島 俊哉、中 村 聡 担当形態： クラス分け・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 理科		
授業のテーマ及び到達目標 小学校理科の教科内容に関する基礎的知識を身につけ、また授業実施のための特性について学ぶ。			
授業の概要 将来、小学校教員になった際に自信を持って理科を指導できるように、小学校理科教科書4領域（エネルギー、粒子、生命、地球）の知識を確かなものとすると同時に、授業実施のための教科特性を理解する。			
授業計画 第1回：（ガイダンス）生命の単元について（田邊 力／嬉 正勝） 第2回：生命分野のまとめと復習（田邊 力／嬉 正勝） 第3回：地球分野の単元について（岸木 敬太／角縁 進） 第4回：地球分野のまとめと復習（村田 貴広／角縁 進） 第5回：エネルギー分野の単元について（岸木 敬太／中村 聡） 第6回：エネルギー分野のまとめと復習（岸木 敬太／中村 聡） 第7回：粒子分野の単元について（村田 貴広、島田 秀昭／岡島 俊哉） 第8回：粒子分野のまとめと復習（村田 貴広、島田 秀昭／岡島 俊哉）			
テキスト 担当教員より適宜資料を提供する。			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領 解説 理科編 「たのしい理科 3年、4年、5年、6年」大日本図書など、佐賀県または熊本県の小学校で使用する理科教科書			
学生に対する評価 試験、小レポートにより評価。			

授業科目名： 初等生活 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 飯野 直子、春田 直紀、田口 浩継、八幡 彩子／黒田 圭介、坂本 憲明、栗山 裕至、中西 雪夫 担当形態： クラス分け・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生活		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：小学校の生活科において必要な基礎的知識を習得する。			
授業の概要 小学校「生活」の教育内容について、（１）社会と子ども、（２）自然と子ども、（３）遊びと子ども、（４）家庭と子どもの４つの分野に分けて、オムニバスで講義形式の授業をオンラインで行う。			
授業計画 第１回：社会と子ども（１）生活科と小学校社会科（地理）との関連について（飯野 直子／黒田 圭介） 第２回：社会と子ども（２）町探検における具体的な実践事例を学ぶ（飯野 直子／黒田 圭介） 第３回：自然と子ども（１）身の回りの自然について（春田 直紀／坂本 憲明） 第４回：自然と子ども（２）自然と子どもの認識について（春田 直紀／坂本 憲明） 第５回：遊びと子ども（１）社会像の変貌と遊びの位置づけ（田口 浩継／栗山 裕至） 第６回：遊びと子ども（２）実態調査から見える子どもの生活と遊び（田口 浩継／栗山 裕至） 第７回：家庭と子ども（１）家庭生活の実態について（八幡 彩子／中西 雪夫） 第８回：家庭と子ども（２）子どもの家庭生活への関わりについて（八幡 彩子／中西 雪夫） 定期試験は実施しない。			
テキスト 使用しない。資料を配布する。			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領解説 生活編（平成29年度告示，文部科学省）			
学生に対する評価 分野ごとに、毎時課題または最終課題によって評価する。 配点は各分野25点ずつとし、総合点によって判定を行う。			

授業科目名： 初等音楽 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山田 高誌、稲森 安太己、 中原 雅彦、山崎 浩隆／荒 巻 治美、石川 美也子、小 村 朋代、今井 治人 担当形態： クラス分け・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽		
授業のテーマ及び到達目標 小学校音楽科を指導するために必要な基礎的知識を習得し、授業を実践するための基礎的技能を身につける。			
授業の概要 小学校音楽科の授業を実践する上で必要な楽譜の読み書きや音楽の規則を理解するとともに、発声法，演奏法や音楽の歴史について知る。			
授業計画 第1回：ガイダンス、求められる知識および技能（山崎 浩隆／荒巻 治美） 第2回：音楽史1（世界の音楽）（山田 高誌／今井 治人） 第3回：音楽史2（西洋の音楽）（山田 高誌／今井 治人） 第4回：楽典1（音程について）（稲森 安太己／石川 美也子） 第5回：楽典2（調性・音階について）（稲森 安太己／石川 美也子） 第6回：発声法について（中原 雅彦／小村 朋代） 第7回：歌唱について（中原 雅彦／小村 朋代） 第8回：授業の実際と必要な知識・技能（山崎 浩隆／荒巻 治美）			
テキスト 必要があれば配布する。			
参考書・参考資料等 適宜紹介する。			
学生に対する評価 本授業はオムニバス形式で行うため、各回ごとに示す課題およびフィードバックによって評価する。担当教員ごとの授業回数に応じ5～20点で評価し、それを合算する。			

授業科目名： 小学音楽実技(ピアノ) 【独自科目（佐大） 】		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 石川 美也子
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 音楽		
授業のテーマ及び到達目標 小学校教員に必要なピアノの基礎技能を学ぶ。				
授業の概要 小学校の授業展開に必要なピアノを演奏する上での基本的技能・知識を身に着け、技術・表現の基礎力を高める。				
授業計画 第1回：ピアノ演奏における手の使い方 第2回：片手奏・基礎Ⅰ 第3回：両手奏・基礎Ⅱ 第4回：楽曲演奏・基礎Ⅲ 第5回：演奏発表の基礎 第6回：模範奏の役割 第7回：唱歌演奏基礎Ⅰ 第8回：唱歌演奏基礎Ⅱ 個々の技能や進度に合わせて、1～8回の内容を総合的に指導する。 実技試験				
テキスト ハノン・バイエル（全音出版社、音楽之友社）ほか				
参考書・参考資料等 なし				
学生に対する評価 個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・40% 実技試験・・・60%				

授業科目名： 小学音楽実技(声楽) 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 小村 朋代
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 音楽		
授業のテーマ及び到達目標 小学校教員に必要な音楽基礎技能を学ぶ。			
授業の概要 声楽についての基本的技能・知識を身に着け、技術・表現の基礎力を高める。			
授業計画 第1回：歌う際の身体の使い方（体操・発声） 第2回：リズム唱 第3回：視唱 第4回：文部省唱歌歌唱指導Ⅰ 第5回：文部省唱歌歌唱指導Ⅱ 第6回：外国語歌曲指導（英語・独語・伊語） 第7回：歌曲解釈 第8回：歌曲表現 個々の技能や進度に合わせて、1～8回の内容を総合的に指導する 実技試験			
テキスト 声楽教本（教育芸術社）ほか			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・40% 実技試験・・・60%			

授業科目名： 初等図画工作 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 喜久山 悟、松永 拓己／栗 山 裕至
			担当形態： クラス分け・オムニバス／単 独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 図画工作		
授業のテーマ及び到達目標 図画工作の指導者に必要な実技表現・鑑賞に関する内容を修得する。			
授業の概要 図画工作科の意義を明らかにし、表現及び鑑賞の活動をおこないながら、図画工作指導を行う に必要な、資質・能力を育成するものである。			
授業計画 第1回：ガイダンス・・・図画工作科の学習内容について概要を理解する。（喜久山 悟／栗山 裕 至） 第2回：子どもと造形表現・・・「造形遊び」の実践と指導を中心に、子どもにとっての造形活動の 意義について考える。（松永 拓己／栗山 裕至） 第3回：描画活動について・・・絵画の技能について広く理解し、子どもの描画の発達段階に応じた 指導力を培う。（松永 拓己／栗山 裕至） 第4回：平面表現について・・・平面作品制作によって育てられる思考力・判断力・表現力について 実践をもとに理解する。（松永 拓己／栗山 裕至） 第5回：立体表現について1・・・立体作品制作を実践的に取り組む。（喜久山 悟／栗山 裕至） 第6回：立体表現について2・・・立体作品制作によって育てられる思考力・判断力・表現力につい て考察を加える。（喜久山 悟／栗山 裕至） 第7回：美術鑑賞教育について・・・美術作品の鑑賞とその指導法を学習する。（松永 拓己／栗山 裕至） 第8回：まとめ・・・表現・鑑賞の実践を通じて本教科の特色を活かした授業づくりの要点をまとめ ていく。（喜久山 悟／栗山 裕至） 定期試験は実施しない。			
テキスト 小学校学習指導要領解説（平成29年）			
参考書・参考資料等 図画工作科教科書各種			

学生に対する評価

提出物・作品及びレポート（70％） 授業内容の理解・達成・制作過程（30％）

授業科目名： 初等家庭 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 八幡 彩子、中迫 由実、篠塚 致子／澤島 智明、小松 美和子、萱島 知子、奥谷 めぐみ、 担当形態： クラス分け・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 家庭		
授業のテーマ及び到達目標 小学校家庭科における基礎知識を獲得することができ、基礎技能への理解を深めることができる。小学校教員としての指導力を身につけることができる。			
授業の概要 小学校家庭科の授業づくりための基礎的知識について内容を解説するとともに基礎技能を習得するための演習等を行う。			
授業計画			
第1回：家庭生活と家族の協力・協働（八幡 彩子／奥谷 めぐみ）			
第2回：持続可能な社会と消費生活・環境（八幡 彩子／奥谷 めぐみ）			
第3回：生活文化における食生活（基礎知識）（篠塚 致子／萱島 知子）			
第4回：生活文化における食生活（現代の課題）（篠塚 致子／萱島 知子）			
第5回：生活文化における衣生活（基礎知識）（篠塚 致子／小松美和子）			
第6回：生活文化における衣生活（現代の課題）（篠塚 致子／小松美和子）			
第7回：生活文化における住生活（基礎知識）（中迫 由実／澤島 智明）			
第8回：生活文化における住生活（現代の課題）（中迫 由実／澤島 智明）			
テキスト			
必要に応じて資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
中西雪夫他（編）『小中学校家庭科の授業をつくる 5年間を見通すための理論・実践・基礎知識』学術図書出版（2023）			
鳴海多恵子他『わたしたちの家庭科 5・6』開隆堂（2024）			
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編』東洋館出版（2018）			
岡陽子他『新編 新しい家庭科 5・6』東京書籍（2025）			
学生に対する評価			
課題、授業中に作成する小レポート、試験等で評価する。			

授業科目名： 初等体育 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 末永 祐介／山津 幸司、坂 元 康成、井上 伸一
			担当形態： クラス分け・単独／オムニバ ス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育		
授業の到達目標及びテーマ			
本授業のテーマは、小学校教員として指導すべき運動種目（陸上運動、器械運動、体づくり運動、球技、水泳）の基本的な技能を習得する。また、新体力テストの実施目的や実施方法を習得する。到達目標は「小学校教員として体育の授業を行うために、各運動領域の基本的な内容を十分に理解し、指導法を習得することができる」ようになることである。			
授業の概要			
本授業は、小学校学習指導要領において体育の内容として取り上げられている運動領域「陸上運動」「器械運動」「体づくり運動」「球技」「水泳」および「新体力テスト」の学習内容を理解し、教員としてそれぞれの運動種目を指導していくために必要な基本的な技能を学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（末永 祐介／山津 幸司、坂元 康成、井上 伸一）			
第2回：陸上運動（陸上運動の内容および方法を理解する）（末永 祐介／山津 幸司、坂元 康成、井上 伸一）			
第3回：器械運動（器械運動の内容および方法を理解する）（末永 祐介／山津 幸司、坂元 康成、井上 伸一）			
第4回：体づくり運動（体づくり運動の内容および方法を理解する）（末永 祐介／山津 幸司、坂元 康成、井上 伸一）			
第5回：球技①（ゴール型球技の内容および方法を理解する）（末永 祐介／坂元 康成）			
第6回：球技②（ベースボール型球技の内容および方法を理解する）（末永 祐介／井上 伸一）			
第7回：水泳系（水泳系の内容および方法を理解する）（末永 祐介／山津 幸司）			
第8回：新体力テスト（新体力テストの内容および方法を理解する）（末永 祐介／山津 幸司）			
テキスト			
教科書は使用しない。随時、配付資料を用意する。			
参考書・参考資料等			

文部科学省（2017）「小学校学習指導要領解説体育編」https://www.mext.go.jp/content/20240918-mxt_kyoiku01-100002607.pdf

鈴木秀人・山本理人・杉山哲司編著（2009）「小学校の体育授業づくり入門」学文社

高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖（2010）「新版体育科教育学入門」大修館書店

学生に対する評価

演習レポート、意欲（授業への取り組み）を総合的に評価する。

授業科目名： 初等外国語 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 岡崎 伸一／林 裕子 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 外国語		
授業の到達目標及びテーマ （１）小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な実践的な英語運用力を身に付ける。 （２）小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語に関する背景的な知識を身に付ける。 。 小学校外国語活動及び外国語の授業実践に必要な英語表現を，題材（話題・場面）ごとに整理し，演習を通して実践的な英語運用能力の向上を図る。８回の授業を通して，英語の音声の仕組み（アクセント，リズム，イントネーション，発音と綴りの関係など）や正書法，文学素材などについて講義と演習を交えて学びながら英語に関する背景的な知識を身に付け，小学校での外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語運用能力の習得を図る。			
授業計画 第１回：オリエンテーション，第二言語習得に関する基本的な知識 第２回：音声に関する基本的な知識（母音，子音，フォニックスなど） 第３回：教室英語表現、場面や目的に応じたＡＬＴとの会話（聞くこと・話すこと） 第４回：文構造・文法に関する基本的な知識（読むこと・書くこと） 第５回： チャンツ，歌の指導 （聞くこと・話すこと） 第６回：児童文学（歌や詩，絵本）（読むこと） 第７回：正書法・板書や提示物における英語の正しい表記（書くこと） 第８回：異文化理解，まとめ 定期試験			
テキスト 「コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト 改訂版」（中村典生 他著 東京書籍）(2022)			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）、小学校外国語活動・外国語の研修ガイドブック http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm			
学生に対する評価 期末試験 ５０％，授業課題の達成度 ５０％			

授業科目名： 初等国語科指導法Ⅰ 【共同科目（熊大・佐大）】		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 北川 雅浩／達富 洋二
				担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 小学校国語科教育の目標・内容・方法・評価について理解し、学習指導案を作成する上で必要とされる実践的な知識や構想力を身に付ける。				
授業の概要 『小学校学習指導要領解説 国語編』に基づいて国語科の目標・内容を理解し、小学校国語科教科書の教材を用いて学習指導や評価の方法についての理解を深める。				
授業計画 第1回：学習指導要領と年間指導計画 第2回：「国語の特徴に関する事項」の学習指導 第3回：「伝統的な言語文化に関する事項」の学習指導（書写を含む） 第4回：単元の学習計画 第5回：指導事項と対応させた言語活動の設定 第6回：1単位時間の学習計画 第7回：「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導の手立て 第8回：総括・レポートの作成 定期試験は実施しない				
テキスト ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018） ・文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編」東洋館出版社（2018） ・達富洋二『ここからはじまる国語教室』ひつじ書房（2023）				
参考書・参考資料等 授業中に担当者から提示、あるいは資料を配布する。				
学生に対する評価 レポート試験（50％）、授業の最後に提出する小レポート（50％）				

授業科目名： 初等国語科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 北川雅浩／達富洋二
				担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 作成した学習指導案をもとに模擬授業を実施し、リフレクションを通して小学校国語科の学習指導方法についての理解を深める。				
授業の概要 「初等国語科指導法Ⅰ」で学んだことをもとに、学習指導案の作成や模擬授業に取り組む。模擬授業後にリフレクションを行い、授業の中で得られた実践的知識の共有と深化を図る。				
授業計画 第1回：国語科授業の実践知 第2回：「話すこと・聞くこと」の単元づくり 第3回：「書くこと」の単元づくり 第4回：「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の学習指導案の作成 第5回：「読むこと」の単元づくり 第6回：「読むこと」の学習指導案の作成 第7回：模擬授業とICT活用のリフレクション 第8回：総括・レポートの作成 定期試験は実施しない				
テキスト ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018） ・文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編」東洋館出版社（2018） ・達富洋二『ここからはじまる国語教室』ひつじ書房（2023）				
参考書・参考資料等 授業中に担当者から提示、あるいは資料を配布する。				
学生に対する評価 学習指導案及び模擬授業（50％）、授業の最後に提出する小レポート（50％）				

授業科目名： 初等社会科指導法Ⅰ 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 竹中 伸夫／土肥 大次郎 担当形態： クラス分け／単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・ 社会		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 講義に基づき、多様な社会科授業の目標観の特質と課題、実践上の留意点を理解するとともに、それを通して自らの目標観を相対化し、再構築できる。 ・ そうして再構築した目標観に基づき授業を構成していくこと（カリキュラム・マネジメント）の重要性と必要性について気付く。			
授業の概要 社会科といえば知識を暗記することとの誤解を解くことを目的に、学習指導要領の解説や過去や外国の社会科教育の事例なども参照しながら、社会科とは何でなければならないのかを理論的に解明する。今後実践的に社会科の在り方を考えるうえで必須の理論的基盤を確立させる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：社会科とはどのような科目か 第2回：にもかかわらず、現状どうなっているのかー暗記教育と活動主義の特質と限界ー 第3回：その目標の実現のために小学校中学年社会科は何の育成を目指しているのかー学習指導要領の解説を手がかりにー 第4回：その目標の実現のために小学校高学年社会科は何の育成を目指しているのかー学習指導要領の解説を手がかりにー 第5回：ほかにどのような教育がありえるかー教育史を手がかりにー 第6回：ほかにどのような教育がありえるかー比較教育①（分化型の場合）ー 第7回：ほかにどのような教育がありえるかー比較教育②（統合型の場合）ー 第8回：社会科の目標観の類型とカリキュラム・マネジメント 定期試験はしない			
テキスト 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018） 文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編」日本文教出版（2018） 社会認識教育学会編『小学校社会科教育』平成31年4月			
参考書・参考資料等 講義中に適宜指示する			
学生に対する評価			

レポート100%

授業科目名： 初等社会科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 藤瀬 泰司／土肥 大次郎 担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・ 社会		
授業のテーマ及び到達目標				
・ 小学校社会科の主教材である教科書の特性・特質を理解できる。 ・ 教科書を活用した小学校社会科の授業を開発することができる。 ・ 模擬授業を実施してそのよしあしを検討することができる。				
授業の概要				
・ 教科書の特性・特質を踏まえた教材（教科書）研究に取り組む。 ・ 教科書を活用して小学校社会科の学習指導案を作成する。 ・ 模擬授業を実施して、その検討会を開催する。				
授業計画				
第1回：オリエンテーションー小学校社会科の授業動画ー				
第2回：小学校社会科の教材研究①ー教科書の特性・特質ー				
第3回：小学校社会科の教材研究②ー教科書の分析ー				
第4回：小学校社会科の授業づくり①ーグループの編成ー				
第5回：小学校社会科の授業づくり②ー授業目標の設定ー				
第6回：小学校社会科の授業づくり③ー学習指導案（評価含む）の作成ー				
第7回：小学校社会科の授業づくり④ー模擬授業（ICT活用含む）の実施ー				
第8回：まとめー模擬授業の検討会ー				
※定期試験は実施しない				
テキスト				
文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018） 文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編」日本文教出版（2018） 社会認識教育学会編『小学校社会科教育』学術図書（2019） 適宜、レジュメを配布する。				
参考書・参考資料等				
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』				
学生に対する評価				
レポートの作成40％、学習指導案の作成40％、模擬授業20％				

授業科目名： 初等算数科指導法Ⅰ 【共同科目（熊大・佐大）】		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 吉村 昇、吉井 貴寿／大林 将呉 担当形態： クラス分け・オムニバス／単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・算数		
授業のテーマ及び到達目標 ・ この講義では、次の点について理解を目指す。 (1)小学校の主要教科としての算数科の目標についての理解 (2)小学校算数科の学習内容について高い立場からの理解（メタ知識の獲得と問題意識）。 (3)算数教育に関する従来研究成果をもとに、算数科教育の方法論の理解と問題意識。 ・ 到達目標（A水準） (1)算数科の目標及び内容を理解し、その指導を考えることができる。 (2)算数・数学教育の課題を理解し、それをふまえてこれからの教育を考えることができる。				
授業の概要 ・ 算数科の目標を理解するとともに、学習内容について理解する。また、算数科教育に関する従来研究成果をもとに算数科教育の方法論を理解し、問題意識をもつ。				
授業計画 第1回：オリエンテーション 小学校学習指導要領算数科の目標（吉井 貴寿／大林 将呉） 第2回：「数と計算」領域の指導の概要と実際 低学年・中学年（吉村 昇／大林 将呉） 第3回：「数と計算」領域の指導の概要と実際 中学年・高学年（吉井 貴寿／大林 将呉） 第4回：「測定」領域の指導の概要と実際 （吉井 貴寿／大林 将呉） 第5回：「変化と関係」領域の指導の概要と実際 （吉村 昇／大林 将呉） 第6回：「図形」領域の指導の概要と実際 （吉井 貴寿／大林 将呉） 第7回：「データの活用」領域の指導の概要と実際 （吉村 昇／大林 将呉） 第8回：全体の振り返り（後半に試験またはレポート） （吉村 昇／大林 将呉）				
テキスト：特に使用しない				
参考書・参考資料等 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018） 文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）算数編」日本文教出版（2018） 教育実習で用いる教科書				
学生に対する評価				

各回の授業課題（40％）、試験・レポート（60％）により総合的に評価する。

授業科目名： 初等算数科指導法Ⅱ【 シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 吉村 昇、吉井 貴寿／大林 将呉
			担当形態： クラス分け・オムニバス／単 独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・算数		
授業のテーマ及び到達目標			
・ この講義では、次の点について理解を目指す。			
(1)小学校の主要教科としての算数科の目標についての理解			
(2)小学校算数科の学習内容について高い立場からの理解（メタ知識の獲得と問題意識）。			
(3)算数教育に関する従来の研究成果をもとに、算数科教育の方法論の理解と問題意識。			
・ 到達目標（A水準）			
(1)算数科における教材研究の具体的な方法を知り、それを実践することができる。			
(2)算数科教育の方法論と問題意識をもとに、学習指導案を作成することができる。			
授業の概要			
・ 算数科の目標を理解するとともに、学習内容について理解する。また、算数科教育に関する従来の研究成果をもとに算数科教育の方法論を理解し、問題意識をもつ。			
授業計画			
第1回：制度としての算数科教育の理解（算数科の性格・特徴と課題）（吉村 昇／大林 将呉）			
第2回：算数科教育における教材研究と学習指導案（吉井 貴寿／大林 将呉）			
第3回：算数科教育におけるテクノロジーの活用（ICT活用）とその実際（吉村 昇／大林 将呉）			
第4回：「数と計算」領域の授業研究（指導案検討及び模擬授業）（吉村 昇・吉井 貴寿／大林 将呉）			
第5回：「測定」領域と「変化と関係」の授業研究（指導案検討（振り返り含む）及び模擬授業）（吉村 昇・吉井 貴寿／大林 将呉）			
第6回：「図形」領域の指導の実際（指導案検討（振り返り含む）及び模擬授業）（吉村 昇・吉井 貴寿／大林 将呉）			
第7回：「データの活用」領域の指導の実際（指導案検討（振り返り含む）及び模擬授業）（吉村 昇・吉井 貴寿／大林 将呉）			
第8回：全体の振り返り（試験・レポート）（吉井 貴寿／大林 将呉）			
テキスト：			

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）
文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）算数編」日本文教出版（2018）
参考書・参考資料等
教育実習で用いる教科書
学生に対する評価 各回の授業課題（40％）、授業研究への取組み（30％）、試験・レポート（30％）により総合的に評価する。

授業科目名： 初等理科指導法Ⅰ 【シラバス共通（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 渡邊 重義、飯野 直子／後藤 大二郎 担当形態： クラス分け・オムニバス／単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・理科		
授業のテーマ及び到達目標 学習指導要領に示された理科の目標や内容や理科の学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した教材研究を行う方法を身に付ける。 1. 初等教育の学習指導要領に示された理科の目標や内容を理解する。 2. 基礎的な理科の学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した教材研究を行う方法を身に付ける。			
授業の概要 初等理科教育に関する目的論、カリキュラム論、学習指導方法論、自然認識論、評価論等の各領域について概説する。 1. 小学校学習指導要領における理科の目標・主な内容・全体構造、個別の理科学習内容についての指導上の留意点（含：発展的な内容）、理科の学習評価に対する考え方、及び教科理科と自然科学との関係性を理解するとともに、教材研究に活用できる具体的方策について論じる。 2. 生徒の自然認識・科学的思考・理科の学力などの実態を視野に入れた理科授業設計の重要性、教科としての理科の特性に応じたICT・教材の効果的な活用法、理科学習指導案の構成と具体的実践を想定した教材研究の方法（含：理科実践研究の動向）について具体的に論じる。			
授業計画 第1回：イントロダクション（渡邊 重義、飯野 直子／後藤 大二郎） 第2回：小学校理科の現実的課題／理科教育の目的（学習指導要領） （渡邊 重義、飯野 直子／後藤 大二郎） 第3回：理科の学び1：理科の見方・考え方（学習指導要領）（実習含む） （渡邊 重義／後藤 大二郎） 第4回：理科の学び2：問題解決学習（学習指導要領）（渡邊 重義／後藤 大二郎） 第5回：理科の学び3：子どもの自然認識（渡飯野 直子／後藤 大二郎） 第6回：理科の学び4：表現活動と評価（飯野 直子／後藤 大二郎） 第7回：理科の学び5：学習支援とICT活用（飯野 直子／後藤 大二郎） 第8回：総括的評価とまとめ（渡邊 重義、飯野 直子／後藤 大二郎）			

レポート（定期試験は実施しない）
テキスト 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018） 文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）理科編」東洋館出版社（2018）
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 レポート試験（80％）、授業における取組状況（20％）

授業科目名： 初等理科指導法Ⅱ 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 渡邊重義 飯野直子／後藤大二郎 担当形態： クラス分け・オムニバス／単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・理科		
授業のテーマ及び到達目標 学習指導要領に示された理科の目標や内容や理科の学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した教材研究を行う方法を身に付ける。 1. 初等教育の学習指導要領に示された理科の目標や内容を理解する。 2. 基礎的な理科の学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した教材研究を行う方法を身に付ける。			
授業の概要 初等理科教育に関する実際の授業実践を想定し、具体的な理科の学習内容について取り上げる。 1. 小学校学習指導要領における理科の目標・主な内容・全体構造、個別の理科学習内容についての指導上の留意点（含：発展的な内容）、理科の学習評価に対する考え方、及び教科理科と自然科学との関係性を理解するとともに、教材研究に活用できる具体的方策について論じる。 2. 理科の学習内容等の発表（模擬授業）の実施とその振り返りから、授業改善の視点（含：授業設計の向上）について具体的に論じる。			
授業計画 第1回：イントロダクション（渡邊重義 飯野直子／後藤 大二郎） 第2回：理科の教材構成と授業実践1：3年生（学習指導要領）（飯野直子／後藤 大二郎） 第3回：理科の教材構成と授業実践2：4年生（学習指導要領）（飯野直子／後藤 大二郎） 第4回：理科の教材構成と授業実践3：5年生（学習指導要領）（飯野直子／後藤 大二郎） 第5回：理科の教材構成と授業実践4：6年生（学習指導要領）（飯野直子／後藤 大二郎） 第6回：理科の授業構想：学習指導案作成（飯野直子／後藤 大二郎） 第7回：模擬授業（渡邊重義 飯野直子／後藤 大二郎） 第8回：模擬授業の省察／総括（渡邊重義 飯野直子／後藤 大二郎） レポート（定期試験は実施しない）			
テキスト 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）			

文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）理科編」東洋館出版社（2018）
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 発表（模擬授業含む）における取組状況（80％）、レポート課題（20％）

授業科目名： 初等生活科指導法Ⅰ 【共同科目（熊大・佐大）】		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 苫野 一徳／名倉 一美、坂本 憲明 担当形態： クラス分け・単独／オムニバス
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ・生活		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：初等教育段階における生活科教育の基礎理論や具体的な実践例を学び、それらに関する基礎的な知識を身につける。知識をもとに、教材開発や指導案の作成、模擬授業を行って、実践力を高めることを到達目標とする。				
授業の概要 ・ 初等教育段階における生活科教育の基礎理論及び基礎知識を講義する。 ・ 具体的実践事例を講義し、自然領域における教材開発を実際に行う。 ・ 模擬授業を通じて生活科における教育のイメージを具体的に掴む。				
授業計画 第1回：オリエンテーション、生活科の基礎理論（自然認識と子ども）（苫野 一徳／坂本憲明） 第2回：指導の実際と授業の分析・検討（自然）（苫野 一徳／坂本憲明） 第3回：教材研究（自然）（苫野 一徳／坂本憲明） 第4回：学習指導案作成（自然）（評価の考え方含む）（苫野 一徳／坂本憲明） 第5回：実際の授業とその分析（模擬授業）（苫野 一徳／坂本憲明） 第6回：幼小接続と生活科を核としたスタートカリキュラム（苫野 一徳／名倉一美） 第7回：スタートカリキュラムの実際と授業の分析・検討（苫野 一徳／名倉一美） 第8回：スタートカリキュラムの指導案作成（苫野 一徳／名倉一美） 定期試験は実施しない。				
テキスト 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018） 文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）生活編」東洋館出版社（2018）				
参考書・参考資料等 適宜レジメを配布する。				
学生に対する評価 毎時課題（ミニツツペーパー等）30％、授業への参加（教材開発、指導案、模擬授業等）30％、最				

終レポート40%、以上を総合して評価する。

授業科目名： 初等生活科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 苫野 一徳／黒田 圭介、名 倉 一美 担当形態： クラス分け・単独／オムニバ ス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・生活		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：初等教育段階における生活科教育の基礎理論や具体的な実践例を学び、それらに関する基礎的な知識を身につける。その知識をもとに、指導案やルーブリックの作成、模擬授業を行って、生活科教育における実践力を高めることを到達目標とする。			
授業の概要			
・ 初等教育段階における生活科教育の基礎理論及び基礎知識を講義する。 ・ 具体的実践事例を講義し、特にICTを活用した教材開発を実際に行う。 ・ 模擬授業を通じて生活科における教育のイメージを具体的に掴む。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、生活科の基礎理論（社会認識と子ども）（苫野 一徳／黒田圭介）			
第2回：指導の実際と授業の分析・検討（社会）（評価の考え方・ICT活用含む）（苫野 一徳／黒田圭介）			
第3回：教材研究（社会）（ICT活用含む）（苫野 一徳／黒田圭介）			
第4回：学習指導案作成（評価の考え方・ICT活用含む）（苫野 一徳／黒田圭介）			
第5回：実際の授業とその分析（模擬授業）（苫野 一徳／黒田圭介）			
第6回：幼児期から小学校低学年の児童の発達（自己認識と子ども）（苫野 一徳／名倉一美）			
第7回：幼小接続・連携と生活科の役割（苫野 一徳／名倉一美）			
第8回：幼児期の教育と生活科の「あそび」（評価の考え方）（苫野 一徳／名倉一美）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）			
文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）生活編」東洋館出版社（2018）			
参考書・参考資料等			
適宜レジメを配布する。			
学生に対する評価			
毎時課題（ミニツツペーパー等）30％、授業への参加（教材開発、指導案、模擬授業等）30％、最			

終レポート40%、以上を総合して評価する。

授業科目名： 初等音楽科指導法Ⅰ 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山崎浩隆／荒巻治美 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・音楽		
授業のテーマ及び到達目標 小学校音楽科の授業づくりの方法とその考え方を知るとともに指導についての知識・技能を高める。			
授業の概要 小学校における表現と鑑賞の各活動の指導のあり方とその考え方を知り、教育実習等、指導の実際にかかわる指導方 法を考える。また、ICTを活用した効果的な指導法についても知る。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：音楽科の全体概要 第3回：音楽科学習指導要領の解説 第4回：音楽科教材研究の方法 第5回：低学年の表現指導 第6回：中・高学年の表現指導 第7回：低学年の鑑賞指導 第8回：中・高学年の鑑賞指導 定期試験は実施しない			
テキスト 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018） 文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）音楽編」東洋館出版社（2018） 必要があれば、適宜紹介、配布する			
参考書・参考資料等 適宜紹介する。			
学生に対する評価 最終レポート60％ 小レポート40％			

授業科目名： 初等音楽科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山崎浩隆／荒巻治美
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・音楽		
授業のテーマ及び到達目標 小学校音楽科の授業づくりについての理解と指導法の理解を深める。			
授業の概要 小学校音楽科における表現と鑑賞の授業づくりについての理解を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：歌唱領域の授業研究（学習指導案とICT機器活用を含む） 第3回：「音楽づくり」「器楽演奏」の授業研究（学習指導用案とICT機器活用を含む） 第4回：鑑賞領域の授業研究 第5回：模擬授業1（歌唱領域） 第6回：模擬授業2（音楽づくりと器楽演奏） 第7回：模擬授業3（鑑賞領域） 第8回：音楽科の課題と展望 定期試験は実施しない			
テキスト 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018） 文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）音楽編」東洋館出版社（2018） 必要があれば、Teamsを通して配布する。			
参考書・参考資料等 適宜紹介する。			
学生に対する評価 最終レポート50% 実技試験30% 小レポート20%			

授業科目名： 初等図画工作科指導 法Ⅰ 【共同科目（熊大・ 佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 喜久山 悟／栗山 裕至 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・図画工作		
授業のテーマ及び到達目標 小学校図画工作科の意義や特性、目標、内容、方法について理解を深める。			
授業の概要 第1～3回において小学校図画工作科の意義や目的、発達と造形の関係等の全般的な内容を学ぶ。 第4回以降においては学習指導要領を踏まえた教科の内容（表現及び鑑賞）を習得する。			
授業計画 第1回：図画工作科はどのような教科であるのか（ガイダンス） 第2回：児童の発達と造形表現の変化 第3回：図画工作科教育の歴史・内容と学習指導要領の変遷 第4回：図画工作科の教科内容（造形遊び）について 第5回：図画工作科の教科内容（絵に表す活動）について 第6回：図画工作科の教科内容（立体に表す活動、工作に表す活動）について 第7回：図画工作科の教科内容（鑑賞学習）について 第8回：図画工作科の今日的課題（ICT活用を中心に） 定期試験は実施しない			
テキスト 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018） 文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）図画工作編」日本文教出版（2018）			
参考書・参考資料等 吉田武男監修、石崎和宏・直江俊雄編著『初等図画工作科教育』ミネルヴァ書房			
学生に対する評価 教科内容に関するワークシート（70％）と小レポート（30％）による総合評価			

授業科目名： 初等図画工作科指導法 Ⅱ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 喜久山 悟／栗山 裕至 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ・ 図画工作		
授業のテーマ及び到達目標 小学校図画工作科の教育課程及び授業実践における指導法の基礎知識・技能を身につける。			
授業の概要 小学校図画工作科の学習指導・支援や学習評価の全般的な内容を学ぶ。教科内容の模擬演習・講義や、模擬授業の取り組みを通して授業技能を身につける。			
授業計画 第1回：図画工作科の学習指導・支援（ICT活用を含む） 第2回：図画工作科の学習評価のあり方 第3回：図画工作科の教科内容（造形遊び）についての模擬演習と講義 第4回：図画工作科の教科内容（絵に表す活動）についての模擬演習と講義 第5回：図画工作科の教科内容（立体に表す活動、工作に表す活動）についての模擬演習と講義 第6回：図画工作科の教科内容（鑑賞学習）についての模擬演習と講義 第7回：模擬授業へ向けた学習指導案の立案 第8回：模擬授業と振り返り 定期試験は実施しない			
テキスト 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018） 文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）図画工作編」日本文教出版（2018）			
参考書・参考資料等 吉田武男監修、石崎和宏・直江俊雄編著『初等図画工作科教育』ミネルヴァ書房			
学生に対する評価 教科内容に関するワークシート（60％）と指導計画（40％）による総合評価			

授業科目名： 初等家庭科指導法Ⅰ 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 増田 仁／中西 雪夫 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・家庭		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：家庭科を学ぶ意義を理解するとともに、小学校家庭科の学習内容と学習指導方法についての理解を深める。			
授業の概要 家庭科教育の意義に対する理解を深めるため、家庭科教育の過去・現在・将来について解説する。家庭科の学習内容と学習指導方法の理解を深めるため、家庭科の内容A・B・Cの授業実践の検討を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：家庭科教育の概要と学習指導要領 第3回：戦前の家庭科教育の歴史 第4回：戦後の家庭科教育の歴史 第5回：これからの家庭科教育 第6回：家庭科の内容A 第7回：家庭科の内容B 第8回：家庭科の内容C（後半定期試験実施の場合もある）			
テキスト 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018） 文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）家庭編」東洋館出版社（2018） 中西雪夫ほか編著「小中学校家庭科の授業をつくる」学術図書出版社（2023）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する			
学生に対する評価 定期試験または期末レポート（80％），小レポート等（20％）			

授業科目名： 初等家庭科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 増田 仁／中西 雪夫
				担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報機器および教材の活用を含む。） ・家庭		
授業のテーマ及び到達目標				
テーマ：小学校家庭科の授業設計及び実施に必要な基礎的知識・技能を習得する。				
授業の概要				
家庭科の授業実践に必要な基礎的技能を身に付けるため、小学校家庭科における課題解決学習、ICT活用、評価などの実践事例を分析し、グループで作成した学習指導案を基に模擬授業を実施する。				
授業計画				
第1回：年間指導計画と学習指導案				
第2回：家庭科の授業展開（内容A）				
第3回：家庭科の授業展開（内容B）				
第4回：家庭科の授業展開（内容C）				
第5回：家庭科におけるICT活用				
第6回：模擬授業（1）グループ1～4				
第7回：模擬授業（2）グループ5～8				
第8回：総括				
テキスト				
文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）				
文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）家庭編」東洋館出版社（2018）				
中西雪夫ほか編著「小中学校家庭科の授業をつくる」学術図書出版社（2023）				
参考書・参考資料等				
授業中に適宜資料を配布する				
学生に対する評価				
レポート（50％），模擬授業の内容（50％）				

授業科目名： 初等体育科指導法Ⅰ 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 末永 祐介／堤 公一
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・体育		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業のテーマは、小学校教員として「体育の授業をつくる」そして「体育の授業を実践する」ために必要な体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などを理解することである。特に、小学校学習指導要領における体育科の目標である生涯にわたる健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現に向けて、講義を通して体育科指導法の基礎を理解する。 到達目標は、以下の通りである。 1 小学校体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などの基本的な考え方を理解することができる。			
授業の概要			
本授業は、講義を通して小学校体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション （授業の目標と概要、成績評価について・体育科の学びとは） 第2回 子どもの成長と体力（運動能力の要素と新体力テスト） 第3回 体育のこれまでとこれから（学習指導要領体育科の変遷） 第4回 体育の目標・カリキュラム・学習内容（現行学習指導要領解説体育編の理解） 第5回 体育の授業づくり①（体育授業の条件・体育の授業評価） 第6回 体育の授業づくり②（体育科の教材・教具について・ICT活用） 第7回 体育の授業づくり③（体育授業のマネジメント方略・ICT活用） 第8回 総括リフレクション（リフレクションレポートの作成について） 定期試験は実施しない			
テキスト			
・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018） ・文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）体育編」東洋館出版社（2018）			
参考書・参考資料等			
・岡出美則/友添秀則/岩田靖（2021）「体育科教育学入門（三訂版）」大修館書店			

- ・鈴木秀人/山本理人/杉山哲司/佐藤善人編著（2021）「第6版小学校の体育授業づくり入門」学文社
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校体育】（令和2年6月・国立教育政策研究所教育課程研究センター）
- ・岩田靖/吉野聡/日野克博/近藤智博（2018）「初等体育授業づくり入門」大修館書店
- ・高橋健夫（2003）「体育の授業を観察評価する」明和出版

学生に対する評価

リフレクションレポート30%、授業リフレクション60% 意欲（授業への取組）10%

授業科目名： 初等体育科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 末永 祐介／堤 公一
				担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・体育		
授業の到達目標及びテーマ				
本授業のテーマは、小学校教員として「体育の授業をつくる」そして「体育の授業を実践する」ために必要な体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などを理解することである。特に、小学校学習指導要領における体育科の目標である生涯にわたる健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現に向けて、講義と演習を通して体育科指導法の基礎を理解する到達目標は、以下の通りである。 1 小学校体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解することができる。 2 小学校学習指導要領において取り上げられている「体づくり運動」「器械運動」「陸上運動」「水泳」「ボール運動」「表現運動」「保健」についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解することができる。				
授業の概要				
本授業は、講義を通して小学校体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解するとともに、演習を通して小学校学習指導要領において取り上げられている「体づくり運動」「器械運動」「陸上運動」「水泳」「ボール運動」「表現運動」「保健」についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。				
授業計画				
第1回 オリエンテーション				
（授業の目標と概要、成績評価について・体育科の学びとは）				
第2回 体育の目標・カリキュラム・学習内容（運動の特性と分類）				
第3回 体育の授業づくり①（体育科における学習評価）				
第4回 体育の授業づくり②（体育学習指導案・学習ノートの作成方法）				
第5回 体育の授業づくり③（体育授業改善に貢献する授業研究）				
第6回 体育の授業実践①（附属小学校体育授業参観）（演習）				
第7回 体育の授業実践②（模擬授業実践演習）（演習）				
第8回 総括リフレクション（リフレクションレポートの作成について）				
定期試験は実施しない				
テキスト				

- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）体育編」東洋館出版社（2018）

参考書・参考資料

- ・鈴木秀人/山本理人/杉山哲司/佐藤善人編著（2021）「第6版小学校の体育授業づくり入門」学文社
- ・佐賀県教育委員会（2021）「小学校体育指導ハンドブック」佐賀県教育庁保健体育課
- ・岡出美則/友添秀則/岩田靖（2021）「体育科教育学入門（三訂版）」大修館書店
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校体育】（令和2年6月）
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター）
- ・岩田靖/吉野聡/日野克博/近藤智博（2018）「初等体育授業づくり入門」大修館書店
- ・高橋健夫（2003）「体育の授業を観察評価する」明和出版

学生に対する評価

リフレクションレポート30%、授業リフレクション60% 意欲（授業への取組）10%

授業科目名： 初等外国語指導法Ⅰ 【共同科目（熊大・佐大）】		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 岡崎 伸一／林 裕子 担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・外国語（英語）		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 小学校外国語活動及び外国語科の目標・内容、及び言語習得や外国語指導法に関する諸理論についての理解・考察を深め、建設的な議論を行うことができる。				
2. 指導実践の諸問題についての基礎知識を修得し、単元の授業構成・模擬活動を行うことができる。				
授業の概要				
小学校外国語活動の指導目標・理念、指導法、教材研究、評価方法などを扱いながら、授業実践に関わる諸問題や、実践を支える諸理論についての理解・考察を深めていく。言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては、授業実践映像の鑑賞を取り入れることにより、英語指導技術の基礎を身につける。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション、学習指導要領からみる小・中・高等学校の外国語科の目標				
第2回：小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、主教材の構成・趣旨				
第3回：関連分野の諸理論からみる外国語活動				
第4回：指導者の役割				
第5回：授業過程と学習指導案の作り方				
第6回：指導目標・指導計画の立て方、学習状況の評価				
第7回：教材・テキストの構成と内容				
第8回：模擬活動（教材・テキストの構成と内容）				
定期試験				
テキスト				
文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）				
文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語活動編・外国語編」開隆堂出版（2018）				
参考書・参考資料等				
中村典生 他「コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト 改訂版」東京書籍				
村野井仁(編著)(2018)『コア・カリキュラム準拠 小学校英語教育の基礎知識』大修館書店				

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）

文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語編」開隆堂出版（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）外国語編 英語偏」教育図書（2019）小学校
外国語活動・外国語の研修ガイドブック

学生に対する評価

- 期末試験（50%）
- 教室英語テスト（20%）
- 授業での取組（個人・グループ課題）（30%）

授業科目名： 初等外国語指導法Ⅱ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 岡崎 伸一／林 裕子 担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・外国語（英語）		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 小学校外国語活動及び外国語科の目標・内容、及び言語習得や外国語指導法に関する諸理論についての理解・考察を深め、建設的な議論を行うことができる。 2. 指導実践の諸問題についての基礎知識を修得し、単元の授業構成・授業実践を行うことができる。				
授業の概要				
小学校外国語活動及び外国語科の指導目標・理念、指導法、教材研究、評価方法などを扱いながら、授業実践に関わる諸問題や、実践を支える諸理論についての理解を深める。言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては、授業実践映像の鑑賞や模擬授業実践を取り入れることにより、英語指導技術を身につける。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション，学習指導要領からみる外国語教育の目標，指導方法と指導技術 第2回：ALTとのチーム・ティーチング 第3回：教材研究とICTの利活用 第4回：模擬授業（教材研究とICTの利活用） 第5回：文字の指導、読む・書く活動への導き方 第6回：模擬授業（読む活動への導き方） 第7回：模擬授業（書く活動への導き方） 第8回：小・中・高等学校の連携と小学校外国語活動・外国語科の役割、まとめ 定期試験				
テキスト				
文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018） 文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語活動編・外国語編」開隆堂出版（2018）				
参考書・参考資料等				
「中村典生 他コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト 改訂版」東京書籍 村野井仁(編著)『コア・カリキュラム準拠 小学校英語教育の基礎知識』大修館書店（2018）				

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）

文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語編」開隆堂出版（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）外国語編 英語偏」教育図書（2019）

小学校外国語活動・外国語の研修ガイドブック

学生に対する評価

- 期末試験（50%）
- 教室英語テスト（20%）
- 授業での取組（個人・グループ課題）（30%）

授業科目名： 国語学概説Ⅰ 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中里 理子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1 現代日本語の基礎的な知識（音韻・音声、語彙、方言、文法）を学び、身近な例を通して理解する。			
2 現代日本語の音韻、語彙、文法の特徴について、わかりやすく説明できる。			
授業の概要			
現代日本語の特徴について音声・音韻・語彙・方言・文法の側面から学び、日本語のしくみについて考える。身近な言語事象を通して学ぶことで現代の生きた日本語の基礎知識を身に着けることを目指す。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（授業の進め方と成績評価）、日本語の特徴に関する概説			
第2回：日本語の音声			
第3回：日本語の音韻			
第4回：日本語のアクセント			
第5回：日本語の語彙体系			
第6回：日本語の語彙の特徴1（和語・漢語・外来語）			
第7回：日本語の語彙の特徴2（言葉の位相）			
第8回：日本語の語彙の特徴3（オノマトペなど）			
第9回：日本語の語彙の特徴4（語彙と文体）			
第10回：日本語の方言			
第11回：日本語の文法総論			
第12回：日本語の文法の特徴1（動詞・形容詞・形容動詞など）			
第13回：日本語の文法の特徴2（助詞、助動詞など）			
第14回：日本語の文法の特徴3（主語、「は」と「が」）			
第15回：日本語の文法と表現			
定期試験			
テキスト			
伊坂淳一『新ここからはじまる日本語学』ひつじ書房			
参考書・参考資料等			

沖森 卓也・木村 義之・陳 力衛・山本 真吾『図解日本語』三省堂、山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版 など

学生に対する評価

授業参加態度（小課題提出、質疑応答）30%、期末試験70%

授業科目名： 国語学概説Ⅱ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山下 真里／中里 理子 担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 日本語の文字・表記、待遇表現に関する基本的な知識を理解し、身につける。また、文章表現に関する基礎的な技能を身につけ、日本語による表現力を高める。ここで学ぶ日本語の基本的な知識・技能を、小学校・中学校の国語科教育に生かせるようにする。				
授業の概要 授業の前半では、現代日本語の文字・表記、待遇表現の特徴について基礎的な知識について学ぶことで、日本語で表現するための基礎力を身につける。授業の後半では、日本語による表現力を高めるため、さまざまな種類の文章を作成し、相互評価を行う。				
授業計画 第1回：ガイダンス（授業の進め方と成績評価） 第2回：日本語の文字・表記の特徴1（ひらがな、ローマ字） 第3回：日本語の文字・表記の特徴2（漢字） 第4回：日本語の文字・表記の特徴3（表記法） 第5回：日本語の待遇表現の特徴1（待遇表現） 第6回：日本語の待遇表現の特徴2（授受表現） 第7回：日本語の待遇表現の特徴3（敬語のしくみ） 第8回：日本語の待遇表現の特徴4（間違いやすい敬語など） 第9回：文章表現についての概説 第10回：文章表現の練習1（感想文など） 第11回：文章表現の練習2（説明文など） 第12回：テーマに沿った文章の作成1（文章の作成） 第13回：テーマに沿った文章の作成2（文章の相互評価） 第14回：テーマに沿った文章の作成3（文章の修正、推敲） 第15回：授業内容の振り返りとまとめ				
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。				
参考書・参考資料等				

沖森 卓也・木村 義之・陳 力衛・山本 真吾『図解日本語』三省堂、山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版、石黒圭『日本語文章チェック事典』東京堂出版、石黒圭『この1冊できちんと書ける論文・レポートの基本』日本実業出版社 など

学生に対する評価

授業参加態度（提出物、質疑応答）40%、小テスト30%、レポート30%

授業科目名： 国語学概説Ⅲ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山下真里 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1 日本語の変遷についての基礎的な知識を身につけ、説明できる。 2 身の回りのことばについて、日本語の変化という観点からとらえることができる。			
授業の概要 日本語の変遷について、文字、音韻、仮名遣い、文法、語彙の分野ごとに解説する。			
授業計画 第1回：ガイダンス（授業の進め方と成績評価）、日本語の歴史について 第2回：文字史1（漢字） 第3回：文字史2（仮名） 第4回：音韻史1（五十音図） 第5回：音韻史2（アヤワ行の変遷） 第6回：音韻史3（子音の変遷） 第7回：音韻史4（四つ仮名） 第8回：音韻史5（音の変化のまとめ） 第9回：仮名遣い1（仮名遣いの発生） 第10回：仮名遣い1（歴史的仮名遣い） 第11回：文法史1（上代・中古の文法） 第12回：文法史2（活用の種類の変遷） 第13回：文法史3（動詞） 第14回：語彙史1（和文語と訓読語） 第15回：語彙史2（位相語） 期末試験			
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 沖森 卓也・木村 義之・陳 力衛・山本 真吾『図解日本語』三省堂、沖森卓也編著『日本語ライブラリー日本語史概説』朝倉書店、岡崎友子・森勇太『ワークブック日本語の歴史』くろしお出版 など			
学生に対する評価			

授業参加態度（提出物、課題）40%、期末試験 60%

授業科目名： 国語学演習Ⅰ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山下 真里／中里 理子 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 現代日本語の意味や用法、文法などを分析することを通して、国語教育で必要とされる日本語の意味や用法、文法をわかりやすく説明する力を身に付ける。			
授業の概要 第1回から第5回では、国語教育において日本語を分析できる力の重要性および日本語について調査・分析する方法を学ぶ。第6回以降は、各自がテーマを見つけて実際に調査・分析を行った内容を発表し、話し合いを行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：国語教育と日本語分析力の関連性について 第3回：現代日本語の調査テーマについて 第4回：現代日本語の分析方法について（事前調査の方法） 第5回：現代日本語の分析方法について（本調査の方法） 第6回：ことばの意味に関する調査テーマの検討 第7回：ことばの用法に関する調査テーマの検討 第8回：文法に関する調査テーマの検討 第9回：ことばの意味に関する調査結果の中間発表と質疑応答 第10回：ことばの用法に関する調査結果の中間発表と質疑応答 第11回：文法に関する調査結果の中間発表と質疑応答 第12回：ことばの意味に関する調査結果の発表と質疑応答 第13回：ことばの用法に関する調査結果の発表と質疑応答 第14回：文法に関する調査結果の発表と質疑応答 第15回：全体のまとめ 定期試験は実施しない			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			

適宜、授業中に紹介する
学生に対する評価
授業への取り組み：20%、発表（資料作成と話し合い）：30%、最終レポート：50%

授業科目名： 国語学演習Ⅱ 【独自科目（佐大）】		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中里 理子 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1 古語の意味と古典文法を理解し、古典作品を読み味わうことができる。 2 古語の意味・用法について分析的に考え、整理することができる。 3 語彙研究の方法を理解し、実践できる。				
授業の概要 教科書で扱う古典作品を中心に、古語や表現に着目して読み味わう。合わせて古典文法や当時の文化に関する知識を確認し作品理解を深める。後半は作品ごとに分担を割り当て、受講者の発表を取り入れて作品を読み進める。				
授業計画 第1回：授業のガイダンス、古典作品の背景：文学史概説 第2回：中古の作品と文化的背景：竹取物語 第3回：中古の作品と古語1：伊勢物語 第4回：中古の作品と古語2：大和物語 第5回：中古の作品と古語3：土佐日記 第6回：中古の作品と古語4：蜻蛉日記 第7回：中古の作品と古語5：紫式部日記 第8回：中古の作品と古語6：源氏物語 第9回：「枕草子」の調査発表と質疑応答 第10回：「大鏡」の調査発表と質疑応答 第11回：「平家物語」の調査発表と質疑応答 第12回：「徒然草」の調査発表と質疑応答 第13回：「今昔物語集」の調査発表と質疑応答 第14回：「奥の細道」の調査発表と質疑応答 第15回：まとめ（古典作品と古語） 定期試験は実施しない				
テキスト 授業中適宜資料を配布する				
参考書・参考資料等				

適宜、授業中に紹介する
学生に対する評価
授業への取り組み：10%、発表（資料作成と話し合い）：40%、最終レポート：50%

授業科目名： 国語学演習Ⅲ 【独自科目（佐大）】		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中里 理子 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1 日本語学（国語学）の研究について理解し、研究方法を身につける。 2 国語学的観点から言葉を分析することができる。 3 自分の考えをわかりやすく伝えることができる。				
授業の概要 日本語学（国語学）の研究分野の中から、語彙と文章表現を中心に、文字・表記、意味変化、文法などを取り上げ、課題の発見のしかたと研究方法について学ぶ。前半は、語彙を中心に解説しながら簡単な課題について考える。後半は、受講生各自が興味を持った研究分野・研究対象を選び、簡単な調査を行い、データを分析・考察して資料にまとめて発表を行う。				
授業計画 第1回：授業ガイダンス、国語学（日本語学）という学間について 第2回：日本語の語彙1（若者語・流行語・略語） 第3回：日本語の語彙2（言葉の性差） 第4回：日本語の語彙3（意味変化） 第5回：日本語の文字と表記 第6回：現代小説の文章表現と文体 第7回：古典作品の文体 第8回：日本語の文法 第9回：語彙（若者語など）に関する調査の発表と質疑応答 第10回：語彙（言葉の性差など）に関する調査の発表と質疑応答 第11回：語彙（現代語の意味など）に関する調査の発表と質疑応答 第12回：語彙（古語の意味変化など）に関する調査の発表と質疑応答 第13回：現代小説の文章表現に関する調査の発表と質疑応答 第14回：文法に関する調査の発表と質疑応答 第15回：まとめ（分析の観点） 定期試験は実施しない				
テキスト 授業中適宜資料を配布する				

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する

学生に対する評価

授業参加態度（質疑応答、小課題発表）：20% 研究発表（資料と話し合い）：30%

発表後の最終レポート：50%

授業科目名： 国語学特別演習Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山下真里 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 国語学の諸問題および国語学に関する基礎的な調査方法、文献読解力を身につけること。			
授業の概要 指定された、または受講者が設定したテーマについて、調査発表者を決め質疑応答を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：資料例の提示、担当の決定 第3回：日本語をめぐる諸問題 研究テーマについて 第4回：日本語をめぐる諸問題 現代日本語を対象とした研究論文の紹介発表・質疑応答1 第5回：日本語をめぐる諸問題 古典日本語を対象とした研究論文の紹介発表・質疑応答2 第6回：日本語をめぐる諸問題 調査の方法について 第7回：現代日本語をめぐる諸問題 調査テーマの発表・質疑応答1 第8回：古典日本語をめぐる諸問題 調査テーマの発表・質疑応答2 第9回：現代日本語（語彙）をめぐる諸問題 調査結果の発表・質疑応答1 第10回：現代日本語（文字表記）をめぐる諸問題 調査結果の発表・質疑応答2 第11回：現代日本語（文法）をめぐる諸問題 調査結果の発表・質疑応答3 第12回：古典日本語（語彙）をめぐる諸問題 調査結果の発表・質疑応答4 第13回：古典日本語（文字表記）をめぐる諸問題 調査結果の発表・質疑応答5 第14回：古典日本語（文法）をめぐる諸問題 調査結果の発表・質疑応答6 第15回：全体のまとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 大木一夫編『ガイドブック日本語史研究法』ひつじ書房、小椋秀樹編『コーパスで学ぶ日本語学 日本語の語彙・表記』朝倉書店、田中牧郎編『コーパスで学ぶ日本語学 日本語の歴史』朝倉書店 など			

学生に対する評価

発表の内容（70％）、質疑応答への参加（30％）

授業科目名： 国語学特別演習Ⅱ 【独自科目（熊大）】		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山下真里 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 国語学研究の諸問題および研究論文を読解する力を身につけること。				
授業の概要 指定された、または受講者が設定したテーマについて、調査発表者を決め質疑応答を行う。				
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：資料例の提示、担当の決定 第3回：日本語をめぐる諸問題 研究テーマについて 第4回：日本語をめぐる諸問題 共時的研究を行なう研究論文の紹介発表・質疑応答1 第5回：日本語をめぐる諸問題 通時的研究を行なう研究論文の紹介発表・質疑応答2 第6回：日本語をめぐる諸問題 調査の方法について 第7回：日本語の共時的研究をめぐる諸問題 調査テーマの発表・質疑応答1 第8回：日本語の通時的研究をめぐる諸問題 調査テーマの発表・質疑応答2 第9回：日本語の共時的研究（語彙）をめぐる諸問題 発表・質疑応答1 第10回：日本語の共時的研究（文字表記）をめぐる諸問題 発表・質疑応答2 第11回：日本語の共時的研究（文法）をめぐる諸問題 発表・質疑応答3 第12回：日本語の共時的研究（語彙）をめぐる諸問題 発表・質疑応答4 第13回：日本語の共時的研究（文字表記）をめぐる諸問題 発表・質疑応答5 第14回：日本語の共時的研究（文法）をめぐる諸問題 発表・質疑応答6 第15回：全体のまとめ 定期試験は実施しない。				
テキスト 特になし。				
参考書・参考資料等 日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版、日本漢字学会編『漢字文化事典』丸善出版				
学生に対する評価 発表の内容（70％）、質疑応答への参加（30％）				

授業科目名： 国文学概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中尾健一郎・跡上史郎
【共同科目（熊大）】			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 国語及び高等学校 国語・書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 国文学史及び国文学に関する歴史的理解を得ること。			
授業の概要 国文学に関して具体的な作品を挙げながら歴史を講ずる。			
授業計画 第1回：ガイダンス、上代における神話と歌謡 『古事記』と『万葉集』（担当：中尾健一郎） 第2回：中古の和歌と物語 『古今和歌集』と『伊勢物語』（担当：中尾健一郎） 第3回：中古の随筆と物語 『枕草子』と『源氏物語』（担当：中尾健一郎） 第4回：中世の和歌と歌論書 『百人一首』と『毎月抄』（担当：中尾健一郎） 第5回：中世の随筆と物語 『徒然草』と『平家物語』（担当：中尾健一郎） 第6回：近世の紀行文と俳句 『おくのほそ道』（担当：中尾健一郎） 第7回：近世国学とその周辺 本居宣長『玉勝間』、上田秋成『雨月物語』（担当：中尾健一郎） 第8回：最初の近代小説『浮雲』の写実主義（担当：跡上史郎） 第9回：島崎藤村『破戒』と田山花袋「蒲団」の自然主義（担当：跡上史郎） 第10回：夏目漱石「坊っちゃん」と国の命運（担当：跡上史郎） 第11回：芥川龍之介の技巧と「奉教人の死」（担当：跡上史郎） 第12回：やることがなくなった太宰治のデビュー作『晩年』（担当：跡上史郎） 第13回：現実を文学にしてしまう三島由紀夫の三島事件（担当：跡上史郎） 第14回：近代文学をも飲み込む現代の古典文学・湊澤龍彦（担当：跡上史郎） 第15回：全体のまとめ（担当：跡上史郎） 定期試験は実施しない。			
テキスト 適宜PDF・プリント等配布。			
参考書・参考資料等 乾安代他編『日本古典文学史』（双文社出版、1987・1） 山崎義光他編『日本近現代文学史への招待』（ひつじ書房、2024・10）			

学生に対する評価

古典文学の課題（50％）、近現代文学の課題（50％）

授業科目名： 国文学論 【独自科目（佐大）】		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野坂 昭雄
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 国語 及び 高等学校 国語・書写)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 【授業のテーマ】 ・国語の教員に求められる知識として日本文学の歴史や作品の多様性への理解を深めること ・文学作品を通して文化や社会の問題に関心を持つこと 【到達目標】 ・日本の近代文学の歴史、展開、意義について理解している ・小説の分析・解釈の方法を理解し、それを用いて作品を読み、作品についての自分の考えを 他者に適切に説明できる				
授業の概要 講義の10回分は、近代文学史（主に小説）における重要なトピックを辿りながら、歴史的な展開について講義を行う。高校までのように、単に作家名と作品名を覚えるだけではなく、実際の作品に触れながら立体的に理解できるよう授業を進める。 残りのうち4回で、語り手や人称、小説の構造など、文学作品を理解する上で重要な事項を具体的に uptake、グループワークをしながら作品を読んでいく。				
授業計画 第1回：概説——日本・近代・文学の歴史 第2回：近代文学と近代以前の文学——書物の流通と印刷 第3回：小説の読解①——語り手について（グループワーク） 第4回：戯作文学と翻訳文学——明治文学史(1) 第5回：言文一致と「内面」の発見——明治文学史(2) 第6回：国木田独歩——明治文学史(3) 第7回：小説の読解②——フィクションの構造（グループワーク） 第8回：自然主義——明治文学史(4) 第9回：出版文化の発展——大正文学史(1) 第10回：白樺派と社会——大正文学史(2) 第11回：小説の読解③——文学の社会性について（グループワーク）				

第12回：プロレタリア文学——昭和文学史(1)

第13回：都市文化とモダニズム文学——昭和文学史(2)

第14回：戦争と文学——昭和文学史(3)

第15回：小説の読解④——国語教育と文学（グループワーク）

定期試験

テキスト

教科書は特に用いない。授業ではプリントを配付する。

参考書・参考資料等

授業の予習・復習の際には、高校の国語便覧を活用すること。

学生に対する評価

各回の終わりに提出してもらうコメントペーパーの記載内容から判断する平常点（40%）と、講義終了後の最終レポートの内容（60%）とを総合して評価する。

授業科目名： 国文学講義Ⅰ（古典） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：日高愛子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語及び高等学校 国語・書道）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 古代から近世までの日本古典文学の流れを理解し、主要な作品の文学史的 position 付けについて説明できる。 (2) 作品の成立背景や他作品との影響関係、後世の受容と展開について理解を深める。			
授業の概要 古代から近世までの日本古典文学の流れについて講述する。具体的な作品を取り上げ、成立の背景や時代性、作者の問題等について考えるとともに、他作品との影響関係や後世の受容と展開について理解を深める。			
授業計画 第1回：イントロダクション ― 文学の発生 第2回：古代の漢詩と和歌 第3回：中古の物語文学 第4回：日記文学の展開 第5回：随筆文学の問題 第6回：歴史物語の世界 第7回：説話文学の世界 第8回：軍記物語の世界 第9回：中世の和歌と連歌 第10回：中世の物語文学 第11回：俳諧と紀行文 第12回：御伽草子と仮名草子 第13回：浮世草子と読本 第14回：出版文化の隆盛 第15回：授業の総括 定期試験 テキスト			

小峯和明編『日本文学史』吉川弘文館、2014年

参考書・参考資料等

小峯和明編『日本文学史 古代・中世編』ミネルヴァ書房、2013年

榎本隆司編『はじめて学ぶ日本文学史』ミネルヴァ書房、2010年

学生に対する評価

授業時のコメントシート（50％）ならびに学期末レポート（50％）によって総合的に評価する。
レポートは、授業で扱ったテーマに関連する作品を取り上げ、授業内容を正しく理解しているか、論理的に考察できているかという観点から評価を行う。

授業科目名： 国文学講義Ⅱ（近現代） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 跡上史郎 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語及び高等学校 国語・書道）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 日本近現代文学研究の実例及びレポートではない論文を書くことに関する理解を得ること。			
授業の概要 夏目漱石の研究史から文学研究の方法を学び村上春樹研究に応用する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：夏目漱石はどのように研究されてきたか？ 第3回：印象批評 第4回：作家論 第5回：作品論 第6回：テキストの概念 第7回：政治的批評 第8回：村上春樹の変質 第9回：妻や猫が消える物語 第10回：なぜ善は悪を滅ぼせないか？ 第11回：オウム真理教と論理的思考力 第12回：論理的な正解と合理的な近似解 第13回：村上春樹が夏目漱石から引き継いだもの 第14回：既存の物語を置き換える物語はあるか 第15回：全体のまとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 適宜PDF・プリント等配布。			
参考書・参考資料等 平野芳信『村上春樹』（勉誠社、2011・3）			
学生に対する評価 複数回の小課題（50％）と最終課題（50％）			

授業科目名： 国文学講読（古典） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中尾健一郎 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語及び高等学校 国語・書道）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 ・近世の随筆『和学知辺草』を典拠にあたって読み解き、その内容を十分に把握できる ・古語辞典を用いて原文と典拠の現代語訳、鑑賞文を作成して発表を行うことができる ・授業を実践するために必要な教材研究を遂行する能力を身につける			
授業の概要 講義・演習形式をとる。発表者をあらかじめ決定し、発表者の発表に基づいて質疑応答し、『和学知辺草』の内容を読解する形で授業を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：自叙 執筆の動機 第3回：凡例 和学と漢学を兼修する意義 第4回：第1章段 日本の位置 第5回：第5章段 日本の言葉① 上代における言葉の成り立ち、漢文の訓点の起こり 第6回：第5章段 日本の言葉② 中世における唐音の流入、畿内への方言の流入 第7回：第5章段 日本の言葉③ 近世における外来語の流入、字書・韻書の解説 第8回：第7章段 和歌のこと① 和歌の起こり 第9回：第7章段 和歌のこと② 歌風の変遷 第10回：第7章段 和歌のこと③ 和歌の秘伝 第11回：第7章段 和歌のこと④ 和歌と連歌・俳諧の関係 第12回：第25章段 大黒と恵比須① 大黒天と大己貴神 第13回：第25章段 大黒と恵比須② 大己貴神の異称 第14回：第25章段 大黒と恵比須③ 恵比須の由来 第15回：まとめと振り返り 定期試験は実施しない			
テキスト 適宜、プリント等を配布			

参考書・参考資料等

授業時間中に紹介する

学生に対する評価

授業における質疑応答および課題提出（20％）、担当部分の発表（30％）、期末レポート（50％）

授業科目名： 国文学演習Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 白石 良夫 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 国語 及び 高等学校 国語・書道）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 国語辞典を読む。「ことば」というものを自覚的に認識する習慣を身につけることを目指す			
授業の概要 国語辞典はふつう引くものであるが、本授業では語釈を始め、用例・語誌などを丁寧に読む。			
授業計画 第1回：ガイダンス、テキスト配付 第2回：国語辞典概説 第3回：凡例とは何か 第4回：辞書の任意のページを抽出して、丁寧に読み解く。常用漢字について理解を深める。 第5回：文法研究の歴史を理解する。 第6回：学校文法について理解を深める。 第7回：「いろは」「五十音図」を理解する。 第8回：中間まとめと確認 第9回：辞書の任意のページを抽出して、丁寧に読み解く。仮名遣いの理解を深める。 第10回：表音文字としての仮名を理解する。 第11回：日本語の特質を知る。 第12回：言葉の変化について考える。 第13回：国語辞典の項目を執筆してみる。 第14回：国語辞典と国語授業についての討論。 第15回：全授業を総括する。 定期試験			
テキスト 新明解国語辞典（三省堂書店刊）			
参考書・参考資料等 新解さんの謎（赤瀬川源平著）			
学生に対する評価 定期試験、レポート、小テスト			

授業科目名： 国文学演習Ⅱ 【独自科目（佐大）】		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 白石 良夫
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 国語 及び 高等学校 国語・書道 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 古典の原典を読む。崩し字の文字が読めるようになることを目指す。				
授業の概要 古典の作品を、活字本ではなく、古典時代の読者とおなじ原典で読む。				
授業計画 第1回：ガイダンス、テキスト配付 第2回：テキスト解説 第3回：仮名の発生を歴史的に考察する。 第4回：小城文庫蔵「無名歌集」のコピーをつかって、仮名の崩し字を読む演習。 第5回：承前。注釈作業をする。 第6回：まとめと確認。 第7回：「広益俗説弁」のコピーをつかって、漢字の崩し字を読む演習。 第8回：承前。注釈作業をする。 第9回：承前。注釈作業をする。 第10回：まとめと確認。 第11回：「無名歌集」の翻刻と校訂作業。 第12回：承前。 第13回：「広益俗説弁」の翻刻と校訂作業。 第14回：承前。 第15回：まとめ 定期試験				
テキスト 原本のコピーを配付する。				
参考書・参考資料等 なし				
学生に対する評価 定期試験、及びレポート。				

授業科目名： 国文学演習Ⅲ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 白石 良夫 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 国語 及び 高等学校 国語・書道 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 江戸の都市空間と藩邸。江戸後期の社会・生活・文化・学問などを理解する。			
授業の概要 柳河藩士牧園茅山の江戸滞在日記（文政2年6月）の日記を読む。その日、江戸で何があったかを観察しながら、江戸の都市空間とそこに生きる一漢学者の生活を読み解く。s			
授業計画 第1回：ガイダンス、テキスト配付 第2回：江戸時代概説 第3回：登場人物たちの概要 第4回：テキスト（白石稿「文政二年六月、江戸の都市空間と藩邸」）を丁寧に読み解く。 第5回：同上。江戸藩邸のシステムと機能について理解する。 第6回：同上。江戸時代の学問と文化と生活を理解する。 第7回：同上。近世儒教の歴史。 第8回：まとめと確認。 第9回：上記テキストを読む。近世の出版文化と教育。 第10回：同上。文人たちの交流について知る。 第11回：同上。近世文学史、雅文芸の世界を知る。 第12回：同上。近世文学史、俗文学の世界を知る。 第13回：まとめと確認 第14回：上記テキストを読む。江戸と地方文化の交流を考える。 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 白石稿「文政二年六月、江戸の都市空間と藩邸」			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 定期試験、レポート、小テスト			

授業科目名： 国文学演習Ⅳ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 白石 良夫
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 国語 及び 高等学校 国語・書道 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 古典と仮名遣い。仮名遣いの本質を認識する。			
授業の概要 規範仮名遣いの歴史をたどる。こんにちの現代仮名遣いの意味を理解する。			
授業計画 第1回：ガイドダンス、テキスト解説 第2回：仮名遣いの認識 第3回：日本語の音とその表記の歴史 第4回：仮名遣いの誕生（前半） 第5回：承前（後半） 第6回：定家仮名遣いの論理（前半） 第7回：承前（後半） 第8回：契沖仮名遣いの世界（前半） 第9回：承前（後半） 第10回：歴史的仮名遣いの非実用性（前半） 第11回：承前（後半） 第12回：現代仮名遣い解説（前半） 第13回：承前（後半） 第14回：現代仮名遣いと古典 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 白石良夫「かなづかい入門」（平凡社）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 定期試験、レポート、小テスト			

授業科目名： 国文学特別演習Ⅰ（近現代） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 跡上史郎 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 国語及び高等学校 国語・書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 日本近現代文学に関する歴史的・表現論的知識を調査する力を身につけること。			
授業の概要 指定された、または受講者が選んだ近現代文学について発表・質疑応答を行い、歴史・表現両面における調査能力を高める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：日本近代文学の始まりと写実主義 第3回：近代の文語文 第4回：近代に始まった言文一致体 第5回：近代に始まった児童文学 第6回：近代における女性作家 第7回：翻訳文学の果たした役割 第8回：日清・日露戦争と近代文学 第9回：ストーリーとプロット 第10回：大戦中の文学 第11回：戦後と現代文学 第12回：1960～70年代の現代文学 第13回：1980年代以降の現代文学 第14回：世界に広まる日本の近現代文学 第15回：全体のまとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 山崎義光他編『日本近現代文学史への招待』（ひつじ書房、2024・10）			

学生に対する評価

発表の内容（70％）、質疑応答への参加（30％）

授業科目名： 国文学特別演習Ⅱ（近現代） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 跡上史郎 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 国語及び高等学校 国語・書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 近現代文学の説明文（論説文）を書くことを通じて説明文と文学の関係を理解する。			
授業の概要 指定された、または受講者が選んだ近現代文学について、データ、論拠（裏付け、限定詞、反証）、主張の視点から発表・質疑応答を行い、説明文（論説文）を書く。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：文学のデータ（1）：本文と国立国会図書館の活用 第3回：文学のデータ（2）：同時代言説 第4回：文学のデータ（3）：作家の蔵書 第5回：文学のデータ（4）：対談やインタビュー 第6回：文学の論拠（1）：評伝 第7回：文学の論拠（2）：先行研究 第8回：文学の論拠（3）：印象批評 第9回：文学の論拠（4）：構造主義・記号論 第10回：文学の論拠（5）：歴史・政治的批評 第11回：文学の論拠（6）：時代による趨勢の変化 第12回：文学の主張・結論（1）：論理的思考 第13回：文学の主張・結論（2）：合理的判断 第14回：文学の主張・結論（3）：前提の変更と情報量の増大 第15回：全体のまとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 渡邊雅子『論理的思考とは何か』（岩波書店、2024・10）			

学生に対する評価

発表の内容（70％）、質疑応答への参加（30％）

授業科目名： 漢文学概説Ⅰ 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 奥野 新太郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 国語 及び 高等学校 国語・書道 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 漢文学 ・ 「漢文学、国文学」		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 漢文に関する基礎的な事項を理解する。 ・ 中国古典文学（特に詩歌）の表現や主題を分析する力を養う。			
授業の概要 中国古典文学における重要な事項を取り上げて、それに関連する様々な時代の資料を読み、漢文の表現や主題について理解を深めていく。前半は、対句や韻律といった漢詩特有の表現技法について考察し、後半は作品のテーマやモチーフについて検討していく。			
授業計画 第1回：ガイダンス、漢字・漢語学習の意義 第2回：現代における漢語 第3回：対句① 概論 第4回：対句② 杜甫 第5回：韻律① 漢語の特性、押韻 第6回：韻律② 近体詩の成立、平仄 第7回：典故① 概論、故事成語 第8回：典故② 李白、李商隠など 第9回：詩語 松竹梅、花鳥風月など 第10回：比喩① 『詩経』の賦・比・興 第11回：比喩② 人為と自然の問題——景情一致 第12回：テーマ① 出仕と隠逸 第13回：テーマ② 離別と友情 第14回：テーマ③ 家族と恋情 第15回：まとめと補足 定期試験			
テキスト プリント配布			

参考書・参考資料等
佐藤保『詳講 漢詩入門』（ちくま学芸文庫）、同『漢詩のイメージ』（大修館書店）、前野直彬『精講 漢文』（ちくま学芸文庫）、同『中国文学序説』（東京大学出版会）
学生に対する評価
平常点（各回のミニレポート）30点、期末テスト70点

授業科目名：漢文学概説Ⅱ 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中尾健一郎 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語及び高等学校 国語・書道）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・漢文学 ・「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 ・中国と日本の漢詩に関する知識に習熟する ・漢詩の語釈、書き下し文、現代語訳、鑑賞文を作成して発表を行うことができる ・授業を実践するために必要な教材研究を遂行する能力を身につける			
授業の概要 講義・演習形式をとる。発表者をあらかじめ決定し、発表者の発表に基づいて質疑応答し、漢詩の内容を読解する形で授業を行う。			
授業計画 第1回：唐詩の概説 第2回：孟浩然、王維の詩 第3回：李白の詩 第4回：杜甫の詩（1）「天末憶李白」、「旅夜書懷」 第5回：杜甫の詩（2）「詠懷古蹟」二首 第6回：韓愈、柳宗元、白居易の詩 第7回：杜牧、李商隱の詩 第8回：日本漢詩の概説 第9回：梁川星巖、菊池五山の詩 第10回：松橋純真、門田隣の詩 第11回：石野世彝、広瀬謙の詩 第12回：長允、草場廉の詩 第13回：橋本旋、広瀬範詩 第14回：山本錫夫、春木晃の詩 第15回：まとめと振り返り 定期試験は実施しない			
テキスト 適宜PDF、プリント等を配布			

参考書・参考資料等
小川環樹『唐詩概説』（岩波書店、2005年）、揖斐高『江戸漢詩選（上・下）』（岩波書店、2021年）
学生に対する評価
授業における質疑応答および課題提出（20％）、担当部分の発表（30％）、期末レポート（50％）

授業科目名： 漢文学演習Ⅰ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中尾 健一郎／奥野 新太郎 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語及び高等学校 国語・書道）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・漢文学 ・「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 ・中国の古典文献を読み解くための基礎力を養う。 ・辞書や辞典、工具書の扱いに習熟する。			
授業の概要 演習形式をとる。発表者をあらかじめ決定し、発表者の発表に基づいて質疑応答し、『蒙求』の内容を読解する形で授業を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：孫楚漱石、郝隆曬書 第3回：匡衡鑿壁、孫敬閉戸 第4回：孫康映雪、車胤聚螢 第5回：陳雷膠漆、范張鷄黍 第6回：李広成蹊 第7回：李陵初詩 第8回：田横感歌 第9回：燕昭築台 第10回：卞和泣玉 第11回：軻親断機 第12回：田単火牛 第13回：紀昌貫虱、養由号猿 第14回：呂安題鳳、子猷尋戴 第15回：まとめと振り返り 定期試験は実施しない			
テキスト 適宜プリント配布等を行う			

参考書・参考資料等

授業時間中に紹介する

学生に対する評価

授業における質疑応答および課題提出（20％）、担当部分の発表（30％）、期末レポート（50％）

授業科目名： 漢文学演習Ⅱ 【独自科目（佐大）】		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 奥野 新太郎
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 国語 及び 高等学校 国語・書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 漢文学 ・ 「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 中国の古典文献を読み解くための基礎力を養う。 ・ 辞書や辞典、工具書の扱いに習熟する。				
授業の概要 漢文を読むために必要な辞書や工具書を紹介した後、演習形式で作品を読み進めていく。高校の漢文教科書に載っている詩歌を主に取りあげて精読する。毎回、担当者を決め、原文の訓読 ・ 日本語訳と注釈を発表してもらう。担当者以外も毎回、必ず予習をしておくこと。質疑応答、討論など授業への積極的な参加を求める。				
授業計画 第1回：ガイダンス、辞書・辞典の説明 第2回：『詩経』 第3回：古詩十九首 第4回：曹植 第5回：陶淵明 第6回：王維・孟浩然 第7回：李白 第8回：杜甫 第9回：白居易 第10回：杜牧・李商隠 第11回：蘇軾 第12回：陸游 第13回：菅原道真 第14回：江戸の漢詩人 第15回：夏目漱石 テスト				

テキスト プリント配布
参考書・参考資料等 東京書籍『精選古典探究 漢文編』、明治書院『精選 古典探究 漢文編』、大修館『古典探究 漢文編』、数研出版『古典探究 漢文編』など
学生に対する評価 平常点（予習状況、質疑応答、議論など）20%、発表とレジュメ30%、テスト50%の割合で総合的に評価する。

授業科目名： 漢文学演習Ⅲ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 奥野 新太郎 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 国語 及び 高等学校 国語・書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 漢文学 ・ 「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 中国の古典文献を読み解くための基礎力を養う。 ・ 辞書や辞典、工具書の扱いに習熟する。 ・ 中国古典文学の分野において、自ら問題を発見し、解決していく専門的な思考力を身につけ、卒業研究につなげる。			
授業の概要 漢文を読むために必要な辞書や工具書を紹介した後、演習形式で作品を読み進めていく。白居易の詩歌を取りあげて精読する。毎回、担当者を決め、原文の訓読・日本語訳と注釈を発表してもらう。担当者以外も毎回、必ず予習をしておくこと。質疑応答、討論など授業への積極的な参加を求める。			
授業計画 第1回：ガイダンス、辞書・辞典の説明 第2回：白居易の経歴と詩風に関する概説 第3回：新楽府・上陽白髪人 第4回：新楽府・新豊折臂翁 第5回：新楽府・五絃弾 第6回：新楽府・売炭翁 第7回：新楽府・澗底松 第8回：新楽府・李夫人 第9回：新楽府・井底引銀瓶 第10回：長恨歌・前半部分 第11回：長恨歌・後半部分 第12回：琵琶引・前半部分 第13回：琵琶引・後半部分 第14回：中隠 第15回：不能忘情吟			

テスト
テキスト
プリント配布
参考書・参考資料等 小川環樹『唐詩概説』（岩波文庫、2005年）、高木正一『白居易』上・下（岩波書店、1958） 、川合康三『白楽天一官と隠のはざままで』（岩波新書、2010年）、川合康三『白楽天詩選』上 ・下（岩波文庫、2011年）
学生に対する評価 平常点（予習状況、質疑応答、議論など）20%、発表とレジュメ30%、テスト50%の割合で総合的に 評価する。

授業科目名： 漢文学特別演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中尾健一郎
【独自科目（熊大）】			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 国語及び高等学校 国語・書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 漢文学 ・ 「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 漢文学の諸問題及び漢文学と国文学の関係に関する基礎的読解力を身につけること。			
授業の概要 指定された、または受講者が選んだ文学作品について調査発表者を決め質疑応答を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：資料例の提示、担当の決定 第3回：『詩経』をめぐる諸問題 発表・質疑応答1 第4回：『楚辞』をめぐる諸問題 発表・質疑応答2 第5回：五言古詩をめぐる諸問題（1）漢代、魏晋時代 発表・質疑応答3 第6回：楽府をめぐる諸問題 発表・質疑応答4 第7回：五言古詩をめぐる諸問題（2）南北朝時代 発表・質疑応答5 第8回：初唐詩をめぐる諸問題 発表・質疑応答6 第9回：盛唐詩をめぐる諸問題（1）孟浩然・李白 発表・質疑応答7 第10回：盛唐詩をめぐる諸問題（2）王維・杜甫 発表・質疑応答8 第11回：中唐詩をめぐる諸問題 発表・質疑応答9 第12回：晩唐詩をめぐる諸問題 発表・質疑応答10 第13回：北宋詩をめぐる諸問題 発表・質疑応答11 第14回：南宋詩をめぐる諸問題 発表・質疑応答12 第15回：全体のまとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 佐藤一郎著『中国文学史』（第3版、慶應義塾大学出版会、2005・5）、村上哲見著『中国文学と日本 十二講』（創文社、2013・12）			

学生に対する評価

発表の内容（70％）、質疑応答への参加（30％）

授業科目名： 漢文学特別演習Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中尾健一郎 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 国語及び高等学校 国語・書道)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 漢文学 ・ 「国文学、漢文学」		
授業のテーマ及び到達目標 漢文学と国文学の関係に関する漢文学研究の諸問題、及び漢文学と国文学の比較研究に関する 研究論文を読解する力を身につけること。			
授業の概要 指定された、または受講者が選んだ研究論文について調査発表者を決め質疑応答を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：資料例の提示、担当の決定 第3回：『論語』をめぐる諸問題 発表・質疑応答1 第4回：諸子百家をめぐる諸問題（1）儒家と道家 発表・質疑応答2 第5回：諸子百家をめぐる諸問題（2）墨家と法家 発表・質疑応答3 第6回：先秦時代の史書をめぐる諸問題 発表・質疑応答4 第7回：『史記』と『漢書』をめぐる諸問題 発表・質疑応答5 第8回：辞賦文学をめぐる諸問題 発表・質疑応答6 第9回：南北朝時代の散文をめぐる諸問題（1）文芸理論書と逸話集 発表・質疑応答7 第10回：南北朝時代の散文をめぐる諸問題（2）志怪小説 発表・質疑応答8 第11回：唐代の散文作品をめぐる諸問題（1）韓愈と柳宗元 発表・質疑応答9 第12回：唐代の散文作品をめぐる諸問題（2）唐代伝奇 発表・質疑応答10 第13回：宋代の散文作品をめぐる諸問題（1）欧陽脩と王安石 発表・質疑応答11 第14回：宋代の散文作品をめぐる諸問題（2）司馬光と蘇軾 発表・質疑応答12 第15回：全体のまとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 佐藤一郎著『中国文学史』（第3版、慶應義塾大学出版会、2005・5）、鈴木修次著『中国文学			

と日本文学』(東京書籍、1978・9)、村上哲見著『中国文学と日本 十二講』(創文社、2013・12)

学生に対する評価

発表の内容(70%)、質疑応答への参加(30%)

授業科目名： 書写 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林田 恵実／藤木 香江 担当形態： クラス分け／単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 国語 及び 高等学校 書道 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道（書写を中心とする。） ・書道（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 書写の指導目標を知り、毛筆及び硬筆で楷書や行書の特徴をとらえて書けるようにする。			
授業の概要 小学校および中学校の国語科書写の学年目標を理解し、楷書や行書の特徴と基本点画、仮名との調和等について学ばせる。この授業は中学校の実務経験を有している教員が書写の実践的な教育を行う科目である。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、国語科書写の学習内容、姿勢・執筆（硬筆） 第2回：小学校国語科書写の指導事項と要点（低学年・硬筆と水書用筆） 第3回：小学校国語科書写の指導事項と要点（中学年・硬筆と毛筆） 第4回：小学校国語科書写の指導事項と要点（中学年・硬筆と毛筆） 第5回：小学校国語科書写の指導事項と要点（中学年・硬筆と毛筆） 第6回：小学校国語科書写の指導事項と要点（高学年・硬筆と毛筆） 第7回：中学校国語科書写の指導事項と要点（硬筆と毛筆）＊行書の特徴と基本用筆 第8回：中学校国語科書写の指導事項と要点（硬筆と毛筆）＊行書の特徴と基本用筆 第9回：中学校国語科書写の指導事項と要点（硬筆）＊行書による実用の書 第10回：中学校国語科書写の指導事項と要点（硬筆と毛筆）＊行書と仮名の調和 第11回：中学校国語科書写の指導事項と要点（毛筆）＊「座右の銘」を書く① 第12回：中学校国語科書写の指導事項と要点（毛筆）＊「座右の銘」を書く② 第13回：中学校国語科書写の指導事項と要点（毛筆）＊「座右の銘」の成果発表 第14回：教育と板書① 板書の基本 第15回：教育と板書② 板書の演習 定期試験は実施しない			
テキスト 国語科書写の理論と実践！			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領解説国語科編・中学校学習指導要領解説国語科編			
学生に対する評価 小学校書写課題作品（25％）、中学校書写課題作品（25％）、			

レポート等（25％）、意見交換・発表（25％）

授業科目名： 書道Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤木 香江 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 国語 及び 高等学校 書道）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道（書写を中心とする。） ・書道（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 楷書の特徴とその成り立ちを理解するとともに、多様な書風の違いが用筆法や字形の取り方と関係していることを理解し、その技法を習得する。			
授業の概要 北魏・唐時代の楷書の古典を中心に鑑賞・臨書に取り組むことにより楷書の特徴を捉え、用筆法・運筆法・字形の取り方等についても学ばせる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、現代社会における書の位置づけ、書の分野、漢字の書の定義と種類、楷書の成立過程と特徴 第2回：楷書の成立過程と特徴、基本点画と姿勢・執筆 第3回：唐時代の楷書の学習 「孔子廟堂碑」の概要と特徴の理解、および臨書 第4回：唐時代の楷書の学習 「九成宮醴泉銘」の概要と特徴の理解、および臨書 第5回：唐時代の楷書の学習 「雁塔聖教序」の概要と特徴の理解、および臨書 第6回：唐時代の楷書の学習 「顔氏家廟碑」の概要と特徴の理解、および臨書 第7回：唐時代の楷書の学習 唐の四大家による選択臨書 第8回：唐時代の楷書の学習のまとめ 唐の四大家による倣書（少字数作品の完成） 第9回：三国・北魏時代の楷書の学習 「薦季直表」の概要と特徴の理解、および臨書 第10回：三国・北魏時代の楷書の学習 「牛橛造像記」の概要と特徴の理解、および臨書 第11回：三国・北魏時代の楷書の学習 「龍門四品」の概要と特徴の理解、および臨書 第12回：三国・北魏時代の楷書の学習「鄭義下碑」「論經書詩」の概要と特徴の理解、および臨書 第13回：三国・北魏時代の楷書の学習のまとめ 三国・北魏時代の用筆による倣書（試書制作） 第14回：三国・北魏時代の楷書の学習のまとめ 三国・北魏時代の用筆による倣書（少字数作品の完成） 第15回：唐時代の楷書の学習のまとめ(唐の四大家による倣書の鑑賞と批評、楷書法のまとめ) 定期試験は実施しない			

テキスト	特になし
参考書・参考資料等	書の古典と理論 改訂版、授業中に適宜資料を配布する
学生に対する評価	課題作品(唐の四大家) (30%)、課題作品(三国・北魏) (25%) : 技能習得 レポート等 (30%)、意見交換・発表 (15%)

授業科目名： 書道Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤木香江 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 国語 及び 高等学校 書道）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 書道（書写を中心とする。） ・ 書道（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 作品制作で多用される行書・草書の特徴や成立過程を確認し、二つの書体を関連づけながら表現技法を身につけることができるようにする。			
授業の概要 行書と草書の古典作品の鑑賞と臨書を通して、多様な美を理解しながら表現技法を学ばせる。また、その表現技法を生かし、行草作品の創作に取り組みさせる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 現代社会における書の位置づけ、書の分野、漢字の書の定義 行書・草書の成立過程と特徴 第2回：行書の成立と特徴 行書の基本点画 ＊集字聖教序 第3回：東晋時代の行書の学習 「蘭亭序」の概要と特徴の理解、および臨書 第4回：平安時代の行書の学習 「唐様の書」の概要と特徴の理解、および臨書 第5回：唐時代の行書の学習 「三稿」の概要と特徴の理解、および臨書 第6回：北宋時代の行書の学習 「宋の三大家」の概要と特徴の理解、および臨書 第7回：平安時代の行書の学習 「和様の書」の概要と特徴の理解、および臨書 第8回：草書の成立過程と特徴 草書の基本点画 ＊真草千字文 第9回：東晋時代の草書の学習 「王羲之尺牘」の概要と特徴の理解、および臨書 第10回：唐時代の草書の学習 「書譜」の概要と特徴の理解、および臨書 第11回：唐時代の草書の学習 「自叙帖」の概要と特徴の理解、および臨書 第12回：明清時代の草書の学習 「王鐸」の長条幅の鑑賞、および臨書 第13回：行草書による創作 創作の手順と草稿作成 第14回：行草書による創作 五言絶句による作品の完成 第15回：行草書による創作 創作作品の鑑賞と批評、行草書法のまとめ 定期試験は実施しない			
テキスト 特になし			

参考書・参考資料等	書の古典と理論 改訂版、授業中に適宜資料を配布する
学生に対する評価	課題作品(行書) (25%)、課題作品(草書) (25%)、課題作品(創作) (5%) : 技能習得 レポート等 (30%)、意見交換・発表 (15%) : 特徴の理解

授業科目名： 書道Ⅲ 【独自科目（佐大）】		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 藤木香江 担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 国語 及び 高等学校 書道 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 書道（書写を中心とする。） ・ 書道（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 漢字の書体の中で最も古い篆書の基本構造や用筆法、さらに篆書を簡略化し、実用的な書体となった隸書の用筆法や字形を理解し、その技法を習得する。				
授業の概要 篆書は甲骨文・金文・大篆・小篆、隸書は古隸・八分、および簡牘を取り上げ、その鑑賞と臨書を通して、二つの書体の用筆法や字形について学ばせる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。				
授業計画 第1回：オリエンテーション 漢字の書体変遷、篆書の特徴と成立過程 第2回：殷時代の篆書の学習 「甲骨文」の概要と特徴の理解、および臨書 第3回：西周時代の篆書の学習 「金文」の概要と特徴の理解、および臨書 第4回：春秋・戦国時代の篆書の学習 「石鼓文」の概要と特徴の理解、および臨書 第5回：秦時代の篆書の学習 「泰山刻石」の概要と特徴の理解、および臨書 第6回：清時代の篆書の学習 碑学派による篆書作品の概要と特徴の理解、および選択臨書 第7回：篆書から隸書へ 簡牘の概要と鑑賞、および選択臨書 第8回：古隸の学習 「萊子侯刻石」「開通褒斜道刻石」の概要と特徴の理解、および選択臨書 第9回：八分の学習① 「曹全碑」の概要と特徴の理解、および臨書 第10回：八分の学習② 「礼器碑」の概要と特徴の理解、および臨書 第11回：八分の学習③ 「張遷碑」「石門頌」の概要と特徴の理解、および選択臨書 第12回：清時代の隸書の学習 碑学派による隸書作品の概要と特徴の理解、および選択臨書 第13回：篆書・隸書による創作 創作の手順と草稿作成（試書制作） 第14回：篆書・隸書による創作 創作作品の制作（作品の完成） 第15回：篆書・隸書による創作 篆書法・隸書法のまとめ 定期試験は実施しない				
テキスト 特になし				
参考書・参考資料等 書の古典と理論 改訂版、授業中に適宜資料を配布する				

学生に対する評価	課題作品(篆書) (25%)、課題作品(隸書) (25%)、課題作品(創作) (5%) : 技能習得 レポート等 (30%)、意見交換・発表 (15%) : 特徴の理解
----------	--

授業科目名： 書道Ⅳ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 藤木 香江 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 国語 及び 高等学校 書道 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 書道（書写を中心とする。） ・ 書道（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 仮名の成り立ちや意義、美的価値を理解し、基礎的な技法を身につける。また、漢字仮名交じりの書の歴史を押さえた上で表現方法を工夫し、自分のイメージにあった作品づくりができるようにする。			
授業の概要 仮名の基礎的な技法を習得し、臨書や散らし書きの学習によって仮名の美を学ばせる。また、漢字仮名交じりの書の基礎的な制作方法を身につけ、自分の思いにかなった制作に取り組ませる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 仮名の定義、漢字仮名交じりの書の定義、仮名の特徴と成立過程 第2回：仮名の基本線の学習 姿勢・執筆、単体、形連・意連 第3回：和歌を書く（行書きと散らし書き） 第4回：古筆の学習① 「高野切古今和歌集」の概要と理解、および臨書 第5回：古筆の学習② 「関戸本古今和歌集」の概要と理解、および臨書 第6回：古筆の学習③ 「三色紙」の概要と理解、および選択臨書 第7回：創作の学習①（草稿作成） 第8回：創作の学習②（表現の工夫） 第9回：創作の学習③（中間批評会） 第10回：創作の学習④（作品の完成） 第11回：仮名の書の学習のまとめ 創作作品の鑑賞と批評 第12回：漢字仮名交じりの書の学習 自作または引用による作品制作①（表現の工夫） 第13回：漢字仮名交じりの書の学習 自作または引用による作品制作②（構成・用具用材の工夫） 第14回：漢字仮名交じりの書の学習 自作または引用による作品制作③（作品の完成） 第15回：漢字仮名交じりの書の学習のまとめ 創作作品の鑑賞と批評 定期試験は実施しない			
テキスト 特になし			

参考書・参考資料等	書の古典と理論 改訂版、授業中に適宜資料を配布する
学生に対する評価	課題・創作作品(仮名) (35%)、創作作品(漢字仮名交じりの書) (15%) : 技能習得 レポート等 (30%)、意見交換・発表 (20%) : 特徴の理解

授業科目名： 中等国語科指導法Ⅰ 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 仁野平 智明／竜田 徹
				担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の学習構想や単元研究について理解することができる。				
2. 中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の学習指導案を作成することができる。				
3. 中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の学習構想や単元研究について理解したことに基づいて模擬授業を行うとともにその考察をすることができる。				
授業の概要				
本授業の内容は、中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の学習構想や単元研究について理解することである。				
本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。				
本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。				
授業計画				
第1回：国語科の目標と中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領の概要				
第2回：表現にかかわる生徒のことば				
第3回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習の目標と年間指導計画				
第4回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習の単元づくり				
第5回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習計画				
第6回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習のめあて（学習課題）				
第7回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習の言語活動				
第8回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習の評価				
第9回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習の指導上の留意点				
第10回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習の見通しと振り返り				
第11回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習のワークシートとノート				
第12回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習の学習指導案				

第13回：「話すこと・聞くこと」の模擬授業とICT活用

第14回：「書くこと」の模擬授業とICT活用

第15回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の模擬授業と機器活用の総括
定期試験は実施しない

テキスト

- ・文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
- ・文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
- ・文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編」東洋館出版（2018）
- ・文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）国語編」東山書房（2019）
- ・全国大学国語教育学会編、『新たな時代の学びを創る中学校・高等学校国語科教育研究』東洋館出版社（2019）
- ・竜田徹『構想力を育む国語教育』溪水社（2014）

参考書・参考資料等

授業中に担当者から提示、あるいは資料を配布する。

学生に対する評価

- ・各課題で評価する。
- ・受講者の状況や学修効果の観点から、各回の授業内容や順序を変更することがあり、それに
応じて課題の内容や回数が変わることもある。
- ・詳細については、当該年度のシラバスを熟読すること。
- ・期限内に提出しなかった者は評価の対象としない。
- ・詳細は当年のシラバスを熟読すること。
- ・予定している課題：「単元研究についてのレポート」、「学習指導案」、「学習の記録」の
作成等。

授業科目名： 中等国語科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 仁野平 智明／達富 洋二 担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究について理解すること ことができる。 2. 中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習指導案を作成することができる。 3. 中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究について理解した ことに基づいて模擬授業を行うとともにその考察をすることができる。				
授業の概要				
本授業の内容は、中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究につ いて理解することである。 本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題 の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習 得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。 本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。				
第1回：国語科の目標と中学校および高等学校学習指導要領の概要				
第2回：理解にかかわる生徒のことば				
第3回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の目標と年間指導計画				
第4回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の単元づくり				
第5回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習計画				
第6回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習のめあて（学習課題）				
第7回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の言語活動				
第8回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の評価				
第9回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の指導上の留意点				
第10回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の見通しと振り返り				
第11回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習のワークシートとノート活用				
第12回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の学習指導案				
第13回：「読むこと」の模擬授業とICT活用				
第14回：「知識及び技能」の模擬授業とICT活用				

第15回：「読むこと」・「知識及び技能」の模擬授業と機器活用の総括

定期試験は実施しない

テキスト

- ・文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
- ・文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
- ・文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編」東洋館出版（2018）
- ・文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）国語編」東山書房（2019）
- ・達富洋二『ここからはじまる国語教室』ひつじ書房（2023）

参考書・参考資料等

授業中に担当者から提示、あるいは資料を配布する。

学生に対する評価

- ・各課題で評価する。
- ・受講者の状況や学修効果の観点から、各回の授業内容や順序を変更することがあり、それに
応じて課題の内容や回数が変わることもある。
- ・詳細については、当該年度のシラバスを熟読すること。
- ・期限内に提出しなかった者は評価の対象としない。
- ・詳細は当年のシラバスを熟読すること。
- ・予定している課題：「単元研究についてのレポート」、「学習指導案」、「学習の記録」の
作成等。

授業科目名： 中等国語科指導法Ⅲ 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】		教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 仁野平 智明／達富 洋二 担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究について理解することが できる。 2. 中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習指導案を作成することが できる。 3. 中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究について理解した ことに基づいて模擬授業を行うとともにその考察をすることができる。				
授業の概要				
本授業の内容は、中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究につ いて理解することである。 本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題 の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習 得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。 本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。				
第1回：国語科の目標と中学校および高等学校学習指導要領の概要				
第2回：理解にかかわる生徒のことば				
第3回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の目標と年間指導計画				
第4回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の単元づくり				
第5回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習計画				
第6回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習のめあて（学習課題）				
第7回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の言語活動				
第8回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の評価				
第9回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の指導上の留意点				
第10回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の見通しと振り返り				
第11回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習のワークシートとノート活用				
第12回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の学習指導案				
第13回：「読むこと」の模擬授業とICT活用				
第14回：「知識及び技能」の模擬授業とICT活用				

第15回：「読むこと」・「知識及び技能」の模擬授業と機器活用の総括

定期試験は実施しない

テキスト

- ・文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
- ・文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
- ・文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編」東洋館出版（2018）
- ・文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）国語編」東山書房（2019）
- ・達富洋二『ここからはじまる国語教室』ひつじ書房（2023）

参考書・参考資料等

授業中に担当者から提示、あるいは資料を配布する。

学生に対する評価

- ・各課題で評価する。
- ・受講者の状況や学修効果の観点から、各回の授業内容や順序を変更することがあり、それに
応じて課題の内容や回数が変わることもある。
- ・詳細については、当該年度のシラバスを熟読すること。
- ・期限内に提出しなかった者は評価の対象としない。
- ・詳細は当年のシラバスを熟読すること。
- ・予定している課題：「単元研究についてのレポート」、「学習指導案」、「学習の記録」の
作成等。

授業科目名： 中等国語科指導法Ⅳ 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】		教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 北川 雅浩／竜田 徹
				担当形態： クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）における学習構想や単元研究についての理解を深めるとともに指導法について考察することができる。				
2. 中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）における学習指導案の質を高めるとともに指導法を具体化することができる。				
3. 中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）における指導法について考察したことに基づいて模擬授業を行うとともに指導法の課題を明らかにすることができる。				
授業の概要				
本授業の内容は、中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の学習構想や単元研究について理解を深めるとともに指導法について考察することである。				
本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。				
本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。				
授業計画				
第1回：中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の指導法				
第2回：中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の言語活動				
第3回：中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の評価				
第4回：「話すこと・聞くこと」の目標と内容				
第5回：「話すこと・聞くこと」の事例分析				
第6回：「話すこと・聞くこと」の学習指導案の作成				
第7回：「話すこと・聞くこと」の模擬授業とICT活用				
第8回：「話すこと・聞くこと」の模擬授業とICT活用の総括				
第9回：「書くこと」の目標と内容				
第10回：「書くこと」の事例分析				
第11回：「書くこと」の学習指導案の作成				
第12回：「書くこと」の模擬授業とICT活用				

第13回：「書くこと」の模擬授業とICT活用の総括

第14回：「読むこと」との接続と単元学習

第15回：「知識及び技能」との接続と単元学習

テキスト

- ・文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
- ・文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
- ・文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編」東洋館出版（2018）
- ・文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）国語編」東山書房（2019）
- ・全国大学国語教育学会編、『新たな時代の学びを創る中学校・高等学校国語科教育研究』東洋館出版社（2019）
- ・竜田徹『構想力を育む国語教育』溪水社（2014）

参考書・参考資料等

授業中に担当者から提示、あるいは資料を配布する。

学生に対する評価

- ・各課題で評価する。
- ・受講者の状況や学修効果の観点から、各回の授業内容や順序を変更することがあり、それに応じて課題の内容や回数が変わることもある。
- ・詳細については、当該年度のシラバスを熟読すること。
- ・期限内に提出しなかった者は評価の対象としない。
- ・詳細は当年のシラバスを熟読すること。
- ・予定している課題：「単元研究についてのレポート」、「学習指導案」、「学習の記録」の作成等。

授業科目名：国語科教育 学演習A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北川 雅浩
【独自科目（熊大） 】			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
国語科教育における小中連携や学び合いの充実に向けて、教材研究や学習指導案の作成に取り組むことを通して、国語科授業実践力を高めることができる。			
授業の概要			
初等国語科教育法や中等国語科教育法で学んだことをもとに、授業を構築・実践するための能力を身につける。			
授業計画			
第1回：9年間を見通した国語科カリキュラムの重要性			
第2回：国語科単元学習と教科書教材の活用			
第3回：子供たちの意欲や必要感を喚起する学習課題の設定			
第4回：言語活動の設定と言語活動モデルの準備			
第5回：主体的・対話的で深い学びを引き出す発問			
第6回：個の学びと集団での学び			
第7回：国語科における学習評価（教師による評価、自己・相互評価）			
第8回：A・B領域の学習指導案の作成			
第9回：C領域の学習指導案の作成			
第10回：国語科授業の実際（書くこと）			
第11回：国語科授業の実際（話すこと・聞くこと）			
第12回：国語科授業の実際（物語を読むこと）			
第13回：国語科授業の実際（説明文を読むこと）			
第14回：国語科授業の実際（言葉の特徴や使い方）			
第15回：総括とレポート課題			
テキスト			
中学校学習指導要領解説国語編 小学校学習指導要領解説国語編			
参考書・参考資料等			
授業内で適宜提示する			
学生に対する評価			

学習指導案及び模擬授業（40％）、授業内の協議等への参加（40％）、レポート課題（20％）

授業科目名：国語科教育 教育学演習B 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：仁野平智明
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ： 国語科教育学の理論と実践との統合を図り、自らの力で「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の授業構築ができるようになるための基礎力を培う。			
授業の概要：国語科「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」領域の目標と内容を理解するとともに小・中接続、中・高接続の観点から授業を構築・実践するための能力を身につける。			
授業計画			
第1回：国語科教育における「話すこと・聞くこと」の指導の意義を学ぶ			
第2回：小・中学校間接続の観点から「話すこと・聞くこと」の指導のあり方を考える			
第3回：小学校高学年の音声言語指導について考える（教材研究）			
第4回：小学年高学年の音声言語指導について考える（授業構想の検討）			
第5回：中学校の音声言語指導について考える（教材研究・指導法研究）			
第6回：中学校の音声言語指導について考える（学習指導案作成・模擬授業）			
第7回：高等学校の音声言語指導について考える（教材研究・指導法研究）			
第8回：中・高接続の観点から音声言語指導のあり方について考える（実践論文の考察）			
第9回：小・中学校間接続の観点から「書くこと」の指導を考える			
第10回：小学校高学年の「書くこと」の指導について考える（教材研究・学習指導案の検討）			
第11回：中学校の「書くこと」の指導について考える（教材研究・指導法研究）			
第12回：中学校の「書くこと」の指導について考える（学習指導案の検討・模擬授業）			
第13回：高等学校の音声言語指導について考える（教材研究・指導法研究）			
第14回：中・高接続の観点から「書くこと」の指導のあり方について考える（実践論文の考察）			
第15回：半期のまとめ			
定期試験			
テキスト：			
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』 文部科学省 平成30年2月			
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』 文部科学省 平成31年2月			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配付する。			

学生に対する評価

期末レポート（70％）、小課題（30％）

授業科目名： 国語科教育学演習C 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北川 雅浩 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 国語科教育の射程を捉え、理論に裏付けられた実践の成果を整理するとともに、新たに開拓され得る実践を展望することができる。			
授業の概要 国語科教育に関する多様な領域についての理論と実践とを往還させながら、新たな授業開発に向けての実践知を獲得する。			
授業計画 第1回：国語科教育の射程 第2回：理論と実践の往還 第3回：話すこと・聞くこと領域に関する理論の整理 第4回：話すこと・聞くこと領域における理論に基づいた実践事例の検討 第5回：書くこと領域に関する理論の整理 第6回：書くこと領域における理論に基づいた実践事例の検討 第7回：読むこと領域に関する理論の整理 第8回：読むこと領域における理論に基づいた実践事例の検討 第9回：領域を関連させた指導の実際 ―音声言語と文字言語の関連指導― 第10回：領域を関連させた指導の実際 ―言語による理解と表現の関連指導― 第11回：新たな領域につながる学習対象と指導の実際 第12回：音声言語領域に関する理論と実践の探索（発表・協議） 第13回：文字言語領域に関する理論と実践の探索（発表・協議） 第14回：メディアリテラシー、演劇教育等に関する理論と実践の探索（発表・協議） 第15回：総括とレポート作成			
テキスト 必要な資料は授業内で配布する。			
参考書・参考資料等 各授業にて紹介する。			
学生に対する評価 授業内での発表（50％）、協議会への参加（25％）レポート課題（25％）			

授業科目名：国語科教育 教育学演習D 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：仁野平智明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ： 国語科教育学の理論と実践との統合を図り、自らの力で「読むこと」の授業構築ができるようになるための基礎力を培う。			
授業の概要：国語科「読むこと」領域の目標と内容を理解するとともに、小・中接続、中・高接続の観点から授業を構築・実践するための能力を身につける。			
授業計画 第1回：国語科教育における「読むこと」の指導の意義を学ぶ 第2回：小・中学校間接続の観点から「読むこと」の指導を考える 第3回：小学校高学年の文学的文章指導について考える（教材研究） 第4回：小学年高学年の文学的文章指導について考える（学習指導案の検討） 第5回：小学校高学年の説明的文章指導について考える（教材研究） 第6回：小学校高学年の説明的文章指導について考える（学習指導案の検討） 第7回：中学校の文学的文章指導について考える（教材研究） 第8回：中学年の文学的文章指導について考える（学習指導案作成・模擬授業） 第9回：中学年の文学的文章指導について考える（実践論文の考察） 第10回：中学校の説明的文章指導について考える（教材研究） 第11回：中学校の説明的文章指導について考える（学習指導案作成・模擬授業） 第12回：中学校の説明的文章指導について考える（実践論文の考察） 第13回：高等学校の文学的文章指導について考える（教材研究・学習指導案作成） 第14回：高等学校の論理的文章指導について考える（教材研究・学習指導案作成） 第15回：半期のまとめ 定期試験			
テキスト： 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』 文部科学省 平成30年2月 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』 文部科学省 平成31年2月			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 期末レポート（70％）、小課題（30％）

授業科目名： 日本史概説 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：春田直紀 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 日本史研究の最先端の議論を知ること、新たな歴史の見方を学び、各時代の特質に関する理解を深めるとともに、日本史の教材研究の基礎を身につける。			
授業の概要 先史時代から現代まで日本史の通史的展開にそって、各時代を特徴づける主要なテーマを掲げ、研究の最先端の議論を紹介していく。			
授業計画 第1回：「歴史」と時代区分 第2回：先史時代の時代区分論 第3回：モニュメントからみた先史時代の精神史 第4回：「倭国」から「日本国」へ 第5回：古代の官僚制と天皇 第6回：中世の荘園制と村落 第7回：中世遍歴民の世界 第8回：江戸時代の経済システム 第9回：蝦夷島の近世史 第10回：文明開化と国民国家の形成 第11回：対外戦争の近代史（1）―征韓論から日清戦争まで― 第12回：対外戦争の近代史（2）―第一次世界大戦後から満州事変まで― 第13回：「戦後」から「ポスト戦後」へ 第14回：忘れられた「いくつもの日本」 第15回：本授業の総括 定期試験（論述）			
テキスト プリントにして配布する。			
参考書・参考資料等			

『岩波講座日本歴史』第1巻～第19巻、岩波書店
学生に対する評価 毎回の授業後の小レポート（14％）、最終レポート（論述）（86％）

授業科目名： 日本史特講Ⅰ（史料論） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：春田直紀 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 史料に即して日本史の事象を理解し、史料を用いて教材をつくる力量を身につける。			
授業の概要 日本史の代表的な事象について、さまざまな史料を読みながら、学び直していく。			
授業計画 第1回：イントロダクション「史料とは何か」 第2回：倭国時代の漢字文化 第3回：『日本霊異記』が語る古代の民衆世界 第4回：史料としての絵巻物と中世身分制 第5回：絵図と地下文書で読み解く中世の環境変動 第6回：室町時代の古記録を読む 第7回：本能寺の変の調べ方 第8回：慶安御触書とは何か 第9回：「近世阿蘇家文書」からさぐる阿蘇山火口の近世 第10回：近代の立法史料を読む 第11回：オーラル・ヒストリーの可能性 第12回：記録映画に映された有明海の漁撈習俗 第13回：記録映画に映された山間地域の環境利用 第14回：被災史料をなぜ救出するか 第15回：本授業の総括 定期試験（論述）			
テキスト プリントにして配布する。			
参考書・参考資料等 国立歴史民俗博物館・小倉慈司編『古代東アジアと文字文化』（同成社）、吉田一彦『民衆の古代史』（風媒社）、黒田日出男『境界の中世 象徴の中世』（東京大学出版会）、平瀬直樹『塩田の村』（清文堂出版）、東京大学教養学部歴史学部会編『史科学入門』（岩波書店）、京都造形芸			

術大学編『古文書を読む』（角川書店）、村上一博・西村安博編『史料で読む日本法史』（法律文化社）、吉村豊雄・春田直紀『阿蘇カルデラの地域社会と宗教』（清文堂出版）、石川一三夫・矢野達雄編著『法史学への旅立ち』（法律文化社）、寺崎英成ほか『昭和天皇独白録』（文春文庫）、白水智『古文書はいかに歴史を描くのかーフィールドワークがつなぐ過去と未来ー』（NHKブックス）

学生に対する評価

毎回の授業後の小レポート（14％）、定期試験（論述）（86％）

授業科目名： 日本史特論Ⅱ（近現代） 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鬼嶋 淳 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（中学校 社会 及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史及び外国史 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 ・本授業のテーマ：日本近現代史（民衆史の視点から） ・民衆にとって近現代とはどのような時代であったのかを、講義でとりあげたテーマのなかのいくつかの論点について、自ら説明できる。 ・歴史的思考力を養う。			
授業の概要 近現代日本の歴史が民衆にとってどのような時代であったのかを考えるため、国家や中央の政治家・官僚・軍人にとっての歴史ではなく、地域に生きる民衆にとっての歴史という視点から日本近現代史について講義をおこなう。			
授業計画 第1回：ガイダンス 歴史を学ぶとは？ 歴史資料について 第2回：開国と維新 第3回：民権と憲法 第4回：日清・日露戦争と民衆 第5回：第一次世界大戦と中国・朝鮮 第6回：「大正デモクラシー」の時代 第7回：昭和恐慌期の民衆 第8回：民衆にとっての植民地経験 第9回：戦争の全面化と国民総動員 第10回：戦時下民衆の暮らし 第11回：敗戦と占領 第12回：講和と独立 第13回：1950年代の社会運動 第14回：高度成長の時代 第15回：経済大国化と国際化 定期試験は実施しない			
テキスト 別途指示する。			

参考書・参考資料等 別途指示する。

学生に対する評価

- ・講義の内容を理解すること 小レポート（30%）
- ・歴史的思考力を養うこと。講義でとりあげたテーマのなかから、いくつかの論点について自ら説明
できること 学期末レポート（70%）

授業科目名：日本史特講Ⅲ（近世史） 【独自科目（佐大）】		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 久保 知里
				担当形態： 単独
科 目		教科に関する科目（中学校 社会 及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 近世日本社会の大まかな流れを理解し、説明することができる。 2. 近世日本社会の人々の仕事や生活等について理解し、説明することができる。				
授業の概要				
この授業では、日本の近世（明治初年まで）を中心とした日本社会の変化や時代の流れを概観する。その上で、近世における人々の仕事や日常生活、思想（考え方）の変化など政治的な流れのみではなく、人々の生活に関わる視点から近世史への理解を深める。さらに九州北部地域の特徴、すなわち朝鮮通信使対応や長崎警備などの対外交渉を取り上げ、「世界」との関係についても学ぶ。そして近世（江戸時代）から近代への移行期における社会や武士たちの動きから時代の変化を捉え、近世史の特徴を理解する。				
授業計画				
第1回：イントロダクション：「日本」とは何か／なぜ歴史を学ぶのか				
第2回：幕府とは何か～江戸時代のはじまり～				
第3回：「鎖国」とは何か？～秀吉の「唐入り」から朝鮮通信使まで～				
第4回：思想の転換～思想転換による支配観と「ケガレ」の思想／学問の広がり～				
第5回：武士の仕事1：「役人」となる武士（家臣団）				
第6回：「停滞／成熟」の18世紀				
第7回：人々の日常生活～近世人のライフサイクルと結婚、出産、子育て～				
第8回：「女」の仕事				
第9回：「内憂外患」の時代～佐賀・福岡藩と長崎警備、防衛政策～				
第10回：武士の仕事2：武士の本分へ立ち返る				
第11回：テロと時代の変革～幕末の動乱～				
第12回：幕末における下級武士の生活				
第13回：「武士」たちの近代～明治初年（明治10年頃まで）の武士の仕事～				
第14回：近世から近代～城郭の利用と軍隊の出現（西南戦争など）～				
第15回：まとめとふりかえり				

定期試験
テキスト 使用しない。毎回、講義資料を準備する。
参考書・参考資料等 上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美編『日本近世史入門』（勉誠社、2024年）、小川浩司『世界史とは何かー「歴史実践」のためにー』（岩波書店、2023年）など
学生に対する評価 定期試験60%、授業参加姿勢（授業中に指示する課題やミニツッペーパーや授業への積極性を含む）40%を目安として総合的に評価する

授業科目名： 日本史特講Ⅳ（中世史） 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮武 正登 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 日本の中世（平安末期・鎌倉・南北朝・室町・戦国）という時代を主題とし、政治史の展開を軸としながら中世社会の特徴についての理解を深め、歴史資料の種類と活用法についても正しい知識を身につけることを目標とする。			
授業の概要 「武士」の発生以降、近世初頭に属する豊臣政権の成立前後までの約650年間を対象とした日本社会の諸相を多角的に検討しながら、歴史学を追究するための基本的な方法論―多様な史料の扱い方、歴史的事象への客観的視点など―について解説していく。			
授業計画 第1回：ガイダンス、「中世」のイメージ 第2回：中世という時代の外観と特質 第3回：中世史料論1（古文書・古記録・古典籍、金石文、絵巻物） 第4回：中世史料論2（絵図と地図、遺跡と遺物、地名と伝承） 第5回：平氏政権の成立と経済基盤―佐賀地方との関係性― 第6回：鎌倉開府と地方武士の生活拠点（前半） 第7回：鎌倉開府と地方武士の生活拠点（後半） 第8回：東アジア世界の中の日本と肥前 第9回：南北朝動乱と室町幕府の始動 第10回：室町幕府体制の崩壊と戦国社会の到来 第11回：織豊政権による近世封建制度への移行 第12回：朝鮮出兵の真実（1）（文禄の役、肥前名護屋城、大名陣所） 第13回：朝鮮出兵の真実（2）（慶長の役、名護屋城下町、終戦と国交回復） 第14回：中世武家政治の拠点変遷―城と城下町の発展史― 第15回：もう一つの中世世界―蝦夷と琉球― 定期試験 テキスト			

各回の講義用テキストを配布する。
参考書・参考資料等 五味文彦編『大学の日本史2－中世』 山川出版社2016
学生に対する評価 定期試験の実施による成績評価

授業科目名： 日本史特講Ⅴ（古代史） 【独自科目（佐大）】		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 重藤 輝行
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 「教育の現場を目指す人のための日本原始・古代の歴史研究」 学校教員になった際に、歴史研究の進展に応じて自らの教育内容を更新できるようになることを目標として、授業では、現在の教材にいかにか歴史研究の成果が反映されているか、日本原始・古代の歴史に即して、理解・説明できることを目標とする。				
授業の概要 日本原始・古代の歴史に関する重要テーマを考古学的研究も混じえて、概説していく。講義は、高等学校用の教科書や大学の入試問題にこれらの論点がどのような形で現われているのか注意しながら、進められる。原始・古代の社会・文化が日本史を通じての基層を構成していることに関して認識を深めながら、日本原始・古代の歴史研究の成果と現状を学んでももらえれば、と考えている。				
授業計画 第1回：イントロダクション 授業の目的と進め方、履修に当たっての留意事項、学習の方法と評価の方法が説明される。 第2回：縄文時代の社会と文化（1） 縄文時代開始期の文化様相について、旧石器時代の比較を踏まえ、概観する。 第3回：縄文時代の社会と文化（2） 九州の縄文土器の変遷を説明するとともに、縄文時代の文化の動態を概観する。 第4回：縄文時代の社会と文化（3） 縄文時代の集落遺跡や祭祀から、当時の社会、生業について概観する。 第5回：弥生時代の社会と文化（1） 弥生時代の開始期について朝鮮半島との交流を踏まえながら、概観する。 第6回：弥生時代の社会と文化（2） 弥生時代の社会の変化について、墳墓の様相を検討して概観する。 第7回：弥生時代の社会と文化（3） 弥生時代の青銅器生産と鉄器の使用について概観する。 第8回：古墳時代の社会と文化（1）				

前方後円墳等、古墳の動態から、当時の社会について概観する。 第9回：古墳時代の社会と文化（2） 古墳の副葬品の変化から、墳墓構築の社会的側面や技術変革について概観する。 第10回：古墳時代の社会と文化（3） 古墳副葬品、集落の様相から、朝鮮半島等、東アジアとの交流について概観する。 第11回：考古学からみた飛鳥・奈良時代の社会と文化（1） 日本における仏教の導入について、寺院とその屋根を飾った古瓦に注目して概観する。 第12回：考古学からみた飛鳥・奈良時代の社会と文化（2） 律令的政治制度の成立について、地方官衙遺跡を素材として概観する。 第13回：考古学からみた飛鳥・奈良時代の社会と文化（3） 当時の社会構造と、律令制の確立による変化について、集落遺跡の検討から概観する。 第14回：考古学からみた飛鳥・奈良時代の社会と文化（4） 当時の東アジアとの関係について、都城制の形成、遣唐使に関する遺跡等から概観する。 第15回：まとめ 全体を振り返って、授業を整理する。 定期試験	テキスト 未定
参考書・参考資料等 各回に指示するもののほか、『岩波講座 日本歴史 古代』（岩波書店、2013～）を予定。	学生に対する評価 小テスト（授業中、2回に1回程度実施予定）50％、試験50％を予定しているが、履修人数に応じて最終的に決定する。

授業科目名： 世界史概説 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黨 武彦／岡本 託
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 世界史の各時代の特徴と、時代の移行の契機について説明できる。世界史と同時代の日本（身近な地域）との関連性を理解できる			
授業の概要 中学校社会科および高等学校地理歴史科で定められている外国史について、中学校歴史教科書の内容に準拠しつつ、基礎的かつ包括的な講義をおこなう。その際、現代の事柄の起源となっているもの、現代社会における変化と類似するもの、現代の社会問題と直結するものに注目しながら講義を進める。また、トピックによっては、日本の事柄とも関連づけながら理解を深めていきたい。			
授業計画 第1回：世界史を学ぶことにどのような意味があるのか 歴史をとらえる見方・考え方 第2回：世界の古代文明と宗教のおこり 第3回：地中海世界 ギリシア文明とローマ帝国 第4回：東アジア世界の成立と日本列島 第5回：イスラーム世界の成立と発展 第6回：モンゴル帝国を中心とするユーラシア大陸の動きと東アジア世界 第7回：ルネサンスと宗教改革 第8回：大航海時代 欧州各国のアジアへの進出 第9回：市民革命の時代 イギリス市民革命・フランス革命・アメリカ独立 第10回：産業革命のインパクト 第11回：帝国主義とナショナリズム 欧州のアジア・アフリカ進出、中国の苦悩 第12回：二度の世界大戦（1）第一次世界大戦から戦間期の世界 第13回：二度の世界大戦（2）欧州のうごき 日中の対立 第14回：東西冷戦から勢力均衡の崩壊 第15回：まとめ 現代的諸問題 定期試験			

テキスト
各授業において資料を配布する
参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配付する
学生に対する評価
レポート試験（４０％）、毎回の授業の最後に提出するコメントペーパー（４０％）、授業中の課題（２０％）

授業科目名： 世界史特講Ⅰ（中国史） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：黨武彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 世界史の各時代の特徴と、時代の移行の契機について説明できる。世界史と同時代の日本（身近な地域）との関連性を理解できる			
授業の概要 中学校社会科および高等学校地理歴史科で定められている外国史について、中学校歴史教科書の内容に準拠しつつ、日本の近現代史においても重要な意味を持つ中国近現代史に関する講義を映像資料を活用しながらおこなう。その際、台湾海峡問題など、現代の事柄の起源となっているもの、現代社会における変化と類似するもの、現代の社会問題と直結するものに注目しながら講義を進める。			
授業計画 第1回：近現代の中国を中心とした東アジア史をとらえる見方・考え方 第2回：清朝の滅亡～半植民地の中国、辛亥革命 第3回：中華民国の成立、孫文と日本、宮崎滔天とアジア主義 第4回：日本の大陸進出 満洲事変から日中戦争 第5回：国共内戦と中華人民共和国の成立 第6回：毛沢東の中国1 中ソ関係、朝鮮戦争と東アジア情勢 第7回：毛沢東の中国2 大躍進から調整政策 第8回：毛沢東の中国3 文化大革命 第9回：毛沢東の中国4 米中接近、日中国交正常化 第10回：毛沢東の死と改革開放政策の開始 第11回：胡耀邦の近代化政策と天安門事件 第12回：1990年代、鄧小平の南巡講話後の中国 第13回：21世紀の中国の発展、経済大国化、一帯一路政策 第14回：21世紀の台湾 第15回：まとめ 日本と中国をめぐる現代的諸問題 定期試験 テキスト			

各授業において資料を配布する
参考書・参考資料等 濱下武志編『中国史5——清末～現在』（世界歴史大系、山川出版社、2002年）
学生に対する評価 レポート試験（60％）、毎回の授業の最後に提出するコメントペーパー（20％）、授業中の課題（20％）

授業科目名： 世界史特講Ⅱ（西洋史） 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡本 託
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 教育、経済、政治、都市、市民生活、国際関係などのさまざまな視点から19世紀の全体像を理解する。これにより、中学校社会科および高等学校地理歴史科において、世界史分野を担当する教員が近現代史の授業プログラムを作成する際に必要な、歴史学的知識と思考方法を養う。さらに、高等学校の「歴史総合」では、従来の「世界史」「日本史」を融合した授業プログラムを作成する際に必要があり、その際に重要となる歴史学的知識と思考方法を養う。			
授業の概要 教育、経済、政治、都市構造、市民生活などの様々なテーマを用いて、近代社会のターニングポイントとなった19世紀の社会を理解する。同時に、19世紀後半は西洋諸国が本格的にアジアへ進出した時代であり、本講義では、フランス外交の視点から、アジア進出における西洋諸国の力関係、日本へと進出した目的、日本へ赴任した外交官の特徴などを学んでいく。			
授業計画 第1回：イントロダクション：講義の目的、講義の進め方、評価方法、参考書の紹介、歴史学で使う史料の特徴 第2回：19世紀フランスの政治史：政治史と社会史の違い／7つの政体を経験した19世紀フランス 第3回：フランスの産業革命：産業革命による「交通革命」／「ひと・もの・お金・情報」の移動スピードの変化 第4回： 近代的都市への変貌：第二帝政期のパリ都市改造 第5回：都市民衆の生活文化の変容：都市における民衆の生活とソシアビリテ／メディアの発達による価値観の変容 第6回：近代教育の始動：義務化・無償化までの道のり／普仏戦争の敗北から生まれたフランス公教育 第7回：国民の政治参加：1848年普通選挙実施までの道のりと、その後の苦悩 第8回：農村民衆の政治文化：都市・農村民衆の政治参加／革命はどのようにして起こるのか？ 第9回：19世紀の植民地政策①：欧米諸国がアジアへ進出した背景 第10回：19世紀の植民地政策②：近代フランスの植民地政策とアジア進出			

第11回：近代ヨーロッパ外交における日本①：日本の海外情報収集システム／世界のなかの日本 第12回：近代外交官と日本：近代公務員制度と社会／どのような人物が外交官になったのか 第13回：幕末期日本に赴任することの意味と役割①：フランス人外交官ギュスターヴ・ベルクール 第14回：幕末期日本に赴任することの意味と役割②：フランス人外交官レオン・ロッシュ 第15回：1867年パリ万博とジャポニスム：パリ万博をめぐるフランス政府と幕府の思惑 定期試験
テキスト 授業中に適宜資料を配布する
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する
学生に対する評価 定期試験（40％）、毎回の授業の最後に提出するコメントペーパー（40％）、授業中の課題（20％）

授業科目名：世界史特講Ⅲ（東南アジア史） 【独自科目（佐大）】		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山崎 功 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 東洋史の枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら説明できるようになっていること、東アジア、東南アジア文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から説明できるようになっていること				
授業の概要 東洋史を要説する。世界史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けてアジア・日本諸地域の歴史を、東洋史のなかに立体的に定置概観する。アジアの諸文化の多様性・複合性と現代世界の特質を解説する。我が国の歴史と文化の多様性を、日本と東南アジアを東洋史の枠組みのなかで理解できるようにする。				
授業計画 第1回：はじめに 東洋史の概観 日本と東アジア・東南アジア世界 第2回：西アジア世界・地中海世界とアジア・日本 第3回：南アジアと東南アジアの地理的特質 第4回：南アジアの文化，社会，国家の発展 第5回：南アジアとの交流と東南アジア世界・日本 第6回：東アジアとの交流と東南アジア世界・日本 第7回：諸地域世界の交流と再編 —— ユーラシアの海域及び内陸のネットワーク形成過程と日本・アジア 第8回：アジア諸地域の繁栄と日本 —— 東南アジア海域の動向 第9回：アジア諸地域の繁栄と日本 —— 明（みん）・清（しん）帝国と日本との関係 第10回：アジア諸地域の繁栄と日本 ——16世紀～18世紀アジア諸地域の特質と日本の位置付け 第11回：世界市場の形成と19世紀アジア・日本 第12回：帝国主義と東アジア・東南アジア社会の変容 第13回：二つの世界大戦とアジア 第14回：米ソ冷戦とアジア・アフリカ世界 第15回：グローバル化の問題 まとめ				

定期試験
テキスト なし
参考書・参考資料等 講義にあわせておって配布、指示する
学生に対する評価 洋史の枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら説明できるようになっていること、東アジア、東南アジア文化の多様性・複合性と現代世界の特徴を広い視野から説明できるようになっていることを評価する。teamsを利用した最終課題、(70～100%)、必要に応じた小課題レポート(～30%) などにより総合的に評価する。

授業科目名： 日本史演習Ⅰ（地域史調査） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 春田直紀 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 さまざまな歴史資料による分析と現地調査に基づいた地域史研究の方法を身につける。			
授業の概要 調査地域の歴史に関する先行研究の検討と現地調査の準備・実施を共同で行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス：本演習の計画を立てる 第2回：地域史調査の意義と方法 第3回：調査地域の立地環境 第4回：調査地域の古代 第5回：調査地域の中世 第6回：調査地域の近世 第7回：調査地域の近代 第8回：調査地域の現代 第9回：調査地域の民俗 第10回：現地調査の準備1（現地調査の班を編成し、班ごとに現地調査の事前資料を作成） 第11回：現地調査の準備2（現地調査の事前資料を完成させる） 第12回：現地調査の実施1（古文書調査や聞き取り調査を実施する） 第13回：現地調査の実施2（実地踏査を行う） 第14回：現地調査成果のまとめ1（現地調査の成果をまとめる） 第15回：現地調査成果のまとめ2（調査報告書原稿を作成する）			
テキスト 授業中にプリントにして配付します。			
参考書・参考資料等 吉村豊雄・春田直紀編『阿蘇カルデラの地域社会と宗教』（清文堂出版）			
学生に対する評価 授業中の発表内容や提出物（調査事前資料・報告書原稿など）で評価する。			

授業科目名： 日本史演習Ⅱ（中世文書） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 春田直紀 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 史料の訓読と解釈、それにもとづいた歴史研究の手法を実践的に身につける。			
授業の概要 中世の古文書を教材にしながら、文書を訓読し、その内容が解釈できるところまで指導する。			
授業計画 第1回：文献史料の手引 第2回：くずし字入門1（変体仮名の読み方を覚える） 第3回：くずし字入門2（数字や助詞の読み方を覚える） 第4回：中世文書の用字・用語・文体 第5回：中世文書の訓読法 第6回：下文の訓読と解釈 第7回：下知状の訓読と解釈 第8回：奉書の訓読と解釈 第9回：書下状の訓読と解釈 第10回：申状の訓読と解釈 第11回：売券の訓読と解釈 第12回：寄進状の訓読と解釈 第13回：村落定書の訓読と解釈 第14回：地下の日記の訓読と解釈 第15回：地下帳簿の訓読と解釈 定期試験（中世文書の訓読と解釈）			
テキスト 荻米一志著『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館）			
参考書・参考資料等 春田直紀編『中世地下文書の世界－史料論のフロンティア』（勉誠出版）			
学生に対する評価 授業中の発表内容（20％）、史料の読解力を試す筆記試験（80％）			

授業科目名： 日本史演習Ⅲ（荘園調査） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 春田直紀 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 さまざまな歴史資料による分析と現地調査に基づいた荘園史研究の方法を身につける。			
授業の概要 荘園故地の歴史に関する先行研究の検討と現地調査の準備・実施を共同で行う。			
授業計画 第1回：荘園村落遺跡概念の意義 第2回：遡及的景観復原の方法 第3回：村落景観復原調査の現実的課題 第4回：環境―生業変動の視点による荘園村落遺跡の調査法 第5回：荘園故地の環境 第6回：荘園故地の現代 第7回：荘園故地の近代 第8回：荘園故地の近世 第9回：荘園故地の中世 第10回：現地調査の準備1（現地調査の班を編成し、班ごとに現地調査の事前資料を作成） 第11回：現地調査の準備2（現地調査の事前資料を完成させる） 第12回：現地調査の実施1（古文書調査や聞き取り調査を実施する） 第13回：現地調査の実施2（実地踏査を行う） 第14回：現地調査成果のまとめ1（現地調査の成果をまとめる） 第15回：現地調査成果のまとめ2（調査報告書原稿を作成する）			
テキスト 授業中にプリントにして配付します。			
参考書・参考資料等 服部英雄編『中世景観の復原と民衆像―史料としての地名論』（花書院）			
学生に対する評価 授業中の発表内容や提出物（調査事前資料・報告書原稿など）で評価する。			

授業科目名： 日本史演習Ⅳ（近世文書） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 春田直紀 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 史料の判読・読解とそれにもとづいた歴史研究の手法を実践的に身につける。			
授業の概要 近世の古文書を教材にしながら、文書の訓読・くずし字の判読から文書の内容を読解し、その情報に基づいた考察ができるところまで指導する。			
授業計画 第1回：文献史料の手引 第2回：くずし字入門1（変体仮名の読み方を覚える） 第3回：くずし字入門2（数字や助詞の読み方を覚える） 第4回：近世文書の用字・用語・文体 第5回：仮名書き文書の判読 第6回：往来物の判読 第7回：五人組帳前書の判読 第8回：近世土地台帳の判読 第9回：近世土地台帳の内容解釈 第10回：近世土地台帳の情報分析 第11回：近世土地台帳情報に基づく考察 第12回：近世褒賞記録の判読 第13回：近世褒賞記録の内容解釈 第14回：近世褒賞記録の情報分析 第15回：近世褒賞記録情報に基づく考察 定期試験（近世文書の判読と解釈）			
テキスト 児玉幸多編『くずし字解説辞典 普及版』（東京堂出版）			
参考書・参考資料等 佐藤孝之・天野清文編『近世古文書用語辞典』（吉川弘文館）			

学生に対する評価

授業中の発表内容（20%）、史料の読解力を試す筆記試験（80%）

授業科目名：日本史演習Ⅴ 【独自科目（佐大）】		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 昭弘
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 地域に残る歴史資料（とくに古文書）を、日本史研究の最新の研究成果をもとに読み込み、歴史教育のなかで生かす方法を学ぶことで、「諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする」（高等学校学習指導要領、日本史探究）が授業を実施する能力を身につける。				
授業の概要				
授業計画 第1回：ガイダンス 授業の進め方、評価方法について説明する。 第2回：古文書解読の方法 現在、古文書解読のためのアプリ（AI）無料で配布されているほか、いわゆる「くずし字」の用例もウェブ上で検索できる。この回では、アプリやウェブを用いた古文書解読の方法を学ぶ。 第3回：古文書解読実践（1） 佐賀藩の成立に関する古文書を読む。 第4回： 第3回の成果を、教科書における幕藩体制成立の説明とあわせて検討する。 第5回： 佐賀藩の知行制に関する古文書を読む。 第6回： 第5回の成果を、教科書における知行制の説明とあわせて検討する。 第7回： 佐賀藩の長崎警備にかんする古文書を読む。 第8回： 第7回の成果を、教科書における「鎖国」の説明とあわせて検討する。 第9回：				

文化元年レザノフ長崎来航に関する佐賀藩の古文書を読む。 第10回： 第9回の成果を、教科書における「開国」の説明とあわせて検討する。 第11回： 幕末の佐賀藩主鍋島直正の藩政改革に関する古文書を読む。 第12回： 第11回の成果を、教科書における幕藩体制の崩壊の説明とあわせて検討する。 第13回： 佐賀藩出身の江藤新平に関する古文書を読む。 第14回： 第13回の成果を、教科書における明治維新の説明とあわせて検討する。 第15回： ウェブ上のさまざまな歴史情報関係データベースを紹介し、生徒たちに歴史情報を入手・活用させるための手法を考える。	テキスト 佐賀藩に関する古文書を、教員が準備する。
参考書・参考資料等 論点・日本史学（ミネルヴァ書房）、日本近世史入門（勉誠社）	
学生に対する評価 報告内容および議論への積極性を考慮して決定する。	

授業科目名： 日本史演習Ⅵ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三ツ松 誠
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 「高校と大学とをつなぐ日本近世史研究」 知識：現在の高等学校「日本史探究」の教材にいかん歴史研究の成果が反映されているか、日本近世史に即して、理解・説明できる。 態度：上述の説明を他者に示し、あるいは示された説明と自分のそれとを比較することができる。 技能：上述の説明を点数として測定できる。			
授業の概要 日本近世史研究史上の重要テーマを概観する。高等学校用の教科書や大学入試にこれらの論点がどのような形で現れているのか、問題演習の形で取り扱う。歴史研究の成果に歴史教育が無関心であってはならないことを意識しつつ、近世史研究の成果と現状を学んでいく。			
授業計画 第1回：【イントロダクション】 授業の目的と進め方、履修にあたっての留意事項、学習の方法と評価の方法が説明される。 第2回：「太閤検地と兵農分離」 太閤検地と兵農分離に関する諸議論が、戦後近世史の出発点にあることを理解する。 第3回：「役の体系——武士——」 軍役システムに立脚した江戸時代の領主制の仕組みを概観する。 第4回：「役の体系——百姓——」 近世経済の根幹、米年貢の仕組みと、人口の多くを占めた村々の姿と百姓の動きを理解する。 第5回：「役の体系——町人——」 武士の支配を支え、また掘り崩していった都市住民の在り方と、そこでの経済発展を概観する。 第6回：「役の体系——身分的周縁——」 「土農工商」で説明しきれない身分制の姿と、権威の源泉としての朝廷について考える。 第7回：「鎖国」 キリスト教諸国と日本との関係の変遷を概観し、日本社会へのその規定性を考える。			

第8回：【試験演習】

論述問題をどう評価するか、実践的な形式で理解を深める。

第9回：「海禁」

近世国家が取り結んだ異域、とりわけ東アジア諸地域との関係について理解する。

第10回：「文治政治」

軍役の体系としての武士社会が太平の中で変貌を余儀なくされていく事情を理解する。

第11回：「幕藩制改革論」

近世中後期の政治史をめぐる見方を振り返ったうえで、三大改革の評価を考える。

第12回：「開国前夜」

18世紀末からの対外関係の変化とその国内的影響を理解する。

第13回：「近世の文化」

近世文化史の取り上げ方について考える。

第14回：「開国」

ウェスタン・インパクトに伴い、最幕末期に浮上した政治課題の争点を概観する。

第15回：【まとめ】

これまでの内容をおさらいし、必要に応じて補足を行う。

定期試験

テキスト

佐藤信／五味文彦／高埜利彦／鈴木淳ほか『詳説日本史』山川出版社、2023（本シラバスに即した開講開始時の令和10年度時点での最新版を利用する）

参考書・参考資料等

上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美編『日本近世史入門—ようこそ研究の世界へ！』勉誠社、2024（本シラバスに即した開講開始時の令和10年度時点での最新版を利用する）

学生に対する評価

平常点（各回の提出課題）50%、期末試験50%を予定している（履修人数に応じて変更の可能性はある）。

授業科目名： 日本史調査実習 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：春田直紀 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 地域の歴史を語る素材を掘り起こし史料化・教材化していく技法を、実践的に身につけていく。			
授業の概要 ひとつの地域に滞在し、その土地の歴史に関わるあらゆる情報を収集し、整理していく。具体的には村落を対象に、古文書の調査、住民への聞き取り、信仰物や農地・牧野・山林の現場確認をし、調査成果を報告書にまとめる。			
授業計画 第1回：調査の概要説明 第2回：調査の事前資料作成 第3回：調査の図面作成 第4回：調査の打合せ 第5回：現地調査（資料収集） 第6回：現地調査（古文書調査） 第7回：現地調査（地名聞き取り調査） 第8回：現地調査（土地利用・生業聞き取り調査） 第9回：現地調査（社会組織聞き取り調査） 第10回：現地調査（行事・信仰聞き取り調査） 第11回：現地調査（土地利用・生業実地踏査） 第12回：現地調査（信仰物の撮影・採寸） 第13回：調査成果のまとめ（報告書作成） 第14回：調査成果のまとめ（作図） 第15回：本実習の総括			
テキスト 「調査のしおり」を配布する。			
参考書・参考資料等 吉村豊雄・春田直紀編『阿蘇カルデラの地域社会と宗教』（清文堂出版）			

学生に対する評価

調査に取り組む姿勢、提出物（調査成果報告原稿）で評価

授業科目名： 西洋史演習Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡本 託 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 グローバル・ヒストリーを学び、従来の「西洋史」「日本史」「東洋史」という枠組みにとらわれない、新たな視点から歴史をとらえる能力を養う。さらに高等学校の「歴史総合」では、従来の「世界史」「日本史」を融合した授業プログラムを作成する際に必要があり、その際に重要となる歴史学的知識と思考方法を養う。これにより、「近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する」（高等学校学習指導要領、歴史総合）という能力を身につける。			
授業の概要 近現代のグローバル・ヒストリーに関する文献・論文を講読し、最新の歴史学的知識や歴史認識などを学ぶ。その際、受講生が(1)輪読文献、(2)研究文献・論文の内容をまとめ、報告し、それに対する疑問点を提示する。そして、教員が現在学界で論点となっているポイントを提示し、受講生全員でディスカッションをおこなう。また、卒業論文の執筆のために必要な文献の収集方法、歴史史料の性質、学界で論点となっているトピックに対する理解も深めていく。			
授業計画 第1回：自己紹介／講読文献とその報告分担の決定／歴史学文献・論文の検索方法 第2回：教員が報告のデモンストレーションをおこない、研究文献の内容のまとめ方、報告方法（レジュメのまとめ方・話し方）、疑問点の見つけ方について説明する。 第3回：グローバル化時代の歴史学（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第4回：グローバル・ヒストリーの可能性（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第5回：研究文献・論文に関する報告①（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第6回：近代化とお雇い外国人（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第7回：長崎の教会群という世界遺産（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第8回：研究文献・論文に関する報告②（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第9回：1700年の世界（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第10回：1800年の世界（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第11回：1900年の世界（受講生の報告／報告に対するディスカッション）			

第12回：1960年の世界（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第13回：研究文献・論文に関する報告③（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第14回：私たちの立ち位置と未来の構図（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第15回：新しい世界史とグローバル・ヒストリー（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 定期試験は実施しない
テキスト 授業中に適宜資料を配布する
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する
学生に対する評価 授業参加態度（質疑応答、小課題発表）：20% 研究発表（資料と話し合い）：30% 発表後の最終レポート：50%

授業科目名： 西洋史演習Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡本 託 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 歴史修正主義を学び、歴史には歴史的事実と歴史的真相があることを理解する。そして、当事者によって歴史的事象のとらえ方が異なることを理解し、新たな視点から歴史をとらえる能力を養う。中学校社会科および高等学校地理歴史科において、世界史分野を担当する教員が授業プログラムを作成する際に必要な歴史学的知識と思考方法を養う。これにより、「世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する」（高等学校学習指導要領、世界史探究）という能力を身につける。			
授業の概要 歴史修正主義に関する文献・論文を講読し、最新の歴史学的知識や歴史認識を学ぶ。その際、受講生が(1)輪読文献、(2)研究文献・論文の内容をまとめ、報告し、それに対する疑問点を提示する。そして、教員が現在学界で論点となっているポイントを提示し、受講生全員でディスカッションをおこなう。また、卒業論文の執筆のために必要な文献の収集方法、歴史史料の性質、学界で論点となっているトピックに対する理解も深めていく。			
授業計画 第1回：自己紹介／講読文献とその報告分担の決定／歴史学文献・論文の検索方法 第2回：教員が報告のデモンストレーションをおこない、研究文献の内容のまとめ方、報告方法（レジメのまとめ方・話し方）、疑問点の見つけ方について説明する。 第3回：歴史学と歴史修正主義（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第4回：マルクス主義の修正（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第5回：ニュルンベルク裁判（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第6回：研究文献・論文の報告①（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第7回：ネオナチの歴史観（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第8回：反ユダヤ主義（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第9回：人道に対する罪（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第10回：研究文献・論文の報告②（受講生の報告／報告に対するディスカッション）			

第11回：明治政府の歴史観①（受講生の報告／報告に対するディスカッション）
 第12回：明治政府の歴史観②（受講生の報告／報告に対するディスカッション）
 第13回：研究文献・論文の報告③（受講生の報告／報告に対するディスカッション）
 第14回：植民地支配①（受講生の報告／報告に対するディスカッション）
 第15回：植民地支配②（受講生の報告／報告に対するディスカッション）
 定期試験は実施しない

テキスト

授業中に適宜資料を配布する

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する

学生に対する評価

授業参加態度（質疑応答、小課題発表）：20% 研究発表（資料と話し合い）：30%

発表後の最終レポート：50%

授業科目名： 西洋史演習Ⅲ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡本 託
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標			
世界史のなかの近世・近代日本を学び、近世・近代の歴史を日本と世界の双方からとらえる能力を養う。さらに高等学校の「歴史総合」では、従来の「世界史」「日本史」を融合した授業プログラムを作成する際に必要があり、その際に重要となる歴史学的知識と思考方法を養う。これにより、「近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する」（高等学校学習指導要領、歴史総合）という能力を身につける。			
授業の概要			
日本から見た世界、世界から見た日本をテーマとした文献・論文を講読し、最新の歴史学的知識や歴史認識などを学ぶ。その際、受講生が(1)輪読文献、(2)研究文献・論文の内容をまとめ、報告し、それに対する疑問点を提示する。そして、教員が現在学界で論点となっているポイントを提示し、受講生全員でディスカッションをおこなう。また、卒業論文の執筆のために必要な文献の収集方法、歴史史料の性質、学界で論点となっているトピックに対する理解も深めていく。			
授業計画			
第1回：自己紹介／講読文献とその報告分担の決定／歴史学文献・論文の検索方法			
第2回：教員が報告のデモンストレーションをおこない、研究文献の内容のまとめ方、報告方法（レジュメのまとめ方・話し方）、疑問点の見つけ方について説明する。			
第3回：大航海時代と九州①：中世ペストの流行とザビエル来日との関係（受講生の報告／報告に対するディスカッション）			
第4回：大航海時代と九州②：ザビエルの日本での活動実態と九州の諸大名（受講生の報告／報告に対するディスカッション）			
第5回：大航海時代と九州③：東インド会社と有田焼のヨーロッパ進出（受講生の報告／報告に対するディスカッション）			
第6回：江戸時代の長崎と異国（受講生の報告／報告に対するディスカッション）			
第7回：産業革命と日本（受講生の報告／報告に対するディスカッション）			

第8回：19世紀欧米諸国のアジア進出①：19世紀ヨーロッパの国際関係とアジアとの連動制（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第9回：19世紀欧米諸国のアジア進出②：フランスの琉球進出にみるヨーロッパ諸国の勢力均衡（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第10回：幕末期日本の海外情報収集システム（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第11回：欧米諸国からみた幕末①：ヨーロッパ諸国における安政の五カ国条約の意図（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第12回：欧米諸国からみた幕末②：フランス人外交官ベルクールの活動にみる幕末日本（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第13回：欧米諸国からみた幕末③：フランス人外交官ロッシュの活動にみる幕末日本（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第14回：1867年パリ万国博覧会（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第15回：第一次世界大戦と九州（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 定期試験は実施しない
テキスト 授業中に適宜資料を配布する
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する
学生に対する評価 授業参加態度（質疑応答、小課題発表）：20% 研究発表（資料と話し合い）：30% 発表後の最終レポート：50%

授業科目名： 西洋史演習Ⅳ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡本 託 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 中世から現代にかけて、中学校社会科および高等学校地理歴史科の世界史分野における歴史的 事象をいくつか取り上げ、研究成果を踏まえながら、なぜそれらの事象が起こったのかの因果 関係を立体的に考える能力を養う。そうすることで、中学校社会科および高等学校地理歴史科 において、世界史分野を担当する教員が授業プログラムを作成する際に必要な歴史学的知識と 思考方法を養う。これにより、「世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義 ， 特色などを， 時期や年代， 推移， 比較， 相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して ， 概念などを活用して多面的・多角的に考察する」（高等学校学習指導要領、世界史探究）と いう能力を身につける。			
授業の概要 中世から現代にかけての「世界史」に関する通史的な文献を講読し、歴史的な事象を他の事象と 関連させながら、歴史的な事象の因果関係を含めて立体的に学ぶ。その際、受講生が(1)輪読文献 、(2)研究文献の内容をまとめ、報告し、それに対する疑問点を提示する。そして、教員が現在 学界で論点となっているポイントを提示し、受講生全員でディスカッションをおこなう。			
授業計画 第1回：自己紹介／講読文献とその報告分担の決定／歴史学文献・論文の検索方法 第2回：「宗派化する世界——宗教・国家・民衆」（教員が報告のデモンストレーションをおこ ない、研究文献の内容のまとめ方、報告方法（レジュメのまとめ方・話し方）、疑問点の見つ け方について説明する） 第3回：アジア海域における近世的国際秩序の形成（受講生の報告／報告に対するディスカッ ション） 第4回：商品連鎖のなかの西アフリカ（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第5回：感染症・検疫・国際社会（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第6回：産業革命論——欲望解放と自然的制約（受講生の報告／報告に対するディスカッション ） 第7回：大西洋世界のなかのフランス革命（受講生の報告／報告に対するディスカッション）			

第8回：ロシアの「大航海時代」と日本（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第9回：啓蒙主義とジェンダー（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第10回：17～18世紀ヨーロッパにおける日本情報と日本のイメージ（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第11回：ナショナリズムとジェンダー（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第12回：移民の世紀（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第13回：海域から見た19世紀世界（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第14回：奴隷貿易・奴隷制の廃止と「自由」（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第15回：植民地統治と人種主義（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 定期試験は実施しない
テキスト 授業中に適宜資料を配布する
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する
学生に対する評価 授業参加態度（質疑応答、小課題発表）：20% 研究発表（資料と話し合い）：30% 発表後の最終レポート：50%

授業科目名： 人文地理学概説 【独自科目（熊大）】		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 山本耕三 担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 地理学（地誌を含む。） ・ 人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 人文地理学とは何かを知る。中学校社会科地理的分野および高等学校地理総合・地理探究のバックグラウンドとなる見方・考え方を修得する。				
授業の概要 人文地理学における主要なトピックを紹介する。				
授業計画 第1回：人文地理学とは何か 第2回：人口 第3回：資源・エネルギー 第4回：農林水産業の立地と分布 第5回：工業化と経済発展 第6回：流通と交易 第7回：ネットワークと社会 第8回：観光と地域 第9回：集落の形態と構造 第10回：都市と社会 第11回：開発と地域 第12回：国土政策・地域政策 第13回：環境問題 第14回：世界と日本ー「国家」の地理ー 第15回：地理学と社会 定期試験				
テキスト 上杉和央・香川雄一・近藤章夫編『みわたす・つなげる人文地理学』古今書院（2021）				
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。				

学生に対する評価

毎回の授業後の課題（45％）、期末試験（55％）

授業科目名： 自然地理学概説 【共同科目（佐大）】		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒田 圭介
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 本講義では、中学校社会科、高校地理における自然地理のテーマのうち、主にケッペンの気候区分と大地形・小地形を網羅的に取り扱って、教員として持っていてしかるべき基礎的な知識、技能を修得することを目標とする。				
授業の概要 本講義では主に気候学と地形学を中心に取り上げて、講義形式で授業を行うが、教材研究活動に求められる地理学的解析の技術養成を目指して、地図を用いた解析作業を何度か行う。				
授業計画 第1回：ガイダンス・自然地理学とは 第2回：大地形1～プレートテクトニクスについて 第3回：大地形2～造山帯の分布の特徴 第4回：大地形3～環太平洋造山帯 第5回：大地形4～楕状地と卓状地について 第6回：小地形1～侵食平野と堆積平野の形成と分布の特徴 第7回：小地形2～自然堤防と後背湿地の地図読解 第8回：小地形3～扇状地と土地利用の関係を地形図で読み解く 第9回：ケッペンの気候区分の基礎知識 第10回：気候因子1～気候因子とは、大気大循環について 第11回：気候因子2～恒常風と海流の分布の特徴について 第12回：南半球の気候区分の特徴について 第13回：ユーラシア大陸の気候区分の特徴について 第14回：土壌1～成帯土壌の成り方と分布の特徴について 第15回：土壌2～間帯土壌の成り方と分布の特徴について 定期試験は実施しない。				
テキスト 帝国書院編集部 編 『新詳資料 地理の研究』 帝国書院				

参考書・参考資料等

特になし。適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート：50%，毎回講義中に課すミニレポート：50%

授業科目名： 人文地理学特講 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本耕三 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 平成28年熊本地震の被災地の地理学的野外調査。高等学校学習指導要領 地理総合 2内容 C（1）自然環境と防災、および（2）生活圏の調査と地域の展望 の記述内容のバックグラウンドとなる見方・考え方を修得する。			
授業の概要 平成28年熊本地震の被災地がいかに復旧・復興したか、あるいはしなかったかについて、地理学的な野外調査を行って考察する。			
授業計画（2限連続8回） 第1回：授業内容の説明と古町地区河原町繊維問屋街の野外調査（2コマ連続） 第2回：古町地区唐人町通り以北の野外調査（2コマ連続） 第3回：古町地区唐人町通り以南かつ熊本市電A系統以東の野外調査（2コマ連続） 第4回：古町地区熊本市電A系統以西の野外調査（2コマ連続） 第5回：新町地区新鳥町商店街より南の野外調査（2コマ連続） 第6回：新町地区熊本市電B系統以西の野外調査（2コマ連続） 第7回：新町地区熊本市電B系統以東の野外調査（2コマ連続） 第8回：新鳥町商店街の野外調査およびまとめ（2コマ連続） 定期試験に代えて、レポートの作成			
テキスト 伊東維年・鹿嶋洋編『熊本地震と地域産業』日本評論社（2018）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 フィールドノート（50％）、期末レポート（50％）			

授業科目名： 自然地理学特講Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 米島万有子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：文化と自然環境 ・地理学の基礎的な知識を習得します。 ・自然環境と人間との付き合い方から生じる文化や環境問題の背景について理解を深めます。 ・多面的な視点から地域の自然環境とそこに住む人々の生活との関係性を見る力を養います。			
授業の概要 この授業では、人々の暮らしのなかで環境との関わりから生じた問題や文化について、主に日本国内の事例を取り上げ、地理学の基礎的な概念を踏まえながら解説します。事例の解説や読図作業を通じて、地理学的な視点・手法を習得するとともに、文化や環境問題を多面的に考えられるようになることを目指します。			
授業計画 第1回：地理学／自然地理学とは？ 地図の基礎 第2回：災害と文化（1）火山災害－火山による被害と恩恵 第3回：災害と文化（2）水害－水害常襲地域における先人の智慧 第4回：災害と文化（3）地震－地震による被害と民間信仰 第5回：災害と文化（4）津波－津波による被害とハード・ソフト対策 第6回：グループワークによる逃げ地図・安心安全マップ作成（1）グループ話し合い 第7回：グループワークによる逃げ地図・安心安全マップ作成（2）地図作成 第8回：逃げ地図・安心安全マップのプレゼンテーション 第9回：観光と文化（1）観光モデルと観光に関わる問題 第10回：観光と文化（2）湿地景観の保全とその活用 第11回：山の環境と文化（1）里山の変化と野生動物の問題 第12回：山の環境と文化（2）生物資源の活用と食文化 第13回：住環境と文化 感染症と景観 第14回：最終課題のプレゼンテーションと相互評価（1）Aグループ 第15回：最終課題のプレゼンテーションと相互評価（2）Bグループ			

定期試験に代えて、期末に課す最終課題の提出とその成果物のプレゼンテーション

テキスト

テキストは使用しません。授業において資料を配布します。

参考書・参考資料等

小野映介・吉田圭一郎（2021）編『みわたす・つなげる自然地理学』古今書院

上野和彦・椿真智子・中村康子編（2015）『地理学概論』朝倉書店

杉浦芳夫 編著（2012）『地域環境の地理学』朝倉書店

逃げ地図づくりプロジェクトチーム編（2019）『災害から命を守る 「逃げ地図」づくり』

ぎょうせい

このほか参考文献・参考資料は、適宜授業内で紹介します。

学生に対する評価

期末に課す最終課題とそのプレゼンテーション（70%）と各授業回に課す課題の提出、授業への積極的参加度（30%）で評価します。

課題・授業への積極的参加度は、各授業回に課す課題の提出および完成度、授業・コメントシートでの発言や作業の取り組み姿勢、中間課題（逃げ地図・安心安全マップ）の作成およびプレゼンテーション等で評価します。課題の詳細は授業で説明します。

授業科目名： 自然地理学特講Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒田圭介 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学 ・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 本講義のテーマは、中・高社会科地理分野の「地形学」に関する知識と技能を身につけ、ひいては自然災害のシステムを考え、教育現場で教えることができる人材輩出を目標とする。具体的には以下のとおりである。 1) 本邦における典型的な地形について、その分布や形成過程を知識として習得し、説明することができる。 2) 人間による土地利用の特徴や地形形成に伴う自然災害を説明することができる。 3) 技能として、国土交通省発行の地形図の読解を行うことができる。			
授業の概要 本講義では主に地形学分野を中心に提起して、講義形式で授業を行うが、教材研究活動に求められる地理学的解析の技術養成を目指して、簡単な解析作業を何度か行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス、自然地理学と自然災害科学との関係 第2回：氷河性海水準変動と地殻変動について 第3回：離水海岸1～砂州の形成と分布の特徴 第4回：離水海岸2～砂嘴・トンボロの形成と分布の特徴 第5回：海岸平野の形成と分布の特徴 第6回：三角州の形成と分布の特徴 第7回：離水海岸3～海岸段丘の形成と分布の特徴 第8回：沈水海岸1～リアス海岸・フィヨルドの形成と分布の特徴 第9回：沈水海岸2～エスチュアリの形成と分布の特徴 第10回：海溝型地震と津波について 第11回：リアス海岸のハザードマップの読図 第12回：内陸型地震と変動地形について 第13回：地形図を用いた変動地形の抽出 第14回：斜面地形とその崩壊について			

第15回：地形図を用いた地すべり跡地の地図読解 課題レポート提出
テキスト 帝国書院編集部 編 『新詳資料 地理の研究』 帝国書院
参考書・参考資料等 特になし。適宜紹介する。
学生に対する評価 期末レポート：50%，毎回講義中に課すミニレポート：50%

授業科目名： 地誌学概説 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本 耕三／黒田 圭介 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会，高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌		
授業のテーマ及び到達目標 読図や作図を通して見る地誌。中学校社会科地理的分野のバックグラウンドとなる見方・考え方を修得する。			
授業の概要 中学校社会科地理的分野⇨地誌学習と言われることがあるが、区分された地域ごとに①自然環境、②人口、③産業、④交通などを平板に列挙するのではなく、地域の特色や地域間の結びつきを理解させなければならない。そこで、地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などを通して、特色や結び付きを考察していく。			
授業計画 第1回：地誌学とは何か 第2回：農業用水の開発と農業的土地利用の変化を読む（愛知県） 第3回：産業の発達と地形の改変を読む（岐阜県） 第4回：ため池の改廃と保全を考える（兵庫県） 第5回：海岸の地形と高潮の関係を読む（岡山県） 第6回：水系図をつくる（奈良県） 第7回：土地利用図をつくる（長野県） 第8回：ハイサーグラフの作成（世界） 第9回：人口ピラミッドの作成（世界） 第10回：性比と高齢化率の散布図の作成（日本） 第11回：出荷額と販売額の散布図の作成（任意の都道府県） 第12回：日本の工業分布を考える（日本） 第13回：在日外国人の分布を考える（日本） 第14回：都市圏の人口流動を考える（任意の都道府県） 第15回：公示地価の等値線図をつくる（新潟県） 定期試験に代えて、各回の成果物の提出			
テキスト			

内田和子・寄藤昂編『地理学演習帳』古今書院（2010）
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 各回の成果物（100％）

授業科目名： 人文地理学演習Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本耕三 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 野外調査に基づいた人文地理学研究に必要な知識を得るとともに、中学校社会科地理的分野「地域の在り方」、高等学校地理歴史科地理総合「生活圏の調査と地域の展望」の授業を実施する能力を身に付ける。			
授業の概要 大学所在地を事例に、野外調査に基づいた人文地理学研究の企画・実施・まとめを行う。			
授業計画 第1回：授業内容の説明と計画立案 第2回：熊本城下町古町地区の歴史（講義） 第3回：熊本地震と熊本城下町古町地区（講義） 第4回：インターネットで得られる資料の収集 第5回：熊本県立図書館における古地図・住宅地図収集 第6回：熊本市立図書館における古地図・住宅地図収集 第7回：熊本大学附属図書館における熊本地震関係資料収集 第8回：熊本県庁における熊本地震関係行政資料収集 第9回：熊本市役所における熊本地震関係行政資料収集 第10回：収集資料の整理と野外調査の準備 第11回：古町地区での野外調査（1）熊本地震以降の土地利用変化 第12回：古町地区での野外調査（2）熊本地震以降の移転と廃業 第13回：野外調査で得られたデータの整理 第14回：野外調査で得られたデータに基づく討論 第15回：まとめ（レポートの作成）			
テキスト 伊東維年・鹿嶋洋編（2018）：『熊本地震と地域産業』日本評論社			
参考書・参考資料等 熊本日日新聞社編集局編（2016）：『熊本地震連鎖の衝撃』熊本日日新聞社			

学生に対する評価

図書館等での資料収集の参加度（25％）、野外調査の参加度（25％）、討論への参加度およびレポートの内容（50％）

授業科目名： 人文地理学演習Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本耕三 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 野外調査に基づいた人文地理学研究に必要な知識を得るとともに、中学校社会科地理的分野「地域の在り方」、高等学校地理歴史科地理総合「生活圏の調査と地域の展望」の授業を実施する能力を身に付ける。			
授業の概要 大学所在地を事例に、野外調査に基づいた人文地理学研究の企画・実施・まとめを行う。			
授業計画 第1回：授業内容の説明と計画立案 第2回：熊本城下町新町地区の歴史（講義） 第3回：熊本地震と熊本城下町新町地区（講義） 第4回：インターネットで得られる資料の収集 第5回：熊本県立図書館における古地図・住宅地図収集 第6回：熊本市立図書館における古地図・住宅地図収集 第7回：熊本大学附属図書館における熊本地震関係資料収集 第8回：熊本県庁における熊本地震関係行政資料収集 第9回：熊本市役所における熊本地震関係行政資料収集 第10回：収集資料の整理と野外調査の準備 第11回：新町地区での野外調査（1）熊本地震以降の土地利用変化 第12回：新町地区での野外調査（2）熊本地震以降の移転と廃業 第13回：野外調査で得られたデータの整理 第14回：野外調査で得られたデータに基づく討論（古町地区との相違点に留意して） 第15回：まとめ（レポートの作成）			
テキスト 伊東維年・鹿嶋洋編（2018）：『熊本地震と地域産業』日本評論社			
参考書・参考資料等 熊本日日新聞社編集局編（2016）：『熊本地震連鎖の衝撃』熊本日日新聞社			

学生に対する評価

図書館等での資料収集の参加度（25％）、野外調査の参加度（25％）、討論への参加度およびレポートの内容（50％）

授業科目名： 人文地理学演習Ⅲ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本耕三 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 地誌（地誌を含む。） ・ 人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 野外調査に基づいた人文地理学研究に必要な知識を得るとともに、中学校社会科地理的分野「地域の在り方」、高等学校地理歴史科地理総合「生活圏の調査と地域の展望」の授業を実施する能力を身に付ける。			
授業の概要 大学所在地近隣市町村を事例に、野外調査に基づいた人文地理学研究の企画・実施・まとめを行う。			
授業計画 第1回：授業内容の説明と計画立案 第2回：熊本県益城町木山地区の歴史（講義） 第3回：熊本地震と益城町木山地区（講義） 第4回：インターネットで得られる資料の収集 第5回：熊本県立図書館における古地図・住宅地図収集 第6回：ミナテラス益城町交流情報センターにおける古地図・住宅地図収集 第7回：熊本大学附属図書館における熊本地震関係資料収集 第8回：熊本県庁における熊本地震関係行政資料収集 第9回：益城町復興まちづくりセンターにじいろにおける熊本地震関係行政資料収集 第10回：収集資料の整理と野外調査の準備 第11回：益城町木山地区での野外調査（1）熊本地震以降の土地利用変化 第12回：益城町木山地区での野外調査（2）熊本地震以降の移転と廃業 第13回：野外調査で得られたデータの整理 第14回：野外調査で得られたデータに基づく討論（熊本市中心市街地とベッドタウンとの地域の性格の相違点に留意して） 第15回：まとめ（レポートの作成）			
テキスト 伊東維年・鹿嶋洋編（2018）：『熊本地震と地域産業』日本評論社			

参考書・参考資料等
熊本日日新聞社編集局編（2016）：『熊本地震連鎖の衝撃』熊本日日新聞社
学生に対する評価
図書館等での資料収集の参加度（25％）、野外調査の参加度（25％）、討論への参加度およびレポートの内容（50％）

授業科目名： 人文地理学演習Ⅳ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本耕三 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 野外調査に基づいた人文地理学研究に必要な知識を得るとともに、中学校社会科地理的分野「地域の在り方」、高等学校地理歴史科地理総合「生活圏の調査と地域の展望」の授業を実施する能力を身に付ける。			
授業の概要 大学所在地とは生活圏が異なる熊本県内を事例に、野外調査に基づいた人文地理学研究の企画・実施・まとめを行う。			
授業計画 第1回：授業内容の説明と計画立案 第2回：人吉城下町の歴史（講義） 第3回：令和2年7月豪雨と人吉城下町紺屋町通り（講義） 第4回：インターネットで得られる資料の収集 第5回：熊本県立図書館における古地図・住宅地図収集 第6回：熊本県庁における令和2年7月豪雨関係行政資料収集 第7回：熊本大学附属図書館における令和2年7月豪雨関係資料収集 第8回：収集資料の整理と野外調査の準備 第9～12回（集中講義）：人吉市紺屋町通りでの野外調査（土地利用変化（第9回）、事業所の移転（第10回）・廃業（第11回）・開業（第12回）） 第13回：野外調査で得られたデータの整理 第14回：野外調査で得られたデータに基づく討論（地震被災地との相違点に留意して） 第15回：まとめ（レポートの作成）			
テキスト 熊本日日新聞社（2020）：『特別報道写真集 令和2年熊本豪雨 大水害の記録』熊日出版			
参考書・参考資料等 人吉球磨月刊情報誌『どうぎゃん』2020年9月号以降の各号			
学生に対する評価			

図書館等での資料収集の参加度（25％）、野外調査の参加度（25％）、討論への参加度およびレポートの内容（50％）

授業科目名： 自然地理学演習Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒田 圭介 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学 ・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 地理学的な研究を進めるうえで、地図読解能力は必須技能である。また、小・中社会科ならびに高等学校地理において地図読解を伴う学習内容が設定されており、これを教授できる技能が教員には求められる。そこでこの演習では、特に本邦に典型的に分布する小地形を具体例として、地形図や空中写真を用いた地形分類の技能を習得することを目標とする。			
授業の概要 この演習では、机上作業として地図読解を行って、地形分類図やハザードマップなどの主題を作成し、その成果をもって現地調査（フィールドワーク）を行い、その図が現実とマッチしているか、演習後半に確認作業（グラントゥルース）の現地調査を実施する。			
授業計画 第1回：ガイダンス・地図記号について理解を深める 第2回：地図読解1～扇状地の土地利用 第3回：地図読解2～氾濫原の微地形分類 第4回：地図読解3～海岸平野の納屋集落と微地形の関係 第5回：地図読解4～等高線で尾根と谷を読む 第6回：地図読解5～リアス海岸と谷口平野 第7回：地図読解6～蛇行河川と三日月湖 第8回：地図読解7～洪積台地の地形分類 第9回：地図読解8～断層地形の分類 第10回：地図読解9～丘陵地における切り盛り土判読 第11回：地図読解10～城下町の地形と道路形状 第12回：現地調査の実施1～後背湿地と自然堤防の土地利用 第13回：現地調査の実施2～丘陵開発ニュータウン 第14回：現地調査の実施3～断層地形の確認 第15回：現地調査のまとめ（学内にて実施） 課題レポート提出			

テキスト なし
参考書・参考資料等 帝国書院編集部 編 『新詳資料 地理の研究』 帝国書院
学生に対する評価 毎時課題（50％），期末レポート（50％）で評価する。

授業科目名： 自然地理学演習Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒田圭介 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学 ・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 本演習では日本国内のある地域(市町村単位)を取り上げ、その地域を構成する自然環境，歴史，経済，産業等について調べ，学習し，それらをまとめて総合的に解釈することで，様々な事象を多方面から俯瞰して考えることができる「地理学的な視点」を養うことを目標とする。 地理学は「百聞は一見に如かず」の学問で，その研究・教育の現場においては現地調査(フィールドワーク)の実施に重きが置かれる。小・中学校社会科教育の現場において「社会科見学」や「修学旅行」として実施される現地調査・現地観察は，児童・生徒に新鮮な驚きや知的好奇心を与える教育方法の一つである。本講義では，地理学的な考え方を習得するとともに，調べる→実際に実地で見聞きする→驚く，という一連の経験を学生のうちに体感し，その経験をもとに効果的な社会科教育を行うことができる教員の養成を目指すことを目標とする。			
授業の概要 本演習では修学旅行や社会科見学を想定し，特に「自然環境」「土地利用」「産業」に着目して企画を行って，実際に現地調査・現地観察を行い，その学習効果を確認する。グループワークが主であるが，適宜講義も行って，知識の涵養に努める。			
授業計画 第1回：ガイダンス・フィールドワークとは？ 第2回：修学旅行の具体例を知る 第3回：事前調査1～調査地の選定 第4回：事前調査2～調査地の自然環境について調べる 第5回：事前調査3～調査地の土地利用について調べる 第6回：事前調査4～調査地の産業について調べる 第7回：事前調査発表会（グループごとに調べた内容を発表する） 第8回：企画1～観察・調査地の選定 第9回：企画2～観察・調査ルート作成 第10回：企画3～修学旅行（または社会科見学）のしおり作成 第11回：企画発表会（グループごとに企画内容を発表する）			

第12回：現地調査の実施1 第13回：現地調査の実施2 第14回：現地調査の実施3 第15回：現地調査のまとめ（学内で実施） 課題レポート提出
テキスト なし
参考書・参考資料等 なし。適宜紹介する。
学生に対する評価 毎時課題（50％），期末レポート（50％）で評価する。

授業科目名： 自然地理学演習Ⅲ 【独自科目（佐大）】		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒田 圭介
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学 ・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 本演習では、地理情報システム(GIS)を用いた自然地理学的な解析作業を行って、そのシステムの操作方法や考え方を習得し、中学校社会科・高校地理においてGISの学習を展開できる人材輩出を目標とする。				
授業の概要 本演習では、まずGISの理論を学び、次いでGISを用いて実際に主題図を作成して、その操作方法や解析方法を学ぶ。最後に、現地調査を行ってデータを収集し、それをもってGISにて主題図の作成、および解析作業を行って、実践力を養う。本演習では、デジタル機器を用いた測量を行って、GISで地形解析を実施する。				
授業計画 第1回：ガイダンス・GISとは 第2回：GISの基礎1～中・高社会科におけるGISの取り扱いについて 第3回：GISの基礎2～データの取得と表示方法、投影座標系の設定を学ぶ 第4回：GISの基礎3～主題図作成に適したデータ形式を学ぶ 第5回：GISの基礎4～オーバーレイの概念を学ぶ 第6回：GIS演習1～DEMデータで地形を読む 第7回：GIS演習2～ベクタデータの作成方法 第8回：GIS演習3～主題図の作成 第9回：スマートフォンを用いた測量方法を学ぶ 第10回：現地調査1（スケッチ、測量周辺環境の調査） 第11回：現地調査2（ハンドレベルとクリノメーターによる測量） 第12回：現地調査3（スマートフォンアプリを用いた測量） 第13回：GIS演習4～現地調査より取得データの整理 第14回：GIS演習5～DEMデータから等高線を作成する 第15回：GIS実習6～主題図、特に微地形分布の作成 課題レポート提出				

テキスト なし
参考書・参考資料等 なし。適宜紹介する。
学生に対する評価 毎時課題（50％），期末レポート（50％）で評価する。

授業科目名： 自然地理学演習Ⅳ 【独自科目（佐大）】		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒田圭介
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学 ・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 本演習では特に災害地形に着目し、その読解や地形特性を学术论文の講読や地図読解より理解して、自然災害について深い理解をもち、防災において効果的な授業を構築できる教員育成を目標とする。				
授業の概要 本演習では特に「内・外水氾濫」と「地震災害」に着目し、序盤はこれらの基礎的理解を深めるため、国内外の論文講読を行う。次に、災害地の調査法を学び、実際に被災した地域を訪れて調査・観察を行う。最後に、調査地のハザードマップの作成を行う。これらを通じて、実践力を養い、児童・生徒に対して災害大国日本で生き抜く術を教授できる教員の育成を図る。				
授業計画 第1回：ガイダンス・氾濫と地震について知る 第2回：内・外水氾濫に関する基礎知識 第3回：論文講読1～外水氾濫 第4回：論文講読2～内水氾濫 第5回：論文講読3～1999年博多駅浸水 第6回：地震被害についての基礎知識 第7回：論文講読4～東日本大震災 第8回：論文講読5～熊本地震 第9回：論文講読6～福岡西方沖地震 第10回：現地調査1～博多駅とその周辺（御笠川越水） 第11回：現地調査2～博多ふ頭（地震被害） 第12回：現地調査3～玄海島（地震被害） 第13回：現地調査のまとめ（学内で実施） 第14回：博多駅周辺の浸水リスクマップの作成 第15回：リスクマップの発表会、まとめ 課題レポート提出				

テキスト なし。
参考書・参考資料等 なし。適宜紹介する。
学生に対する評価 毎時課題（50％），期末レポート（50％）で評価する。

授業科目名： 地理学調査実習 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本耕三 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 地理学の調査法のいくつかを修得し、自分で調査できるようになる。			
授業の概要 泊程度の日程で実地調査（フィールドワーク）を行う。災害の被災地等現地にて、文献調査、聞き取り調査を行う。			
授業計画（集中講義、4日間、1日あたり授業4回相当） 第1日：現地調査の予備調査（主として図書館・資料館等での文献調査）と反省会（4コマ連続） 第2日：現地調査の本調査（聞き取り調査以外の調査）と反省会（4コマ連続） 第3日：現地調査の本調査2日目（聞き取り調査）の実施と反省会（4コマ連続） 第4日：現地調査の補足調査の実施と反省会（4コマ連続） 定期試験に代えて、レポートの作成			
テキスト 正井泰夫・小池一之編『卒論作成マニュアル よりよい地理学論文作成のために』古今書院（1994）			
参考書・参考資料等 授業前に必要な資料を配布する。			
学生に対する評価 フィールドノート（50%）、期末レポート（50%）			

授業科目名： 法律学概説 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉岡 剛彦 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 法律学、政治学 ・ 法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 法律学（国際法を含む）の基本事項を講ずる。受講者が、社会における具体的な法的諸問題を考えることを通して、法概念・法知識・法思考のエッセンスを修得することを目標とする。本講義では、刑法を含めた公法や、私法（民法）の基本を理解した上で、その知識を応用しながら、交通事故という具体的事象に含まれた法的問題をみずから解析できることを目指す。			
授業の概要 本講義では、担当教員が、出来るだけ具体的な社会問題を取り上げつつ、そこに含まれている法的論点を解説する。法と道德の比較、いじめ問題など学校現場における法や人権のあり方、裁判員制度を念頭に置いた法教育に触れながら、憲法・刑法・民法の基礎知識を習得する。その上で学期後半では、交通事故という身近で具体的な問題を取り上げ、刑法や民法に関する法的知識を応用しつつ考察する。講義を通じて、法の基本的な考え方や仕組みにつき、受講学生に馴染んでもらうと共に、個々の問題とそれに対する（法的）対処を共に考える。			
授業計画 第1回：イントロダクション（学校／教育と法とのかかわり） 第2回：法とは何か（1）法の特質、法と道德、法と強制 第3回：法とは何か（2）法的正義（正義論の諸祖） 第4回：憲法と人権（1）立憲主義、世界人権宣言・国際人権規約 第5回：憲法と人権（2）教育を受ける権利、教育基本法、いじめ問題（いじめ防止対策推進法） 第6回：刑法の基礎（1）犯罪と刑罰、罪刑法定主義 第7回：刑法の基礎（2）刑事裁判、裁判員制度と法教育 第8回：刑法の基礎（3）死刑制度をめぐる（存廃論議、日米比較、死刑廃止条約） 第9回：民法の基礎（1）民法総論、契約とその成立、債権法、不法行為法（損害賠償） 第10回：民法の基礎（2）家族法、ジェンダーと法（憲法24条、女性差別撤廃条約） 第11回：交通事故の法的問題（1）交通事故の現状（少なくとも子どもの犠牲など） 第12回：交通事故の法的問題（2）刑法的側面：危険運転罪など交通事犯厳罰化 第13回：交通事故の法的問題（3）民法的側面：被害者からの損害賠償請求（法定利率など）			

第14回：交通事故の法的問題（4）クルマ社会と自然・生活環境の破壊（気候変動枠組み条約など）

第15回：学期全体のまとめ—リーガル・マインドとは何か？

課題レポート提出

テキスト

担当者のほうで、各单元（テーマ）ごとに講義資料を準備・配付する。

参考書・参考資料等

田中成明『法学入門〔第3版〕』（有斐閣、2023年）

西原博史・斉藤一久『教職のための憲法入門〔第3版〕』（弘文堂、2024年）

初宿正典ほか著『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』（有斐閣、2020年）

学生に対する評価

成績評価は、到達目標（法的諸問題に関する法概念・法知識・法思考の修得）を評価基準としつつ、講義内容に対する理解度を問う課題レポートによって行なう。また、授業において不定期にミニ・レポート用の用紙を配布し、それに授業に関する質問・意見・批判などを書いて提出してもらい、平常点（出席点）として加点する。

授業科目名： 法律学特講 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉岡 剛彦 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 法律学（国際法を含む）について、特に「憲法・人権」を基軸に講ずる。憲法の本質（立憲主義）ならびに、様々な人権侵害事例を学んで内情を理解し、社会生活における不正義（人権や人格の侵害・蹂躪）に対する感受力（センシビリティ）を鋭敏化することを目標とする。			
授業の概要 憲法の基本理念・基礎知識について説明した上で、社会的に不利な立場にある人々（マイノリティ）の「人権」をめぐる法的論点や社会状況について講ずる。			
授業計画 第1回：憲法と人権（立憲主義と人権保障、公共の福祉） 第2回：人権が侵害されるとき（1）部落問題（水平社や“特殊部落”を含めた歴史と現在） 第3回：同上（2）ハンセン病問題（国家的人権蹂躪の実相） 第4回：同上（3）優生保護法（優生思想・優生政策の国内外における歴史と現状） 第5回：障害者の人権（1）国内法・国際法における「障害者」観の深化、障害者権利条約 第6回：同上（2）障害者の「自立」をめぐる諸思想、障害者差別解消法と合理的配慮 第7回：外国人の人権（1）人権享有主体、国際人権規約（内外人平等待遇の原則） 第8回：同上（2）在日コリアンの歴史と人権、定住外国人への地方参政権 第9回：信仰と人権（宗教的少数者、信仰を理由とした医療拒否〔親権停止〕） 第10回：ジェンダーと人権（1）女性の社会参加、女性差別撤廃条約と男女雇用機会均等法 第11回：同上（2）男女共同参画社会基本法、育児介護休業法、クォータ制（割当制） 第12回：同上（3）性的少数者（LGBTQ+）の人権、同性婚法制化の国際情勢 第13回：社会権（1）日本社会における貧困の現状（子どもの貧困を含む）とその要因 第14回：同上（2）生存権と生活保護制度 第15回：学期全体のまとめ—人権侵害への感受性・想像力を高めること 定期試験			
テキスト			

辻村みよ子『人権をめぐる十五講——現代の難問に挑む』（岩波書店、2013年）

参考書・参考資料等

棟居快行ほか『基本的人権の事件簿〔第7版〕』（有斐閣、2024年）

申恵丰『私たち一人ひとりのための国際人権法入門』（影書房、2024年）

学生に対する評価

成績評価は、到達目標（立憲主義ならびに人権問題への理解）を評価基準としつつ、基本的に学期末の定期試験（論述式）によって行なう。また、授業において不定期にミニ・レポート用の用紙を配布し、それに授業に関する質問・意見・批判などを書いて提出してもらい、平常点（出席点）として加点する。

授業科目名： 政治学概説Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿部 悠貴
【独自科目（熊大）】			担当形態： 単独
科 目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 現代政治で見られる様々な現象を理解することを狙いとしている。新聞などで聞く話を十分に理解できるだけでなく、自分で分析し、どのような因果関係があるのか発見できるようになることが最終目的である。			
授業の概要 今日の世界で起きる様々な政治問題を取り上げて検討していく。現代世界の状況を理解し、なぜアメリカではトランプ政権が誕生したのか、なぜイギリスはEUから離脱したのかといった問題を国内、国際の両面から検討していく。			
授業計画 第1回：イントロダクション 保守－「革新」とは 第2回：第二次世界大戦後の国際政治経済体制 第3回：日米貿易摩擦から日本のバブル経済へ 第4回：FTAをめぐる議論 第5回：EUの政治（1）：誕生 第6回：EUの政治（2）：発展 第7回：EUの政治（3）：現状 第8回：ネオリベラル制度論 第9回：現代世界の特質 イラク戦争を事例に 第10回：アメリカの政治 大統領選挙を事例に 第11回：ポピュリズムとは何か 第12回：リーマンショック 100年に一度の危機はなぜ起きたか 第13回：イギリスの政治 EU離脱を事例に 第14回：日本の政治 選挙制度改革後の時代 第15回：総括 これまでの授業を振り返って 定期試験 テキスト			

西山隆行、向井洋子（編）『図録 政治学』弘文堂、2023年
参考書・参考資料等
随時提示する
学生に対する評価
定期試験（80％）、小テスト（20％）

授業科目名：政治学概説Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 朝倉 拓郎 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 現在、日本社会は様々な困難な問題に直面している。民主主義の社会においては、これらの問題を解決して住みよい社会を実現するか、あるいは問題の解決に失敗して住みにくい社会になるかは、主権者である我々市民の力量にかかっている。本講義の目的は、我々が主権者としての力量を高めるために必要不可欠な政治的教養を身につけることにある。 ＜到達目標＞ ①政治を理解するための基本的概念と歴史的知識を身につけ、説明できる。 ②過去の歴史的経緯をふまえた上で、現在直面している政治的諸問題について考察し、自分なりの意見を持って説明できる。			
授業の概要 本講義の内容は、以下の三つのパートからなる。 ①政治の概念：政治を理解し、政治について議論する上で重要な概念をいくつか取り上げ、その概念の歴史的背景と意義について学ぶ。 ②戦後日本の政治：戦後の日本の政治状況がどのように形成されたのかを学ぶ。 ③現代政治の諸問題：現在我々が直面している政治的課題について、上記の議論をふまえて考察する。			
授業計画 第1回：イントロダクション：講義の概要と受講上の注意 第2回：政治の概念（1）：「主権国家」「国民国家」 第3回：政治の概念（2）：「公共性」「法」 第4回：政治の概念（3）：「民主主義」と多数決 第5回：政治の概念（4）：「権力」とその抑制 第6回：戦後日本の政治（1）：占領期の日本 第7回：戦後日本の政治（2）：安保改定と高度成長 第8回：戦後日本の政治（3）：沖縄返還 第9回：戦後日本の政治（4）：55年体制の崩壊			

第10回：戦後日本の政治（5）：ポスト55年体制
第11回：現代政治の諸問題（1）：安全保障問題
第12回：現代政治の諸問題（2）：格差・貧困問題
第13回：現代政治の諸問題（3）：日本の選挙とその課題
第14回：現代政治の諸問題（4）：科学技術と政治
第15回：現代政治の諸問題（5）：地域自治の課題と可能性
定期試験

テキスト

テキストは指定しない。毎回資料を配付する。

参考書・参考資料等

参考書は、毎回配布する資料の中で紹介する。

学生に対する評価

試験（80%）＋小レポート（20%）によって評価する。

授業科目名： 政治学特講Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿部 悠貴
【独自科目（熊大）】			担当形態： 単独
科 目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 冷戦後に起きた紛争・戦争を考察することで、現代世界の特徴を理解する。授業で取り扱う内容を説明できるようになることが最低限の目標であるが、それだけではなくそれぞれの紛争・戦争にはいかなる背景があるのか、そこから自分でインプリケーションを引き出せるようになることが最終目的である。			
授業の概要 冷戦後に起きた紛争、１９９０年代に見られた人道的介入、２０００年代以降の対テロ戦争について考察する。加えて近年起きたウクライナ戦争、ガザをめぐるイスラエル・パレスチナ問題についても検討していく。			
授業計画 第１回：イントロダクション（冷戦後の世界について） 授業の進め方 第２回：国連の集団安全保障システム 第３回：湾岸戦争 第４回：カンボジア内戦 第５回：ソマリア内戦 第６回：ルワンダ内戦 第７回：ボスニア内戦 第８回：コソヴォ内戦 第９回：アフガニスタン戦争 第１０回：イラク戦争 第１１回：イスラエル・パレスチナ問題 第１２回：オスロ合意以後の問題 第１３回：アラブの春、シリア情勢 第１４回：ウクライナ戦争 第１５回：現代世界の特徴は何か			
テキスト			

小松志朗『人道的介入 秩序と正義、武力と外交』早稲田大学出版部、2014年
参考書・参考資料等
随時提示する
学生に対する評価
定期試験（80％）、小テスト（20％）

授業科目名：政治学特 講Ⅱ 【独自科目（佐大）】		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 朝倉 拓郎 担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 現在我々は様々な政治的、社会的課題に直面しているが、それらの課題を政治思想の知的伝統の中に位置づけて理解することを通じて、我々が抱えている課題の何が問題であるかを適切に言語化し、その課題を解決するための道筋を構想する力を養う。 ＜到達目標＞ ①政治思想の基礎的な概念を理解し、それを説明できる。 ②思想家たちが直面した課題を歴史的な背景をふまえて理解し、それを説明できる。 ③自分たちの社会が抱えている政治的課題について、政治思想の知識をふまえて理解し、他者と議論できる。				
授業の概要 本講義では、西洋政治思想の基礎知識を学ぶ。具体的には、政治思想の発展に大きな影響を与えた思想家を取り上げて、その著作（いわゆる古典）を解説していくが、その際にたんに結論だけを紹介するのではなく、彼らが具体的にどのような問題に直面し、それに対してどのようなアプローチで答えようとしたのかという思索のプロセスに重点を置いて説明する。また、学生どうして討論する時間を設け、現在の政治問題を政治思想の観点から分析し、解決策について議論する。				
授業計画 第1回：イントロダクション：講義の概要と受講上の注意 第2回：古代ギリシャの政治思想（1）：アテナイの民主政 第3回：古代ギリシャの政治思想（2）：アリストテレス 第4回：キリスト教と政治思想（1）：原始キリスト教 第5回：キリスト教と政治思想（2）：トマス・アキナス 第6回：ルネサンス期の政治思想（1）：ルネサンス期のイタリア 第7回：ルネサンス期の政治思想（2）：マキアヴェッリ 第8回：討論（1）：政治と道徳 第9回：近代の政治思想（1）：宗教改革の影響 第10回：近代の政治思想（2）：ホッブズ				

第11回：近代の政治思想（3）：ロック

第12回：民主化時代の政治思想（1）：トクヴィル

第13回：民主化時代の政治思想（2）：J.S.ミル

第14回：現代の政治思想：ロールズ

第15回：討論（2）：民主主義と多様性

定期試験

テキスト

テキストは指定しない。毎回資料を配付する。

参考書・参考資料等

参考書は、毎回配付する資料の中で紹介する。

学生に対する評価

試験（80%）＋小レポート（20%）によって評価する。

授業科目名： 法学演習Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉岡 剛彦 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標			
法律学（国際法を含む）に関して、法学演習Ⅰでは〈家族・結婚・ジェンダー〉（国際法・国際比較を含む）を主題として講義ならびに討論を行なう。学習指導要領「中学校社会科（公民分野）」が規定するところの、〈両性の本質的平等〉や〈持続可能な開発目標（SDGs）〔目標5：ジェンダー平等を実現しよう〕〉に関連する内容となる。家族法をはじめ家庭生活に関わる諸法の内容やその問題点を理解するとともに、参考文献の探索・要約を行なって講義内で報告し、それに基づいて意見表明・相互討論するスキル（特定のテーマについて、その内容や論点を調査・整理・検討・発表する能力）を修得することを目標とする。			
授業の概要			
「家族・結婚・ジェンダーをめぐる法」に関するテキストを指定し、講読する。各回の授業は、家族をめぐる諸問題の一つをテーマに設定し、担当学生が、指定テキストをはじめ関連文献を調査のうえ、その内容を授業前半において報告し、それを基にして参加学生全員で検討・討議する。			
授業計画			
第1回：イントロダクションー家族と法の関わり、ジェンダーとは何か？			
第2回：結婚の現在（1）家族・結婚の過去・現在（「家」制度、専業主婦世帯と共働き世帯）			
第3回：同上（2）晩婚化・非婚化と少子化、新専業主婦志向			
第4回：家族法（1）結婚・離婚にかかわる民法の諸規定とその問題点			
第5回：同上（2）夫婦の姓ー夫婦別姓論議、法律婚／事実婚			
第6回：同上（3）離婚後の共同親権、など			
第7回：男女共同参画（1）女性と男性の育児休業取得率の隔差、男性の家事・育児の促進			
第8回：同上（2）ノルウェー等におけるパパ・クォータ制（父親の育休取得の義務づけ）			
第9回：DV防止法（1）ドメスティック・バイオレンス防止法の内容と課題			
第10回：同上（2）若年世代における「デートDV」とその防止策			
第11回：ハーグ条約（1）国際結婚の増加とその背景、国際結婚をめぐる法律問題			
第12回：同上（2）国際結婚カップルの離婚と、国外への「子どもの連れ去り」			
第13回：同性婚（1）性的少数者（性〔SOGI〕）の多様性、LGBTQ+の人権			
第14回：同上（2）同性婚合法化へ向かう世界と、日本における法制化の可能性			

第15回：学期全体のまとめ—変わりゆく「家族のカたち」に法はいかに対応しうる／すべきか

テキスト

犬伏由子ほか『レクチャージェンダー法〔第2版〕』（法律文化社、2021年）

参考書・参考資料等

三成美保ほか『ジェンダー法学入門〔第3版〕』（法律文化社、2019年）

辻村みよ子『概説ジェンダーと法〔第2版〕』（信山社、2016年）

学生に対する評価

各回ごとにレポートの提出を求める。このレポートには、（1）当該回のテーマについて指定テキストを読んで自分なりに検討した結果（見解）を記すとともに、（2）前回の授業での報告・討論を受けて前回のテーマについて自分なりに再検討した結果（見解）を書くものとする。さらに、学期末には、各参加者ごとに特定のテーマを選定し、独自の調査を付加して、3,000字程度のレポート提出を課する。成績評価は、これらのレポートと、毎回のゼミにおける出席・報告・発言など、平素のゼミ参加態度を総合的に勘案して行なう。

授業科目名： 法学演習Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉岡 剛彦 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標			
法律学（国際法を含む）に関して、法学演習Ⅱでは〈責任論〉（国際法・国際政治を含む）を主題として講義ならびに討論を行なう。学習指導要領「中学校社会科（公民分野）」が規定するところの、〈自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識〉する観点に立脚しつつ、〈社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代社会と関連づけて多面的・多角的に考察〉することを目的とする。さまざまな事案・水準における法的／倫理的な責任が論議されるテーマを取り上げ、参考文献の探索・要約を行なって講義内で報告し、それにもとづいて意見表明・相互討論するスキル（特定のテーマについて、その内容や論点を調査・整理・検討・発表する能力）を修得することを目標とする。			
授業の概要			
法的／倫理的責任を論じた（複数の）テキストを指定し、講読する。担当学生が、指定テキストをはじめ関連文献を調査のうえ、その内容を授業前半において報告し、それを基にして参加学生全員で検討・討議する。			
授業計画			
第1回：イントロダクションー責任を引き受ける（引き受けさせる）条件とは？			
第2回：責任論の基礎（1）法的責任ー自由意志と責任主義、責任無能力（刑法39条）など			
第3回：同上（2）倫理的責任ー完全義務／不完全義務の区別など			
第4回：故意・過失の認識なき責任（1）無過失責任（公害法、PL法など）			
第5回：同上（2）学校・教師による自然災害リスクの予見性（大川小津波訴訟）			
第6回：同上（3）信仰を理由とした医療拒否と「保護責任者遺棄罪」			
第7回：集団としての責任（1）日本の「昭和の戦争」と戦争責任論の展開			
第8回：同上（2）第二次大戦後の（西）ドイツにおける戦争責任との対峙			
第9回：同上（3）「戦後責任」、一戦後世代は戦争（責任）といかに向き合うか？			
第10回：AI時代の責任（1）自動運転車による交通事故時の責任の所在			
第11回：同上（2）情報操作（ディープフェイク等）による誤認にもとづく行為の責任			
第12回：同上（3）AI（アルゴリズム／アーキテクチャ）による意思形成の支援／操作			

第13回：自由意志・自己決定の問いなおし（1）責任主義と偶然性、「運」の議論（運の平等論）

第14回：同上（2）自己決定する「自己」は真に自由たりうるか（責任を取りうるか）？

第15回：学期全体のまとめ—これまでの／これからの責任（論）の変遷・変容

テキスト

瀧川裕英編『もっと問いかける法哲学』（法律文化社、2024年）

飯孝行編『子どもたちの命と生きる——大川小学校津波事故を見つめて』（信山社、2023年）

山田朗『日本の戦争：歴史認識と戦争責任』（新日本出版社、2017年）

西垣通・河島茂生『AI倫理——人工知能は「責任」をとれるのか』（中央公論社、2019年）

参考書・参考資料等

大塚直・米村滋人『多様なリスクへの法的対応と民事責任』（商事法務、2024年）

学生に対する評価

各回ごとにレポートの提出を求める。このレポートには、（1）当該回のテーマについて指定テキストを読んで自分なりに検討した結果（見解）を記すとともに、（2）前回の授業での報告・討論を受けて前回のテーマについて自分なりに再検討した結果（見解）を書くものとする。さらに、学期末には、各参加者ごとに特定のテーマを選定し、独自の調査を付加して、3,000字程度のレポート提出を課する。成績評価は、これらのレポートと、毎回のゼミにおける出席・報告・発言など、平素のゼミ参加態度を総合的に勘案して行なう。

授業科目名： 法学演習Ⅲ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉岡 剛彦 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 法律学（国際法を含む）について、法学演習ⅢとⅣでは〈“いのち”をめぐる法と生命倫理〉を統一テーマとして設定するが、Ⅲでは、特に「人が〈生まれること／生きること〉をめぐる法」を基軸として講義ならびに討論を行なう。学習指導要領「中学校社会科（公民分野）」が規定するところの、〈対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義〉の視点、とりわけ〈基本的人権の尊重〉を基板としながら、妊娠中絶や生殖補助医療、出生前診断などを取り上げ、生命倫理や応用倫理に関わる諸法の内容やその問題点を理解する。その際、参考文献の探索・要約を行なって講義内で報告し、それにもとづいて意見表明・相互討論するスキル（特定のテーマについて、その内容や論点を調査・整理・検討・発表する能力）を修得することを目標とする。			
授業の概要 生命倫理に関するテキストを指定し、講読する。各回の授業は、人が〈生まれること／生きること〉をめぐる諸問題の一つをテーマに設定し、担当学生が、指定テキストをはじめ関連文献を調査のうえ、その内容を授業前半において報告し、それを基にして参加学生全員で検討・討議する。			
授業計画 第1回：イントロダクション—人の誕生をめぐる法と倫理 第2回：妊娠中絶（1）日本における中絶の歴史と現状、人工妊娠中絶に関する法制度 第3回：同上（2）アメリカなど諸外国の中絶に関する法制度と、賛否の社会的議論と背景 第4回：同上（3）女性の選択権 v s 胎児の生命権の対立図式は超えられるか？ 第5回：赤ちゃんポスト（1）熊本・慈恵病院「こうのとりのゆりかご」設置前後の経緯 第6回：同上（2）諸外国の同種施設、匿名での預け入れは安易な子捨てを助長するか？ 第7回：出生前診断（1）出生前診断とは何か（診断技術の発達と、国内外の関連法制） 第8回：同上（2）法的・倫理的論点（胎児の「障害」を理由とした中絶の是非など） 第9回：同上（3）新型出生前診断の普及は何をもたらすか？ 第10回：同上（4）遺伝子を選ばれた「デザイナーベビー」、遺伝子差別の未来？ 第11回：生殖補助医療（1）不妊症カップルの苦悩と苦闘 第12回：同上（2）生殖補助技術（不妊治療）—人工授精、体外受精、代理出産			

第13回：同上（3）生殖補助医療に対する国内外の法規制の比較法的検討

第14回：同上（4）日本でも代理出産を合法化すべきか、精子・卵子売買ビジネス

第15回：学期全体のまとめ—生命操作の限界をどこに定めるか？

テキスト

玉井真理子ほか『はじめて出会う生命倫理』（有斐閣、2011年）

小林亜津子『看護のための生命倫理（改訂版）』（ナカニシヤ出版、2010年）

参考書・参考資料等

葛生栄二郎ほか『新・いのちの法と倫理』（法律文化社、2009年）

金子章道ほか『学生と考える生命倫理』（ナカニシヤ出版、2014年）

小笠原信之『どう考える？生殖医療——体外受精から代理出産、受精卵診断まで』（緑風出版東京大学出版会、2005年）

玉井真理子ほか『出生前診断とわたしたち——「新型出生前診断」（NIPT）が問いかけるもの』（生活書院、2014年）

学生に対する評価

各回ごとにレポートの提出を求める。このレポートには、（1）当該回のテーマについて指定テキストを読んで自分なりに検討した結果（見解）を記すとともに、（2）前回の授業での報告・討論を受けて前回のテーマについて自分なりに再検討した結果（見解）を書くものとする。さらに、学期末には、各参加者ごとに特定のテーマを選定し、独自の調査を付加して、3,000字程度のレポート提出を課する。成績評価は、これらのレポートと、毎回のゼミにおける出席・報告・発言など、平素のゼミ参加態度を総合的に勘案して行なう。

授業科目名： 法学演習Ⅳ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉岡 剛彦 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 法律学（国際法を含む）について、法学演習ⅢとⅣでは〈“いのち”をめぐる法と生命倫理〉を統一テーマとして設定するが、Ⅳでは、特に「人が〈死ぬこと／死なせること〉をめぐる法」を基軸として講義ならびに討論を行なう。学習指導要領「中学校社会科（公民分野）」が規定するところの、〈対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義〉の視点、とりわけ〈基本的人権の尊重〉を基板としながら、安楽死／尊厳死や死刑などを取り上げ、生命倫理や応用倫理に関わる諸法の内容やその問題点を理解する。その際、参考文献の探索・要約を行なって講義内で報告し、それにもとづいて意見表明・相互討論するスキル（特定のテーマについて、その内容や論点を調査・整理・検討・発表する能力）を修得することを目標とする。			
授業の概要 生命倫理に関するテキストを指定し、講読する。各回の授業は、人が〈死ぬこと／死なせること〉をめぐる諸問題の一つをテーマに設定し、担当学生が、指定テキストをはじめ関連文献を調査のうえ、その内容を授業前半において報告し、それを基にして参加学生全員で検討・討議する。			
授業計画 第1回：イントロダクションー「死の自己決定権」は認められるか？ 第2回：安楽死・尊厳死（1）安楽死と尊厳死の定義（区別）、積極的安楽死とは何か 第3回：同上（2）安楽死を合法化したオランダの経緯と現状、日本での裁判例 第4回：同上（3）尊厳死とは何か、リビングウィル、日本における「尊厳死法」論議 第5回：同上（4）安楽死・尊厳死をめぐる法的・倫理的論点（安楽死のススメになる恐れ等） 第6回：脳死臓器移植（1）日本における「脳死」論議と、脳死臓器移植法の制定と改定 第7回：同上（2）脳死／臓器移植の論点、臓器移植を求めている医療ツーリズムと国際的規制 第8回：死刑制度（1）日本における死刑の現状と論議 第9回：同上（2）死刑廃止条約、アメリカにおける死刑の現状と議論（陪審制との関連） 第10回：同上（3）死刑の諸論点（冤罪、国際世論、遺族の応報感情、犯罪抑止効果の有無） 第11回：同上（4）市民が「死刑」を言い渡すかもしれない「裁判員制度」時代の死刑 第12回：食肉生産（1）大規模工場生産化する食肉業、ケガレ視されてきた屠畜（部落差別）			

第13回：同上（2）動物愛護思想の高まりや「動物の権利」論（動物倫理学）

第14回：同上（3）学校における動物を「自分で育てて殺して食べる」授業の意義と課題

第15回：学期全体のまとめ—ひとつの〈死〉をめぐって交錯する自己と他者

テキスト

玉井真理子ほか『はじめて出会う生命倫理』（有斐閣、2011年）

小林亜津子『看護のための生命倫理（改訂版）』（ナカニシヤ出版、2010年）

参考書・参考資料等

葛生栄二郎ほか『新・いのちの法と倫理』（法律文化社、2009年）

金子章道ほか『学生と考える生命倫理』（ナカニシヤ出版、2014年）

小笠原信之『許されるのか？安楽死——安楽死・尊厳死・慈悲殺』（緑風出版、2003年）

一ノ瀬正樹『死の所有——死刑・殺人・動物利用に向きあう哲学』（東京大学出版会、2011年）

学生に対する評価

各回ごとにレポートの提出を求める。このレポートには、（1）当該回のテーマについて指定テキストを読んで自分なりに検討した結果（見解）を記すとともに、（2）前回の授業での報告・討論を受けて前回のテーマについて自分なりに再検討した結果（見解）を書くものとする。さらに、学期末には、各参加者ごとに特定のテーマを選定し、独自の調査を付加して、3,000字程度のレポート提出を課する。成績評価は、これらのレポートと、毎回のゼミにおける出席・報告・発言など、平素のゼミ参加態度を総合的に勘案して行なう。

授業科目名： 政治学演習Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿部 悠貴 担当形態： 単独
科 目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 演習では学生の積極的な発言が求められる。毎回課題文献を読み、独自の見解を報告することが求められる。それを踏まえ社会科公民分野及び公民科の指導内容に関わる自分の研究を深めていくことが狙いである。			
授業の概要 社会科公民分野及び公民科の指導に関連する大学一年生向けの内容を心がけ、現代性の特徴を一つ一つ検討していく。			
授業計画 第1回：イントロダクション 演習の進め方について 第2回：西山、向井（編）『図録 政治学』第1章、2章、3章 第3回：西山、向井（編）『図録 政治学』第4章、6章 第4回：西山、向井（編）『図録 政治学』第7章、8章 第5回：西山、向井（編）『図録 政治学』第9章、10章、11章 第6回：これまでの内容をもとに受講生の発表（1）（現代の政治の特徴について） 第7回：これまでの内容をもとに受講生の発表（2）（問題解決のための提言） 第8回：西山、向井（編）『図録 政治学』第12章、13章 第9回：西山、向井（編）『図録 政治学』第14章、15章 第10回：西山、向井（編）『図録 政治学』第16章、17章、18章 第11回：西山、向井（編）『図録 政治学』第19章、20章 第12回：西山、向井（編）『図録 政治学』第21章、22章 第13回：西山、向井（編）『図録 政治学』第23章、24章 第14回：西山、向井（編）『図録 政治学』第25章、26章、27章 第15回：受講生の報告、全体の総括 定期試験			
テキスト 西山隆行、向井洋子（編）『図録 政治学』弘文堂、2023年			

参考書・参考資料等
随時提示する
学生に対する評価
最終レポート（60％）、毎回の発言、貢献度（40％）